

きて兵馬使とし知縣事を兼ねしむ世宗王兵馬使を改めて僉節制使とし後ち更に縣監に改め近世郡と爲す

郡勢 本郡は本道南部の東海岸に位置し北は興海郡に、西は慶州郡に、南は長鬐郡に接し東は日本海に面す北及び西は竹林山脈竝に兄山山脈連亘して郡界を爲し南部亦丘陵起伏し耕地總面積千四百五十町歩に過ぎざるも中部沿岸地方殊に兄山江流域は地味肥沃にして最も農耕に適す米産額は郡の需用を充たすに止まるも大豆の産額は多大にして質亦良好なり住民は農を業とするも沿海地方は漁撈又は製鹽に従事するもの多し郡内戸數四千三百七十餘、人口二萬四千八百五十餘あり産物は大豆、麥、米、鱈、鱒、鱒其他の魚類及び鹽にして近海鯨族の來遊夥しく斯業者の珍重する好漁場なり

延日邑 別名を烏川と云ふ郡の北部に在りて兄山江に蒞み附近地味肥へ農耕に適す浦項より海路釜山に出る水路と慶州より永川を経て大邱に通ずる陸路とを重なる交通路とす邑民は専ら農を業とし大豆及び米穀を産す郡廳、憲兵分遣所郵便所在り邑は高麗の忠臣鄭夢周の出生地なり

浦項 郡の北部迎日灣の西北、兄山江の河口より一湮の上流に在り西北に山を負ひ南に平野を控へ氣候温暖にして風景に富めり灣は東北に向て突出せる冬外串一名米か鼻と、興海郡の遼萬岬と相對して成せるものにして釜山を距る九十里なり灣口東北に開き水深く内廣く大船を容るるに足るも風波を避くるの便なく且つ兄山江土砂を灣内に注下し逐年水深を減するの缺點あるも東海岸に於ける重なる一港灣なり此地兄山江流域に於ける物資集散の要路に當り陸路慶州、長鬐、延日、興海諸邑に通し沿海航行汽船の寄港地たり商況活潑にして就中水産物の取引頗る盛なり物資は釜山より移入し金融は一に釜山によりて支配せらる朝鮮人戸數四百人口二千餘、内地人三百五十餘人居住す産物は大豆、米、牛皮、鱈、鱒、鱒、鮑等なり税關監視署、學校組合、巡查駐在所、農工銀行支店、小學校、魚市場等在り

傳へ曰ふ太古烏郎烏女の二神海濱に藻狩中烏女の姿を見失へり烏郎其後東島に烏女の漂著せるを聞き慕ふて其島に入りしより天地晦冥となりしかは民人其歸郷を希ふこと切なれども果さず因て絹帛を贈り必ず奉祀すへきこ



とを誓ひ漸くにして二神を迎ふるを得たり即ち之を日月面日月池に祀り天地始めて舊に復したり迎日灣の義此由來に起因す

**神皇社** 神功皇后三韓征伐の時皇軍迎日灣より上陸せりとの傳説に因り明治四十一年十二月神皇社を浦項里に創建し皇靈を祀れり

第三十節 開寧郡

**沿革** 本と甘文小國の地にして新羅之を取り真興王青州と改め軍主を置く真平王に至り州を廢し文步王甘文郡を置き景德王開寧と改稱す高麗顯宗王の時尙州に屬し明宗王監務を置く李朝太宗王縣監に改め近世に至り郡とす

**郡勢** 本道の西南部に位置し東は仁同郡に南は星州郡に接し西は金山郡に西北は尙州郡に北東は善山郡に隣す金烏山、白馬山の峻峰高く東南部に聳立し餘脈郡の東部に重疊し西北部尙州、金山兩郡界亦一帯に峯巒交錯し大體に於て山地七分、平野三分の割合なり甘川の流れ西方金山郡より來り郡の略々中部を東北に斜走し善山郡に入る地味は概して瘠薄ならず殊に甘川及び其支流に沿へる一帯の地は土地肥沃なるも降雨の都度土砂を流して河床を高くするか故に年

年歳々氾濫して耕作地に砂石を侵入せしめ其結果漸く水田の面積を減する状態なり道路は郡邑を中心として四方各郡に通するも西方金泉驛に至るもの及び東方善山郡に達するもの外は途上險惡にして來往不便なり京釜鐵道郡の南部を通し交通運輸を助く電信電話の機關は未だ設けられず住民は殆んど農を以て生業とし性質温順なりと雖も一般に進取の氣に乏しく放縱怠惰にして勤儉の風を缺き貧富の懸隔甚たしく少數者を除くの外概ね生計困難なり郡内産物の重なるものは米、麥、大豆、雜穀、棉花、蔬菜、蓆、鎗器、陶器とす朝鮮人戸數五千三百餘、人口二萬八千五百餘、内地人六十餘人居住す

**開寧邑** 郡の西北部富谷面に在り西二里餘にして京釜線金泉驛に達すへく東北三里餘にして善山邑に通す道路は堤防工事の不完全なるか爲め雨期には河水氾濫するも概して平坦なるか故に人車を通するを得其他金烏山驛、尙州、仁同各邑及び洛東等に通するものあるも阪路多く車馬を通せず邑民は大部分農業に従事し一般に遊惰にして稍々奢侈の風あり生計困難にして漸次人家減少の傾向あり商業は特記するに足るものなし産物は郡に同じ邑内住民二百八十餘戸



一千三百餘人あり郡廳郵便所巡査駐在所私立普通學校等在り

**金鳥山驛** 釜山を距る百五哩京釜線の一驛にして海拔六百呎ありて京釜線中第二の高地たり四面峻嶺に包まれ茅舎山隈に據り頗る荒寥なれども嶺南有数の古驛として扶桑驛の名夙に知らる曩時鐵路未だ通せざる時は人馬の來往繁く頗る繁盛を極めたりき現に朝鮮人戸數百餘人口約五百内地人十四戸四十人居住す憲兵分遣所巡査駐在所在り

**金鳥山** 驛の前面に屹立する高峯是れなり山頂に平地あり周圍約一里岩石を以て城壁を作る四面は斷崖絶壁を成し頗る要害の地たり文祿の役觀察使李九翼元帥權慄等嶺南各地の山城を修め就中公山金鳥の兩城は民力を用ふる最も多く附近の器具糧餉を此中に收め守令を督し堅守せりと傳ふ峻峯群を抜き附近の山川一眸の中にあり

**甘文山** 登山すれば東に台星山北に伏牛山南に金鳥雲峯の諸山を望み甘川の碧流遠く山間を屈折して白砂青潭綿々として盡くるなく眺望絶好なり山中に鷄林寺の一刹あり

第三十一節 知禮郡

**沿革** 本と新羅の知品川縣にして景德王に至り知禮と改稱し開寧郡に屬し高麗顯宗王の時京山府星州に轉屬し恭讓王に至り監務を置き李朝太宗王縣監と爲し近世郡に改む

**郡勢** 本道の南部西端に位置し東は星州郡に、北は金山郡に、西は忠清北道黃澗郡及び全羅北道茂朱郡に、南は慶尙南道居昌郡に境す西部黃澗郡界には南部朝鮮山脉中の徳大山及び釜頂嶺聳へ南部居昌郡境には金貴山の支脈峙ち此等諸山の餘脈郡内に波及して到る處山陵起伏するも中央以東は稍々展開して平地を成し洛東江の支流其間を縫流す大體の地勢は西南に高峻にして東北に向て傾斜し耕地總面積千七百町歩を超へ畑の廣さは凡そ水田に二倍せり地質は河川の流域地方を除くの外肥厚ならず主要道路は知禮邑を中心として十字形を爲し四方各郡に通するも星州金山兩郡に至るものの外は險峻なり住民の生業は農業にして傍ら麻布を織り又は製紙を爲すものあり郡内戸數四千五百七十人口二萬一千二百餘あり産物は米、大豆、麥、煙草、人蔘、大麻、麻布、紙、砂金等なり



**知禮邑** 郡の東部下縣面に在りて京釜線金泉驛より四里の南方に位す東星州に、南居昌に西茂朱に通する道路あるも後二者は峻阪ありて來往難澁なり邑民の大部分は農業に従事し其他少數の商業者あり生活の程度低し産物は米穀煙草麻布紙を主とす郡廳郵便所公立普通學校等あり

第三十二節 英陽郡

**沿革** 本と高麗朝の古隱縣にして後ち今の名に改め郡と爲す顯宗王の代禮州(寧海)に屬し明宗王舊に復す李朝の初め再び寧海に屬し縣とし肅宗王に至り分置せしか尋て復た寧海に入り其後割て一部は眞寶に屬せしめ他の一部は依然寧海に隸せしめしか幾もなくして復置し青杞縣を以て之に併す近世郡に改め現今に至る

**郡勢** 本郡は本道の東北部江原道の境に偏位し東北二方は寧海及び江原道蔚珍郡に接壤し南は眞寶安東兩郡に、西は禮安奉化の二郡に隣す地高原に屬し海拔凡六百尺ありて一分水界を爲す東西北三部は山岳起伏し南部僅に田圃を見る本郡は洛東江の水源にして小流郡内を洗ひ灌溉の利あるも地質概して瘠惡なり

僻遠に位置し地勢亦斯の如きを以て交通は頗る不便なり住民は専ら農を業とし生活一般に困難なり産物は米穀の外麻布松茸薪炭なり

**英陽邑** 郡の中央邑内面に在り道路は邑を集點として四隣各地に通するも幅員一ならず且峻阪多く運輸交通共に便ならず邑民は農及び商を業とすれども生計裕ならず金融亦圓滑を缺く米麥其他雜穀の外特産物を有せず朝鮮人二百餘戸一千五百餘人内地人九戸三十餘人居住す郡廳憲兵分隊郵便所私立學校在り

第三十三節 慶山郡

**沿革** 本と押梁小國(一名押登)なり新羅の初め之を併せて郡を置き景德王樟山と稱す高麗初朝章山と改め顯宗王の時慶州に屬し明宗王監務を置く忠宣王慶山と改め忠肅王陞して縣令とし恭讓王更に郡に陞す李朝太祖降して縣令と爲し近世郡に改む

**郡勢** 本郡は本道の南部に位し東は慈仁郡に、南は清道郡に、西及び北は大邱河陽二郡に隣す地勢概して南方高く北部に低く山陵の起伏するものあるも又平地少からず耕地二千九百餘町歩に及び慶山川慈仁川の流域は地味豊にして灌溉



の利多く殊に水旱の憂少きは他郡に多く其例を見ざる所なり京釜鐵道郡内を縦貫し大邱慶州街道北部を過るの外慶山邑を中心として四隣各郡に通する道路は何れも概して平夷にして交通便利なり住民は農を業とし傍ら機械に従ふものあり産物の重なるものは米、大豆、麥、棉花、木綿及び眞鍮器にして殊に慶山大豆は質の良好なるを以て著はる郡内戸數五千三百餘、人口二萬一千餘あり

慶山邑 郡の略々中央邑内面に在り京釜鐵道の一驛にして釜山の北六十七哩餘大邱を距る東南三里なり慈仁、河陽、永川等の米産地を控へ米大豆の集散額は一年八萬石を算し京釜線中倭館に次ぐ米豆の移出驛たり停車場を距る數町の處を流るる慶山川を渡り慈仁川に至る近傍の耕地は頗る廣く更に慈仁川を越へ行くこと半里にして賢倉洞に達す此附近は地質最も肥厚にして耕野遠く連り面積二千町歩に近く且つ一般に水旱の被害少し邑内朝鮮人一千二十餘戸三千九百餘人内地人六十餘戸二百十人あり産物は米穀を主とす郡廳、郵便所、學校組合、巡查駐在所、小學校、公立普通學校、興業會社等在り

## 第三十四節 慈仁郡

沿革 本と奴斯火縣にして新羅朝慈仁と改め高麗顯宗王一ひ慶州に併合せしか李朝仁祖王に至り復置す後世郡に改め今に至る

郡勢 本郡は本道の南方中部に位し東南は清道郡に、西は慶州郡に、北は河陽郡に、東北は永川郡に接す長白山系の支脈郡の周圍に起伏するも林相を有するものは僅に東部山岳中に之を見るのみ琴湖江は源を東方山中に發し北部より來る細流を合せて郡の中央を横り灌漑に利し耕地一千四百四十町歩ありて地味概して肥沃なり道路は慈仁邑を中心として四方に通するも多くは不完全なり住民は稍々淳良の風を缺き日常の生活程度は低く農を以て主業とす郡内戸數四千八百十餘、人口二萬二千四百五十あり産物は米、麥、大豆、大麻及び紙なり

慈仁邑 郡の中央より少しく西に偏位し慶山驛の東方二里大邱の東南五里に在り附近山陵少く交通概ね便利なり毎月五日毎に市場を開き商況稍々盛なり邑民の生業は農を主とし傍ら養蠶機械に従事するものあり金融は逼迫を常とし生計裕ならず米穀の外若干の木綿及び草鞋を産す朝鮮人四百五十餘戸、内地人二十餘戸七十餘人居住す郡廳、郵便局、學校組合、巡查駐在所、小學校、私立學校在り



第三十五節 玄風郡

**沿革** 新羅の推良火縣なり、景德王玄曉と改稱し火王郡(昌寧)の領縣と爲す。高麗初朝今の名に改め顯宗王密城郡(密陽)に屬せしめ、恭讓王監務を置き密城郡の一部を割て本縣に併せ李朝に至り縣監に改めしか。慶尙南北道を置くに際り北道に屬し後ち郡と爲し今に至る。

**郡勢** 本道の南端に位し東は清道郡に、西は高靈郡に、北は大邱府に接し南は慶尙南道昌寧郡に境す。郡内琵琶山、截尼山等の高峯聳へ其他丘陵起伏するも亦平地に乏しからず。洛東江郡の西部を流れ漕漑舟楫の便を併有す。住民は専ら農耕に従ひ穀類は釜山大邱に移出す市場三箇所あり金融多くは逼迫し住民には生計の裕なるもの少し。戸數五千、人口二萬四千五百餘あり。産物は米、麥、大豆、麻、棉花、莞草、綿布、莞蓆等なり。

**玄風邑** 縣内面に在り飛鳳花岐兩山の間に介在するも又曠野を控ふ。此地馬山大邱の街道に沿ひ四隣郡邑に通する道路を有す。邑民は農業を主とし經濟状態は順境ならず金利亦頗る高し内地人の居住するもの五十人あり。特産物なし。郡廳

郵便所 巡查駐在所 地方金融組合等あり

第三十六節 順興郡

**沿革** 高句麗の及伐山郡にして新羅炭山郡と改め高麗の初め興州と改稱し成宗王の時順政と改む。顯宗王に至り安東に屬し尋て順安に移屬し明宗王の時復た分置す。忠烈王興寧と改め忠州王の時再び興州と稱し忠穆王陞して府とす。李朝世祖の時豊基榮川奉化に分屬せしか。肅宗の代又合して府と爲し近世郡に改め今日に至る。

**郡勢** 本道の北端に位し東は奉化郡に、南は榮川郡に、西の一部は豊基郡に接し西北は忠清北道永春郡に、北は江原道寧遠郡に境す。全郡山岳多く太白山脈より來る小白連脈を主脈とし串赤嶺に起り國望峯を主山とし豊基郡に走る大體の地勢は北東に高く南西に低きを以て竹溪川、沙川、串川等の諸川は皆東北小白山脈に發源し南西流して洛東江に注入す。交通概して不便にして最近停車場金泉驛に二十餘里を隔つ郡内の道路亦概して平坦ならず。住民は一般に農を本業とし副業として養蠶及び織蓆に従ふ。郡内戸數三千九百二十餘、人口一萬七千八百餘



あり産物は米粟、大小豆、稷、大小麥、木材、山菜及び藥材等なり

順興邑 太平面に在り大邱に三十六里、金泉に二十七里を隔て奉化、醴泉、禮安、永春、丹陽等附近各郡邑に通する要衝なるも道路は大概平夷ならず邑民の大部分は農業に従事し商業を營むものは少数なり内地人三十人居住す郡廳憲兵分隊、普通學校等在り

鳳凰山 邑の北方三里にあり一名を玉山と云ふ高麗恭愍王登山したるより此名あり山腹に浮石寺あり弓裔曾て此寺に到り新羅王像の壁畫を見劔を抜て之を切りたることありと傳ふ

### 第三十七節 河陽郡

沿革 高麗朝の河州にして成宗王の時刺史を置く顯宗王今の名に改め縣とし慶州府に屬せしめ監務を置く李朝に至り縣監に改め後ち郡とす

郡勢 本道の南部に位し東及び南は永川、慈仁、慶山の三郡に接し西は大邱府に、北は新寧郡に隣す地勢西北は峯巒重疊すれども東南は平野多くして總面積の三分の二を占む琴湖江郡内を灌溉して洛東江に注ぐ住民は主として農を業とし

生計困難なり最近の開鑿に係る大邱慶州間の道路は郡の中央を過ぐ車馬の往來頻繁にして其の他の道路も亦概ね交通に便なり産物は穀物を主とし棉花、麻之に亞き若干の莞草を産す工藝品に綿布、草鞋あり又金を出す郡内戸數三千三百、人口一萬四千九百あり

河陽邑 郡の稍々東部に偏し背後の八公山に發源する琴湖江の西岸に位置し東北部に面積四千町歩を超へ通稱九萬斗落と呼ぶ廣茫たる耕野を控ふ大邱慶州間及び寧海盈徳間交通の要路に當り東永川、南慈仁、慶山に各三里を隔て北方四里にして新寧に達す道路何れも平夷にして交通便利なり邑民の過半は農を業とし市場附近には徹々たる商業兼營者あり經濟狀態順調ならず生計困難なり産物は米、麥、大豆等にして他に特種品なし郡廳郵便所、巡查駐在所、學校組合、小學校、公立普通學校及び私立學校在り

### 第三十八節 眞寶郡

沿革 本郡は本と漆巴、火助攪二縣の地なり漆巴、火縣は新羅景徳王の時眞寶と稱し聞韶郡(義城)の領縣たり、助攪縣は景德王の時眞安と號し野城郡(盈徳)の領縣たり



り、高麗の初め二縣を合し南城府を置き顯宗王の代禮州(寧海)に屬せしか其後倭寇の爲め一時居民を空ふし李朝太祖に至り甫城監務を置き世宗王の時青島(青松)を併せて青寶郡と稱し尋て眞寶と名け縣監と爲す成宗五年青松府に屬せしか九年縣に復す後世郡とし郡守を置く

郡勢 本道の東北部に位し東及ひ南は寧海、盈德、青松三郡に接し西は安東郡に、北は英陽郡に隣す四境山岳重疊し餘脈郡内に起伏し平地少く耕地は僅に千四百餘町歩に過ぎざるも河流ありて灌漑に利し水田畑地相半し米麥の産伯仲す道路は郡邑を中心として東方寧海郡丑山、東南盈德郡江口の二港口に通し又北英陽、西安、東南、青松の各郡に達するものありて四通の要衝なるも途上何れも不良にして交通は便ならず住民は農業を主とするも農具及ひ耕作方法孰れも舊守改良を加へず殊に商工業は極めて幼稚なるを以て一般生計の程度頗る低く生活に苦むもの少からず然れども最近稍々向上の思想を兆したるの傾向を認むることを得郡内戸數二千七百七十餘、人口一萬三千三百四十餘あり産物は米、麥、粟、大豆、蕎麥を主とし其他蜂蜜、楮皮、棉花、煙草、紙を産し又若干の明細、木綿、蘆、藥

材等あり

眞寶邑 下里面に在り四隣各郡邑に通する道路あるも東南盈德、西方安東に通するものの外往來難澁にして且つ交通機關を缺けり邑民の大部分は農業に従事し又飲食店を營むものあるも一般生活状態困難を極め粗衣粗食して生計を維持す邑内朝鮮人四十五戸二百六十人、内地人十餘人あり産物は米、大豆、麥、粟、蔬菜にして郡廳、郵便所、巡查駐在所、製紙傳習所、私立學校在り

水淨寺 邑の南方南角山に在り新羅時代の古刹にして李朝太祖の辛容を安置せり

### 第三十九節 軍威郡

沿革 本と新羅の奴同覓縣にして景德王の時軍威と改稱し嵩善郡(善山)の領縣たり高麗顯宗王に至り尙州に隸屬し仁宗の時再び一善縣(善山)に歸屬し恭讓王盛務を置く李朝太宗十三年縣監とし近世郡に改め爾來今日に至る

郡勢 本郡は本道の殆んど中部に介在する狹長なる一郡にして東北は義城郡に、東南は義興郡を以て包繞せられ西及ひ北は善山、比安の兩郡に界し東北八里に



亘り東西は最も廣き處と雖も僅に一里を出てす地勢概ね平坦にして地味膏腴農産豐なり郡の中央を貫流する屏川は東南義興郡より來り北して比安郡に入り洛東江に注ぐ地勢南方に稍々高くして北方に緩傾斜を成す屏川沿岸一帯の地は肥沃にして灌漑の利に富み水田頗る多し道路亦平坦にして東南義興に通ずる二條の道路は屏川に並行し北は義城に西は善山に通し四通八達交通便利なり就中東南義興に通ずるものは大邱安東間の主要線路にして人馬の往來繁く近く本線の改修を告ぐる曉は當地方の發展期して俟つべきものあり住民は農を以て生業とし又少數の商業者あり民度概して平衡を保ち生計困難なるもの罕なり産物は米麥を第一とし水田面積一千二百二十町歩年産額一萬六千四百石に及び大豆棉花之に亞き又草鞋、麻、莞草、蓆を出す養蠶盛に行はれ機業地として本道中に名あり戸數三千六百餘、人口一萬九千餘あり

**軍威邑** 縣内面に在り東西に竝立せる一帯の山間に介在し屏川の右岸に沿ひ地形東より西に向て不規則なる傾斜を爲す大邱安東間の中央に位し邱安道路は邑の中部を貫通し人馬の往來稍々繁し西大邱を距る十二里、北義城を距る五里

にして途上概して平夷往來困難ならず邑民は概ね農を本業とし傍ら旅人宿、飲食店、屠肉其他小規模なる商業を營む生計尋常にして甚しき窮貧者を認めず邑内戸數百六十餘、人口七百六十餘あり郡廳、憲兵分遣所、郵便局、地方金融組合、公立普通學校在り穀類、布木、蓆、陶器、草鞋及び若干の藥材を産す

## 第四十節 禮安郡

**沿革** 高句麗時代の買谷縣にして新羅景德王改めて善谷縣と名け奈靈郡(榮川)の領縣と爲す高麗太祖甄賞討つや縣守李能宣義兵を擧げて歸順せしに因り縣名を改めて宣城と爲し尋て陞して郡とす顯宗王の時吉州(安東)の屬縣たり辛禡の時再び郡とし知郡事を置き幾もなくして州に陞す恭讓王知郡事を罷め禮安縣監務を置き李朝太宗王縣監と爲し安東鎮に隸す太皇帝改めて郡とし郡守を置き安東觀察府に屬せしか明治三十一年大邱觀察府所管に移り明治四十三年日韓合併に際し慶尙北道廳の管轄に歸し今に至る

**郡勢** 本道の北部に位し東は英陽郡に西は榮川郡に南は安東郡に北は奉化郡に隣す周圍山脈を以て繞らし郡内峯巒起伏し郡道僅に其間を通ず唯南部は洛東



江の上流横走するを以て江岸には沖積土の平地を有するも英陽郡と共に本道中最も耕地の狭小なる郡に屬す陸路概して險惡水路亦急湍多くして運輸交通孰れも便ならず住民は農業に従事し傍ら養蠶を爲すもの少からざるも米産に乏しく移出の餘裕なし大部分は粟を以て常食とす性節儉情朴訥にして尙古の俗あり多くは偏狹の餘弊に陥り時世と推移せず郡内戸數三千餘人口一萬四千餘人あり産物は米、麥、大小豆、粟、煙草、蔬菜、薪炭、綿布、麻布、紙、牛等にして其内大豆及び煙草を移出品の主要なるものとす

**禮安邑** 郡の南端に位し宣城山を負ひ洛東江に臨む東英陽邑に八里餘、西榮川邑に七里餘、南安東邑に五里、北奉化邑に十一里を隔て交通は一般に不便なり市場ありて毎月六回開市し一年の取引高一萬二千圓を超へ邑民百八十戸千人あり郡廳郵便所、巡查駐在所、普通學校在り

**陶山** 邑の東北里餘、宜東面に在り陶山書院の所在地なり三方丘阜を環らし南方一面迫て洛江に臨む清流近く麓を洗ひ遙に安東の臥龍山に對す風光得易からざるの境區なり書院あり文純公李泥を祀る別に書堂あり李泥の栖居にして公

所用の璇璣、玉衡、欏杖、書案、硯匣、短檠、投壺、篋席、磁唾器等今尙は齋中に所藏す

**宣城山城** 郡廳脊後の丘陵是なり城址一千一百餘尺舊軍倉の所在地たり門樓現存し六十人を坐せしむ

**龍巖** 邑南八町洛東江岸に屹立する巨岩にして水面を抜くこと二丈、上面數十人を坐せしむるに足る

其他孤山亭、枕洛亭、月瀾亭、老松亭、浮羅院、義馬塚、易東書院等名所古蹟に富めり

#### 第四十一節 咸昌郡

**沿革** 古寧伽倻國の故地なり新羅之を併せて古冬椴郡(一名古陵)を置く景德王古寧と改め高麗光宗王咸寧と稱し顯宗王の時尙州に屬し始めて咸昌と號す明宗王監務を置き李朝太宗の時縣監に改めしか近世郡と爲す

**郡勢** 本道の西北部に位し南は尙州郡に西及び北は聞慶郡に、東は龍宮郡に接す縣内面及び北面の二面を除くの外は一般に平地少く概ね赤裸々たる秃山なり郡内未だ挽車を通せず交通便ならず夏季には洛東江の水路に倚りて倭館驛に出つることを得住民の多數は農業に従事し商業を營むもの少し古來養蠶地と



して名あり紬を多産し年額十三萬圓に及ぶ經濟狀態概して窮迫なるか如し戸數三千八百六十人口一萬九千八百五十なり産物は米麥大豆紬布綿布等とす咸昌邑 縣内面に在り北開慶邑に六里東龍宮邑に三里南尙州邑に四里餘を隔つ本邑への來往は京釜鐵道金泉驛よりするを便とす交通機關は馬匹驛輿の外なきも道路は比較的平坦なり邑民は農又は商を業とす市場ありて毎月一、六の日に開市す朝鮮人百五十戸八百餘人内地人十戸四十人あり郡廳憲兵分隊郵便所養蠶傳習所私立學校在り

### 第四十三章 慶尙南道

沿革 三韓時代には主として辨韓の地に屬し三國に在りては新羅の一部たり新羅國運未だ振はざるこき辨韓の故地に駕洛國興り今の金海邑の地を都城とし其領域は北伽倻山に東洛東江を限り西智異山に至り蟾津江を界とし南大海に及び本道の大半は其領地たりしか建國以來四百年にして新羅の併す所と爲る高麗朝鮮を統一するや東南道都部署使を慶州に置き今の慶尙南北二道の地を

併轄せしめ成宗王に至り十道を分置するや本道の地は當時の山南道の全部及び嶺東道の一部たり睿宗の代山南嶺東嶺南三道を合して慶尙晋州道と稱し明宗王慶尙州道晋陝州道に二分するや主として晋陝州道の地たりしか尋て合して慶尙州道と爲る神宗王の時に尙晋安東道と稱し後ち慶尙晋安道に改む忠肅王慶尙左右道に分割せしか幾もなくして又合す太皇帝道を廢し二十三府を置くや本道の地は東萊晋州兩府の所管たり翌年府を廢し十三道を置くに際り始めて慶尙南道と稱して今に及び二府二十七郡四百五十八面を管す

位置廣袤 半島の東南端に位置し東は全羅南北二道に接し北は慶尙北道に隣し東南の二面は海に瀕す東西約四十一里南北二十五里面積八百三十三方里有す

地勢 小白山脈道の西方に蜿蜒して全羅道の界を成し雲門山脈北方に走りて慶尙北道との境界を劃り地形概して西北に高く東南に低し洛東の大江道の中央を貫流して交通灌漑の便を加へ其流域に於ける曠漠たる平野は地味肥沃にして農産豊に南方一帯の海岸は多くの港灣門戸となりて出入に便利を與へ且



つ水産饒多なり島嶼亦少からず氣候は全羅道と共に半島中最も温暖にして一年平均氣温は釜山に於て攝氏十三度五分なり

**交通** 京釜鐵道本道の東部を縦貫し南部に馬山線の分岐するありて沿道の運輸交通に利し晋州馬山間は腕車を通し晋州三千浦間は車馬を通すべく其他蔚山長生浦間晋州河東間等道路の改修を終へたるものもあるも其他の道路は未だ不完全たるを免れず水路交通は釜山馬山の二港を始めとし其他重なる港邑には沿岸航行船の寄港するありて陸運に比し寧ろ便利なり

**住民** 古來洛東江以東と以西との住民は其情態を異にし江東の民は概して貧賤なるも勤儉の風あり江西の民は割合に富裕にして奢侈儉安の俗あり而して本道は内地との交通上最も古き歴史を有し他道の人民に較ぶれば早く内地人に親近し内地人移住地の數も亦各道中に冠たり管内朝鮮人二十九萬九千餘戸百四十萬餘人内地人一萬一千二百七十餘戸四萬一千六百餘人外國人百餘戸五百十餘人あり

**産業** 産業中の主たるものは農業にして耕地面積十二萬五千五百町歩に達し其

の六割は水田なり一年の米産額百萬石に達し之に次くは麥大豆棉花にして又煙草大麻の栽培行はれ近來蠶業に従ふもの少からず家畜は牛馬豚及び鶏にして牛の體格は北咸地方の産に比し劣るも其飼養は頗る盛なり

朝鮮人の商業は市場を以て中心とす内地人の商業は釜山を最とし馬山之に次く釜山に於ける一年の貿易總額は千五百八十八萬圓を超過す

工業は酒醬油醸造業精米業を主とし製紙業は古來西部智異山系に屬する數郡に其原料たる楮を産し洛東江及び其支流沿岸の地に於て製紙し高麗紙と稱して販賣せらる貝細工は本道殊に統營地方の特産なるも未だ發展の機運に向はず其他繩吹製造業造船業等あるも漸く其緒に著きたるのみ

本道の沿海線は總延長一千百六十哩に達し朝鮮中樞要なる水産地にして毎年約三百萬圓の漁獲あり

鑛産量は著大ならざるも金銀銅鐵等各種の鑛脈あり就中馬山府管内は古來鑛産地として知らる

**産物** 米麥大豆等の農産物を主とし其他棉花煙草楮皮等あり水産物には鱈鯖鱈



鱈等の魚類、食鹽、海草あり又生牛及ひ紙を出す

### 第一節 釜山府

沿革 古昔箕山國又は萊山國の地にして新羅之を併せ居漆山郡を置く景徳王に至り東萊と改め高麗顯宗山の時蔚州(蔚山)に屬し後ち縣を置く李朝太祖の時始めて鎮を設け兵馬使を以て判縣事を兼ねしむ世宗王改めて僉節制使と爲し後ち鎮を屬縣たる東平に移せしか幾ならずして舊治に復し其後縣令に改む今より三百年前府を設け府使を置き後ち監理兼府使とし又郡守を置き後に郡衙及び監理署を兩立せしめしか日韓併合の際府廳を釜山港に移し府尹を任置し今に至る

府勢 本府は本道の東南隅に位置し北は機張梁山二郡に接し西は洛東江を隔てて金海郡に對し東南二方海に面す府内山陵起伏するも高嶺峻峯の重疊するものなくして平地少からず耕地反別六千七百十餘町歩に及び畑地は水田に約二倍し洛東江流域の地は地味肥沃にして農産豐なり京釜鐵道府内を縦貫して四箇所の停車場を有し水路は内地北鮮、西海清國及び露領沿海州に通し且つ洛東

江には舟運の利あるを以て他の地方に比し運輸交通共に便利と稱すへきも道路は未だ不完全にして各地間の貨物の運搬に馬背人肩を藉らざるへからざる處多し住民の大數は農を業とし商工漁業者の數順次に之に次く管内の朝鮮人は最も古く内地人と交際したるか爲め事理を解し又割合に經濟思想を有する者多し戸數一萬七千二百三十餘、人口六萬九千二百五十餘あり産物は米、麥、大豆、其他雜穀、生牛、卷煙草、白銅細工、筭、水、鹽、鯛、鱈、鱒、鮭、鰻、蛤等なり

釜山港 府の南端洛東江の左岸に邁く位置し下關を距る百二十二哩、對馬嚴原を距る六十六哩に在り日鮮兩地に涉る關門京釜鐵道沿線各地に到る門司竝に浦鹽及び北清航路の分岐點として交通運輸の要樞を占め加ふるに港灣の狀態佳良なるを以て船舶貨物輻輳し人煙稠密にして其繁榮は朝鮮諸港中に冠絶す北西には高遠見、天馬、峨嶺、九德諸山あり北東には峯五、天子堂、龍洞の諸嶽聳へ諸山樹林に乏しきも稀に林相を成せるものあり新溪釜山、寶水の三流ありて市内を貫流すれども幅員狭く水淺くして舟楫の利なし港灣は左に絶影島、右に冬柏島横はりて自ら左右兩關門を爲し灣内廣濶水深く碇泊に便にして大艦の



出入に妨なく朝鮮第一の棧橋ありて巨船數隻を同時に之に横附けすることを得べく尙ほ總費三百八十二萬四千餘圓を投し本年度以降四年間繼續事業として海陸連絡の大工事に著手せり氣候は最高攝氏三十二度五分、最低氷點下九度、平均十三度餘にして京都と伯仲す風は冬季強烈にして夏季に微弱なり降雨は朝鮮内にありては多雨の部に屬するも内地に比すれば遙に乾燥なり市街は龍頭及び龍尾の二小山脈に包擁せられ又川流の貫通するありて從來土地低濕道路凹凸なりしも漸次改修し今や往來頗る便利となれり各地との交通は鐵道に倚るものの外道路橋梁未だ不完全なりと雖も水路は阪神仁川線、神戸浦鹽線、神戸牛莊線、大阪清津線、長崎大連線、阪神清津線、大阪浦鹽線、唐津(内地)群山線、博多釜山線、清津線、下關雄基線の外本港を基點とせる沿海航行線數條ありて其交通殆んど遺憾なく概して朝鮮中央交通運輸の最も便利なる地方に屬す其他教育、通信、衛生、消防の具皆備はり商店櫛比街衢殷賑なり

本港は屈指の商業地なれば住民の大部分は商業を營み其主要なるものは一は内地及び外國との貿易にして二は北鮮地方との沿岸貿易なり而して其最も盛なるは對内地の商業にして移出品は米、大豆、魚類、生牛、牛皮を主とし移入品は綿糸、麥粉、砂糖、燐寸、石炭、繩、吠を重なるものとす對清貿易は海參、鱈、鮭等を輸出し葛布、絹紗、石炭を輸入す明治四十三年中の總貿易額は千五百八十八萬六千七百餘圓なり工業は商業に比し頗る劣れるも、近年漸く勃興の氣運に向ひ精米、釀造、鐵工、造船、製鹽、製氷、製菓、製粉其他瓦、煉瓦、卷煙草、罐詰、飲料水製造及び電燈業等其數六十を算す然れども其大半は會社組織にあらずして個人の經營に屬せり金融機關略々整理し金融比較的圓滑に金利漸く低下す水産業は朝鮮海水産組合の保護監督に依り逐年著しき發達を爲せり内地人四千九百三十戸二萬三千三百人、朝鮮人四千二百三十餘戸二萬二千九百七十人居住す府廳守備隊、地方裁判所、區裁判所、監獄、憲兵分隊、警察署、郵便局、稅關、居留民團役所、商業會議所、病院、商業學校、高等女學校、小學校、幼稚園、圖書館、測候所、東本願寺別院、第一銀行、百三十銀行、十八銀行各支店、朝鮮銀行出張所、日本郵船會社、大阪商船會社各支店、電燈會社、倉庫會社、水産會社、棧橋會社、煙草會社其他の會社組合等あり

本港は朝鮮本土中最も内地に近邇するを以て内地人の移住最も古く後花園天



皇嘉吉二年、對馬藩主宗氏朝鮮と修交の誼を結び釜山浦(現時の古浦)熊川郡(馬山府)齊浦蔚山郡鹽浦を開き交易場となしたるを本港開港の濫觴とす、永正七年に至り三浦の開港を鎖せるも、天文十三年再び釜山浦のみを開港し、文祿の役國交斷絶して又之を閉鎖したるも、慶長十四年徳川幕府は對馬藩主宗義智をして開市通商の約を結はしむ、巴西條約是なり然るに釜山浦は水淺く碇船に不便なるに由り、寛文十二年別に地區を選定せるもの即ち現今の釜山港にして今を去る二百六十餘年の昔に屬せり、爾後明治九年に至るまで對馬宗氏専ら修交通商の事を掌理せしか、同年九月新に修交條約を訂結し、管理官を置き宗氏の派したる館主を廢し、十三年領事館に改め、三十年更に理事官とし、日韓併合後釜山府尹を任置せるなり。

**龍頭山** 釜山市街の中央にある一丘にして松樹鬱々として四時綠翠滴るか如し、現に公園たり、山頂高さ百二十尺、釜山灣内外の景を一眸中に納め、風景絶佳なり、天氣清明の日には水天髣髴の間に對州を望見すへし、山上神社あり、金刀比羅を祀る。

**龍尾山** 龍頭山の東南隅に在り、絶影島と對向せる一阜にして、阜頭加藤清正を祀る、長松林を爲し、風光亦佳なり。

**絶影島** 別名を牧島と云ふ、古昔牧場ありしを以て此名あり、周回七里、海拔六百九十尺、屹然として釜山港の隠蔽となり、之をして良港たらしむ、東北は釜山の赤崎半島と相對して、東水道を作り、南東は玄海灘に向ひ、北西は釜山灣に面し、釜山との間僅に四町を隔つ、畑地及び水田少からず、朝鮮人三千人、内地人千二百餘人居、住す郵便所、造船所、巡查駐在所、小學校等あり、釜山龍尾山と對向せる山陵の中腹に一祠あり、文祿の役朝鮮水軍の將李舜臣を祀る。

**草梁驛** 京釜線中の一驛にして、釜山を距る僅に一哩、其間人家相接し、釜山居留民團の地域内に屬せり、釜山港の一部に瀕するも、水淺くして船舶の出入に便ならず、唯海水の灣入深きを以て、帆船又は漁舟の著港多く、明太魚、黒鉛等、滿潮時を利用し、移入せらる貨物集散は鐵道に倚るの外、東萊、機張、蔚山の如き各地には、人肩又は牛馬背を藉る市街は、人家櫛比し、衛生通信、電燈、消防等の設備は、釜山に異ならず、在住朝鮮人は、漁業商業又は農業に従ひ、内地人には、官吏、米穀商及び雜貨商



多し清國領事館、商業會議所、農工銀行出張所、小學校在り内地人三千餘人朝鮮人二千九百人、清國人百五十餘人居住す

津江成太招魂碑 古館の丘上に在り曾て參判使として任に朝鮮に來り寛文十二年我居留地を東萊より釜山に移すに當り大に力を盡したる人にして明治十二年居留民等謀りて此碑を建つ

釜山鎮驛 京釜鐵道停車場所在地にして釜山を距る三哩弱朝鮮人の大部落なり南は釜山及び草梁に連接し北は東萊の通路を扼し其間輕便鐵道を通す市場ありて毎月六回開市し取引貨物は米穀、綿布、食料品、家具、雜貨、生牛及び魚類なり朝鮮人一萬二千六百六十人、内地人六百七十五人あり

東萊 釜山の北三里釜山鎮より輕便鐵道に倚れば三十分にして達す北に山を負ひ南方平野を擁し城廓ありて市街を圍繞し四樓門を設く氣候は釜山に比して稍々寒冷なり此地元々府使郡守又は監理等の所任地にして政治上の中心なりしを以て當時人心一般に振起し商況殷盛なりしも數年前府廳を古館に移轉せし以來漸く衰頹し商工業亦頓挫を來せり居住朝鮮人の生業は城の内外により

差別あり城内の者は商工業に従事し城外は多く農業に従ひ副業として養蠶を爲すもの少からず朝鮮人千五百戸八千五百人、内地人二十餘戸八十人居住す機業傳習所、蠶業傳習所、郵便局、巡査駐在所、學校組合、小學校等在り穀類、棉花、煙草、革皮、煙管、笠等を産す

東萊溫泉 東萊を距る約十五町に在り背後に金井山脈を負ひ前方に平野を控へ朝鮮屈指の溫泉場にして旅館浴場の設備略々備はり附近一帶風光明媚浴客常に絶わす内地人五十五戸二百六十人あり

梵魚寺 東萊溫泉場を距る二里の山間に在る巨刹にして今を去る二千年前新羅興德王の勅建に係る、或は曰ふ新羅武烈王の時僧元曉の開基に係ると傳へ曰ふ王夢に神人あり告て曰く國南に一山あり金井と云ふ其頂に石あり高さ五十尺石上井水有り色金の如く盈溢して竭きず金魚ありて其内に游泳し五色の香雲上邊を擁蔽す之れ即ち梵天の魚なり云々因て名けて梵魚寺と稱すと境内廣く樹木鬱蒼として清泉あり溪流あり殿宇樓閣相連り畫棟彫楹精巧を極む附近の眺望頗る佳なり



**龜浦** 洛東江の左岸に在り京釜線中の一驛にして釜山の北方十一哩を隔つ北は梁山、南は釜山に通し西方江を渡りて金海に至り東方嶮山を踰りて東萊、蔚山に達する要衝に當り且つ慶尙南北二道各地に對する海陸運送の中繼所にして商業盛なり朝鮮人三百四十餘戸千七百七十人、内地人七十戸二百五十人居住す産物は米穀魚類なり學校組合、巡查駐在所、小學校在り

**下端** 洛東江の釜山港に注ぐ處に在り釜山を距る一里半大峙其間を限り牛馬背又は人肩の外貨物を運輸する途なきも水運に倚れば金海及び大邱附近に達し得へし朝鮮人百二十戸六百餘人、内地人五十餘戸百七十人居住し其大半は漁業に従事す重に淡水漁業にして鰻、鱒、白魚、鱈等を産す學校組合、巡查駐在所、小學校在り

**多太浦** 多大海の北西澳に在り往年水軍萬戸の所在地にして釜山の西南二里を隔つ澗口一涇澗入一涇半、其東岸は嶮崖にして水深く西岸は岬角出入して多數の小澗を形成し頗る風致に富めり朝鮮人二百八十戸千七百八十人、内地人八十餘人居住し概ね漁業に従事す産物は漁類及び食鹽なり學校組合、小學校在り浦と相在り

對して城趾あり城南浮舫樓と稱する一亭あり躑躅の名所なり

第二節 馬山府

**沿革** 古昔義昌、會原二縣の地後ち合して昌原府たりしもの即ち本府の前身なり、義昌縣は本と新羅の屈自郡にして景德王の時義安と改む、會原縣は新羅の骨浦縣にして景德王合浦と改め義安郡に屬す高麗顯宗王の時義安合浦共に金州(金海)に屬し後各々監務を置く忠烈王の時義安を義昌に、合浦を會原に改め共に縣令と爲す李朝太宗王の朝二縣を併合し昌原と命名し府とし後ち都護府と爲せしか近世府に復し隆熙二年更に熊川、鎮海の二郡を廢して之を併せ日韓併合の際府廳を馬山に移して馬山府と稱し府尹を置き今日に至る

**府勢** 本道の中部海邊に位置し東は金海郡に、西は固城郡に、北は咸安及び密陽郡に隣し南は海に瀕し沿岸は巨濟島と共に恰も湖池の如き一大澗を成す鎮海澗之なり郡の北部及び東方金海郡界には山脈連亘し其他山陵起伏するあるも其間又平地に富み耕地反別一萬二千二百五十餘町歩にして其廣さ本道中に冠絶し且つ灌漑の利に富めるを以て水田八千三百五十町歩を超過し米産年額十八



萬石に及び道中第一の多産地たり京釜鐵道馬山線郡の西部を貫通し停車場三箇所を有するの外馬山を中心として道路各地に通し殊に馬山晋州間及び昌原間は途上平夷にして交通便利なり住民の多數は農業に従事し商業漁業者の數之に次ぐ郡内朝鮮人戸數二萬二千八百八十、人口十一萬七千六百七十餘、内地人千八百八十戸七千百人、外國人十餘戸五十餘人あり農産物には米、大豆、麥、其他雜穀、生牛、牛皮あり水産物には鱈、鱈、鯛、大刀魚、石首魚、貝類、海藻、鹽あり又砂金、銅等の鑛産物あり

馬山 馬山灣奥に位し明治三十二年五月以來の開港地たりしも本年一月一日を以て之か開港を鎖せり昔高麗時代には合浦と稱し日本交通の起點たり元か艦隊を艦裝して日本に來寇したるは此浦口なり又倭寇の根據地として半島沿岸を侵したるも此浦口たり地釜山を距る海路約四十哩對馬を距る五十哩なり灣は斜に南北に長く東西に狭く海底は東北部に淺く西に到るに従ひ漸く深く西南部は一萬噸以上の大船を入るに足る灣口一島あり猪島と云ふ周圍約六町其左右陸地との間約六町にして孰れも水深く大船巨舶の通過自由なり灣の背

面は舞鶴、日和等の山脈起伏し前方には熊川、巨濟の峰巒を控へ海面爲に靜穩にして殆んど鏡の如し灣口を出れば巨濟、加徳、閑山等の諸島横はりて自然の港門を成し巨濟島と馬山灣との間更に自然の一大良灣を形成し優に數十萬噸の艦隊を碇泊し得へし鎮海灣即ち之なり氣候は概して温和にして一年平均氣温華氏最高八十度内外最低十五六度にして山水の景に富み特に觀月に名あり半島中第一の健康地と稱せらる鐵道に倚れば一時間を出てすして京釜線三浪津に出つ市街は新馬山、舊馬山に分れ新馬山は純然たる内地風にして街路清潔商店櫛比し諸官衙及び内地人は重に此處に在り舊馬山も今は殆んど新馬山と人家連接し朝鮮人内地人の雜居にして街衢の體裁新馬山に及はざるも巷路頗る殷盛にして毎月五日の日を以て市場を開き商況頗る活潑なり産業は商業を主とし漁業之に次ぎ工業は未だ幼稚にして精米業、石鹼、金物、罐詰、煉瓦製造、精酒釀造等に過ぎす内地人千六百五十六戸六千三百十人、朝鮮人千五百七十戸七千百餘人居住す主要産物は米、大豆、牛皮、煙草、木竹細工、魚類、水産製造物等なり府廳、鎮海灣司令部、防備隊、地方裁判所、支部、區裁判所、憲兵分隊、警察署、郵便局、監獄、分監、小學校、



公立普通學校、地方金融組合、税關監視署、朝鮮海水産組合支部、其他會社組合等在りて舊馬山及び新馬山に停車場を有す

**昌原驛** 馬山線中の一驛にして京釜線三浪津驛より十九哩餘を隔つ本と昌原府廳の所在地たり停車場と村邑との間約半里を隔つ附近地味肥へ交通の便宜しく米、大豆、麥、蔬菜、生牛等を産す殊に昌原米は質良好を以て聞ゆ尙ほ近傍鑛脈に富み古來銅の採掘盛なり朝鮮人戸數千五百、人口八千五百餘、内地人五十戸百四十人あり學校組合、郵便所、機業傳習所、巡査駐在所、小學校在り昌原城は文祿の役鍋島直茂の一時駐屯したる所たり

**縣洞** 馬山を距る水路八哩餘、鎮海灣中の一灣たる齋藤灣岸の新市街地にして馬山との間日々數回小蒸汽船の往復ありて一時間にして達し釜山よりも毎日汽船の來往あり市街の前面積は二十萬坪にして目下内地人戸數五百六十、人口九百五十なるも尙ほ續々移住中なり街衢整然道路清潔朝鮮中稀有の一都會たり附近に朝鮮人の部落あり近き將來に於て馬山鐵道を此地に引込むの計畫ありと云ふ學校組合、小學校在り

**鎮海** 馬山の西三里に在る小邑にして前面鎮海灣に面し十餘町を隔てて内浦と稱する港灣あり港幅約三十町、水深三四尋海運の便あり馬山に三里、晉州に十里、統營に十二里あり市場ありて稍々賑はへり移出品は米穀、木綿、生牛、魚鹽、煙草を主とし移入品は石油、金巾、燐寸、陶器、金物、雜貨等なり

**熊川** 本と熊川郡衙所在地たり馬山灣口即ち釜山水道の右方にある一港灣にして前面は巨濟島の北角と相對す朝鮮人六百餘戸、内地人四十餘戸あり市場に於ける集散貨物は木綿、金巾、魚鹽、海藻等なり文祿の役明將劉挺據守し加藤清正の爲に破られたる安骨城は此地の海濱にあり

**千葉村** 馬山灣中栗仇味灣の右岸に在る漁村なり灣は直徑約半里ありて北西南三面山を負ひ東方に展開して馬山海峽に面し水深四五尋にして波靜なり馬山まで陸路約三十町、海路一哩半あり鱧煎子、鱈、鯛、海鼠等を産す本村には毎年千葉縣より縣費の補助を爲せり

**加徳島** 周回八里餘の島嶼にして東は多大浦と相對し西は巨濟島の北端に向ふ南西岸に港灣あり近海鯨、鯨の漁利に富み内地漁民の釜山方面より出漁するも



の多し

鶴峴 一名を近衛岡と云ふ馬山の東南端に在る一丘にして馬山灣の景を一眸中に收む故近衛公遺愛の地なり

佛母山聖住寺 上南面佛母山中に在り約二百七十年前無染和尚の創建に係り後重修したるものなり境内廣く僧侶數十人ありて屈指の古刹なり

### 第三節 晋州郡

沿革 本と居烈州一名居隨にして新羅文武王取て州を置き神文王地を分ちて晋州を置き景德王康州と改め惠恭王復た晋州と爲す高麗太祖康州と改稱し成宗王二年牧を置き十四年晋州と改め節度使を置き定海軍と號し山南道に隸す顯宗王安撫使に改め後ち又牧とす李朝太祖の時晋陽府と爲せしか太宗王の時晋州に復し世宗王鎮を置きしか後世之を廢し郡を置き郡守を任置す

郡勢 本道の中部南邊に位し東は咸安宜寧二郡に北は三嘉丹城山清三郡に西は昆陽及び泗川郡に接し中部僅に海に面す郡内山岳起伏するも洛東の一支たる南江智異山に發源し郡を横流し其沿岸は沖積土の平野を爲して灌漑に富み道

中屈指の農産地にして耕地反別五千五百二十町歩の内水田は畑の約二倍を占む沿岸は概ね干瀉地にして鹽田多し住民の多數は農業に従事し傍ら棉花を栽培し綿布を紡織するもの多く古來其品質佳良を以て聞へ年産額百萬匹に達す其他商業を營み又製紙業に従ふもの少からず沿岸に少數の製鹽業者あり一般生計の状態隣郡に比し稍々裕なるの觀あり郡内戸數一萬八千九百餘人口八萬六千七百九十餘あり物産には前記の外米、麥、麻、生牛、鹽等あり

晋州邑 郡の中央に在り別名を晋州晋山又晋康と云ふ馬山を距る十三里餘、三浦を距る七里なり洛東の一支南江府城を環り形勝の地たり文祿の役日本軍の再度大苦戦を試みたる所なり馬山との間新道の開鑿成り交通便なり此地慶尙南道の首府として人家稠密なる一盛區なり毎月二、七の日城内又は城外に市場を開き米穀、綿布、麻布、魚類、鹽、煙草、紙、陶器、竹木、薪炭、生牛等の取引頗る盛なり邑民は農業又は商業に従事し生活の程度割合に高く金融亦圓滑なり朝鮮人二千九百七十戸一萬四百八十餘人内地人三百三十戸二十餘人居住す産物は米穀、牛、牛皮、木綿、麻布を主とす慶尙南道廳、郡廳地方裁判所支部、區裁判所、郵便局、監獄分



監警察署憲兵分隊農工銀行勸業會社學校組合地方金融組合手形組合採種園小學校公立普通學校等在り

晉州城 文祿の役細川忠興、加藤光泰、長谷川秀一、木村重尙等兵二萬を以て之を攻圍せしか勝たす後ち小西行長、加藤清正、黒田長政、淺野幸長、毛利秀元、小早川隆景、伊達政宗、浮田秀家、島津義弘、鍋島直茂、長曾我部元親、立花宗茂等の勇將大舉し精兵六萬を以て城に迫り攻撃一週日遂に之を陥れ兵六七萬を屠りたる大古戰場たり

臺石樓 晉州城樓中の南將臺たりしものにして結構宏大なり樓下斷崖數十丈南

江の流れ崖下を洗ひ遙に涉川里の沃野を望み眺望開豁風光美なり

義谷寺 城北鳳谷山の谷間に在り四方樹木に包まれ閑靜にして紅葉の季には滿山一紅其景筆すへからす附近に鳳谷池あり灌漑の用に供す

#### 第四節 金海郡

沿革 本と忽洛國一名伽耶と稱したる地にして後ち金官國と改め始祖金首露王より仇亥王に至るまで凡そ四百九十年の王都たり仇亥新羅法興王に降るや王

客禮を以て遇し封邑と爲し金官郡と號す文武王金官小京を置き景德王金海と改む高麗太祖府に陞し尋て降して臨海縣とす幾もなくして又郡に陞し成宗王金州と改稱し安東都護府に隸す顯宗王の時防禦使と爲し後世金寧都護府に改む忠烈王縣とし後ち更に金州牧を置く忠宣王の時牧を罷めて金海府に復し李朝之に因り太宗王に至り改めて都護府と爲し世祖王の時鎮を設け近世郡に改め今に至る

郡勢 本郡は本道東南部の海岸に位し東及北は洛東江の下流を隔てて密陽梁山の二郡竝に釜山府の一部に對し南部は海に而し西部は馬山府に接す地勢東北は禿山嶺峯參差し南部は沃野數里に亘り好箇の農耕地たるも洛東江岸の地は毎年河水汎濫して被害尠からす道路は比較的平夷なれども狹小にして車を通せず然れども洛東江には舟楫の便あり又對岸に近く京釜鐵道走り馬山線亦郡の北隅を横貫し交通概ね便なり住民は比較的勤勉にして農を業とし傍ら製荏に從事するもの少からす又瀕海地方は製鹽及び漁業を營み生計一般に困難ならず郡内朝鮮人一萬六千五百餘戸八萬二千二百餘人内地人三百餘戸九百五十



餘人あり農産物は米を第一とし産額道中第四位を占む其他麥、大豆、棉花、煙草、荏  
等あり近來内地人にして果樹蔬菜の栽培に従ふもの漸次多きを加ふ水産物に  
は蛤、大刀魚多く又鹽を産す郡内蘆田多く其面積及び産額半島に冠絶し其質良  
好なり蘆蓆、笠の年生産高二十五萬圓に達す

**金海邑** 郡の中央に位し洛東江を溯行すること里餘龜浦の對岸二里に在り西進  
永驛に四里を距つ北西南の三面丘陵起伏し東方一帶洛東江に臨み廣漠たる平  
野を控へ地質沖積土にして地味肥沃殆んど犁鋤の及はざる所なし邑民は農業  
に従業し商業を營むもの多し經濟狀態概して順調にして貧困者少し市場は毎  
月六回開市し釜山、馬山、梁山等と連絡あり取引盛に行はれ其高一箇月平均四千  
圓なり邑内朝鮮人四百二十戸、千七百八十餘人、内地人三十戸九十餘人あり産物  
は米、麥其他雜穀、蘆蓆、笠等とす郡廳郵便局、憲兵分遣所、學校組合、小學校、公立普通  
學校、私立學校、地方金融組合等在り

**洛東** 大上面出頭里洛東江岸に在り馬山線の一驛にして三浪津より一哩餘を隔  
つ東西五里南北四里に亘る一大沃野を控へ水田其六七分を占め道中主要の農

業地たり蔬菜果樹の栽培亦年々多きを加ふ朝鮮人五百四十餘戸二千餘人、内地  
人七十餘戸二百八十餘人居住す學校組合、小學校、産業株式會社等在り

**進永** 下界面進永里に在り三浪津を距る十哩餘馬山線停車場所在地たり此地元  
と廣漠たる荒蕪地なりしか鐵道開通後内地人の移住者漸く多く村井吉兵衛氏  
の經營に係る村井農場は特に農夫を招致して三百町歩に亘る施設經營を爲せ  
しか洛江汎濫の爲め年々の被害夥しく遂に本夏事業中止を斷行するに至れる  
は惜むへし巡查駐在所郵便取扱所學校組合、小學校在り

**駕洛** 駕洛面竹林里に在り洛東沿岸に位置す舟楫の便ありて農産物の移出場た  
り内地人の居住者多く學校組合、小學校在り

**金海城** 金海邑に在り文祿の役、府使徐禮元此城を固守し遂に日本軍の爲に破ら  
れたる處なり又益城臺は駕洛國宮殿の故址なり

#### 第五節 密陽郡

**沿革** 新羅朝の推火郡にして景德王改めて密城郡と爲す高麗の初朝之に因り成  
宗王に至り密州刺史に改め顯宗王密城郡事と爲す忠烈王元年鷄林に屬し尋て



密城縣と稱し數年の後更に郡とし幾もなくして又縣に復し恭讓王府を置く李朝太宗の代再び郡と爲し尋て復た府に改む太宗王の時郡とし後ち都護府に改む中宗王降して縣とし割て清道、慶山、靈山、玄風に分屬せしめしか數年にして密陽都護府に復す後世郡と改め爾來今に至る

**郡勢** 本郡は本道の東北部に位し地形東西に長く南北に狭し東南は彦陽梁山二郡に接し南は洛東江を隔て金海郡及び馬山府に對し西は靈山昌寧二郡に隣り北は清道郡を以て慶尙北道に境す北東西三面は山脈を以て繞らすも其他は概して平夷にして沃野連り耕地反別一萬一千餘町歩に達し密陽江(漣川)郡の中部を貫流し洛東江に合して南境を洗ふ兩江の流域は耕地廣く灌溉に便なるを以て水田多く農産豊穰す耕野の一部は例年江水氾濫して耕作物を害すること少からず京釜鐵道郡の中部を横斷し道路は概ね平坦にして交通便なり住民は士林多數を占め性頑迷に傾き團結力に乏し主として農耕に従事し生計に困難する者少し米年産額六萬六千餘石、大麥九萬八千餘石、大豆二萬五千石にして其他雜穀、煙草、棉花等を産す就中地味氣候共に煙草に適し現産年額八萬貫なり郡内

戸數一萬九千七百餘、人口八萬二千三百餘あり

**密陽邑** 郡の中部に位置し京釜線的主要驛にして釜山を距る北方三十八哩餘に在り東西及び北は丘陵を繞らすも南部は平野を擁し凝川を控ふ邑は城壁を以て圍繞し四樓門を設く四方各地より來る道路は邑内に集中す邑民の生業は農商相半し傍ら養蠶を爲すものあり商家は城内に軒を連ね商況盛なり生計一般に困難ならず經濟順境なるか如し産物は米、麥、大豆、果實、野菜にして又鮎は此地の特産物たり内地人の居住するもの逐年増加し現に二百八十餘戸九百二十餘人朝鮮人千四百六十餘、戸六千七百四十餘人あり郡廳、區裁判所、憲兵分遣所、郵便局、學校組合、小學校、公立普通學學校、實業校、地方金融組合等在り

**三浪津** 釜山を距る北方三十二哩、洛東江岸の一要津にして京釜馬山兩鐵道の分岐點たり交通便にして土地膏腴農産に富むも毎年水害に遭ふを遺憾とす内地人戸數百八十餘、人口三百七十餘あり其の多數は商業に従事す學校組合、警察署、小學校、郵便所、養蠶所等在り

**嶺南樓** 密陽邑の東端に在りて元と嶺南寺の一部たり左右丘阜峙立し前面一大



平野を望み凝川の清流足下を洗ひ風光明媚なり樓内楯間江山如畫の四字を題す

鶴院關 三浪津驛の東南約半里に在り慶尙中路の要害地たり石を疊んで穹窿狀の門を作り其上に層樓を戴く背後は峨々たる巉岩を負ひ絶壁數仞碧潭に菴む風景絶佳なり文祿の役小西行長宗義智等此關に到り奇計を以て敵將李珪及び密陽府使朴晉等の兵を潰走せしめたる古戰場なり

第六節 蔚山郡

沿革 新羅の屈阿火村にして婆娑王始めて縣とし景德王名を河曲と改め臨關郡の領縣とす高麗太祖の時東津虞風二縣の地を之に合せ陞して府と爲し興麗と號せしか後ち恭化縣と改稱し尋て知州事とし顯宗王防禦使を置く李朝太祖六年鎮を置き兵馬使を以て知州事を兼ねしめしか太宗王十二年鎮を罷め蔚山と稱し知州事と爲し十五年郡治を以て左道兵馬都節制使營とす世宗王の時營を廢して復た鎮と爲し兵馬僉節制使を以て知州事を兼ねしめ十年の後陞して都護府と爲し又左道節制使をして府事を兼ねしめしか幾もなくして郡に復す近

世郡守を任置し現今に及ぶ

郡勢 本道の東北隅に位置し北は雲門山脈を以て長鬐郡に、西は文珠山を以て彦陽郡に劃り南は機張、梁山二郡に隣し東は日本海に面す廣袤二十方里あり郡内山脈の連亘するものもあるも其間又平野少からず殊に大和川の流域は沃野廣く道内主要の米産地にして年額四萬一千石を産し又大豆の多産地たり道路は北慶州に、南機張に通ずるものを首要とすれども不完全にして交通便ならず然れども本道東海岸中最良の蔚山灣港あるか爲め水路の交通は便利なり氣候は海洋的にして温和なり住民は農業を主とし商業者漁鹽業者の數相伯仲す生活の程度は比較的高し郡内戸數一萬六千百餘、人口七萬五千百三十あり農産物は米、大豆、麥、煙草、木綿、麻布、生牛、牛皮、鹽にして水産には鱒、鯛、鮑、鱈、和布及び海苔多く又近海は著名の捕鯨場たり

蔚山邑 蔚山灣澳を距る約二里に位置し慶州の南方八里、釜山と海路十七里を隔て附近平地を控へ農耕に適し本道東北部に於ける物資集散の要地として商業盛なれども陸上交通機關は未だ不備たるを免れず住民は農商相半し生計稍裕



にして貧窮者少し産物は米穀を主とす朝鮮人九百八十戸四千三百人内地人二百三十餘人居住す郡廳區裁判所警察署學校組合地方金融組合税關監視署郵便所巡查駐在所小學校在り

長生浦 蔚山灣内の中間に在り釜山と水路三十湮を隔つ灣は釜山元山間の唯一の大灣にして灣口幅員一湮半に過ぎざるも灣入四湮半に及び西岸は水深く且四方の風浪を保障せる小島ありて大船を容るるに足る此地は内地人漁業根據地にして附近鱸の漁獲は半島中に冠たり税關出張所學校組合魚市場東洋捕鯨會社巡查駐在所小學校在り

方魚津 蔚山灣内東岬の一港にして東西北三面は丘陵を以て包まれ前面外洋に面し灣口に瑟島と稱する小島浮ひて風致を添へ且つ風浪を保障し港内水深く五六百噸の船舶は安全に碇泊するに足る近年防波堤完成したるを以て屈指の避難港たるに至れり附近水田多く又新材に富み鱸及鱒を多産す内地人移住漁業者百八十人其の他商賈雜業者五百餘人居住し尙ほ朝鮮人百二十餘人ありて一市街の體裁を成せり學校組合郵便所朝鮮海水産組合出張所小學校鮑罐詰製

造所清酒醸造所等在り

蔚山城 上府面に在り文祿慶長役の古戰場中最も著名なるものにして慶長二年十二月加藤清正淺野幸長の二將か明の三十三將及び韓の七將を率ゆる總軍十四萬の重圍を此城に受け屍を食ひ尿を嘔り惡戰苦闘を盡して城を固守し明年小早川秀秋等の來援に依り終に明兵を破り八道を震駭せしめたる所なり城趾今尙ほ存す

### 第七節 咸安郡

沿革 本と阿尸良國一名阿那伽那國にして新羅法興王之を滅ほし景德王今の名に改む高麗成宗王の時咸州刺史とし顯宗王の時咸安に復名し金州(金海)に屬す明宗王監務を置き恭愍王二十二年陞して郡とし李朝之に因り爾來今日に至る郡勢 本道の中部に位し東南竝に西南は馬山府及び晉州郡に隣し西北は宜寧郡に北は靈山郡に接す西南は山岳重疊し餘脈郡内に起伏し巴陵山匡廬山紫陽山防禦山等の諸峯著はれ地勢概して西南部に高く河水は皆北流して洛東江の分流たる南江に注入す土質は砂礫又は埴土にして地味概ね肥へ灌漑の利に富み



耕地總反別二千四百四十町歩の内水田千九百町歩を越ゆ然れども治水の途未だ開けず自然に放任するを以て南江沿岸一帯の地は水害比々として至り不毛の平野數里に涉れり馬晉街道郡を中貫し馬車を通し其他の道路は阪路あるも交通上甚たしき不便なし住民の多數は農業に従事し少數の商業を營むものあり郡内戸數一萬五千餘、人口七萬七千餘あり

**咸安邑** 馬晉街道を距る一里、馬山と三里を隔て其間道路平坦挽車を通す西晉州南鎮海、北宜寧及び靈山に通する郡道ありて何れも輻輳一間を超へ其間阪路あるも交通上大なる困難なし邑民は農業又は商業に従事す物産は米、麥、大豆、麻、果實にして礦産に金、銅、鐵あり郡廳、郵便所、巡査駐在所、公私立普通學校在り

## 第八節 河東郡

**沿革** 新羅の初め韓多沙郡と稱し景德王に至り今の名に改め高麗顯宗王の時晉州に屬し明宗王監務を置く李朝太宗の朝南海縣を併せて河南縣と呼ひしか後ち又分ちて縣監とす後世郡に陞し今日に及ぶ

**郡勢** 本道の西南端に位し東南は昆陽郡に接壤し西南は蟾津江を隔てて全羅南

道光陽、求禮二郡と境し北は山岳を以て山淸、咸陽兩郡に隣し地形南北に長く東西に短し郡内山多く有名なる智異山脈は郡の西北部に巍峩として蜿蜒連亘し人跡を絶つの深山幽谷少からず従つて北部一帯の交通は不便にして重に蟾津江舟楫の便と光陽に通する一條の、通路に依り來往す然れども江の流域地方及び郡の南方は耕地開け農産に適し道中晉州郡に次く農産地たるの外煙草の多産地にして其耕作面積は頗る大なり住民は農を以て業とし米の産額は道中第三位を占む其他麥、棉花、大麻、煙草、生牛を産す又智異山よりは良材を出す郡内戸數一萬二千餘、人口五萬四千餘あり

**河東邑** 慶南全南二道の境を流るる蟾津江の下流左岸に位置し晉州の西十一里、光陽の東六里に在り道路は多く不完全なるも光陽に通するものは改修を施せるか爲め面目を改めたり舟運の便あるも灣内一帯三里に亘る遠淺にして潮流を利用せされは大型帆船を行るを得ざるか爲め小舟にて三千浦、露梁津、脆水へ寄港する汽船と連絡を取るに過ぎず此地は附近の産物集散地にして市況繁盛を極む集散貨物の重なるものは海苔、煙草、紙、米穀、青竹、生牛等にして邑民は農又



は商を以て生業とす内地人戸數五十、人口百二十餘、朝鮮人三千人あり郡廳守備隊憲兵分遣所區裁判所警察署郵便所地方金融組合等在り

第九節 固城郡

沿革 本と加耶國にして新羅之を取り古自郡を置き景德王固城と改む高麗成宗王の時固州刺史とせしか後ち縣と爲し巨濟に屬し其後縣令を置く元宗王州と爲し忠烈王の時南海に併せしか尋て復舊し恭愍王の時縣令と爲し李朝之に因りしか近世郡に改め郡守を任置す

郡勢 本道の南部海邊に位置し東は馬山府及び龍南郡に、西は泗川郡に、北は晉州郡に接し南方一帶海に瀕す山脈は東西に連走し尙ほ幾多の支脈あるも概ね峻嶒ならず大體の地勢は郡の中央を中心として四方に緩斜し河川は四方に向て流る沿岸は概して南に面し布橋崎、鍋崎、放火崎の岬角によりて自ら三箇の相連接せる大灣を成し最も重要なを固城灣とす南岸多くは遠淺にして干潮の際は廣大なる干潟地を露出し處々に鹽田あり耕地總反別は四千九百町歩にして灌漑の利多く其大部分は水田を爲す水陸の交通は便利と稱するを得す住民の

多數は農業又は漁業に従事し又商業者及び製鹽業者あり郡内戸數一萬二千七百餘、人口五萬八千九百餘あり物産は米、麥、大豆其他雜穀、生牛、牛皮、鱧、鱈、鯉、鯛其他の魚類、鹽等なり

固城邑 東邑面に屬し固城灣の北隅に在り統營の西北五里、泗川の東南六里に方り灣口西南遙に蛇梁島を望み灣入三漚なれども約一漚は遠淺なり背後に肥沃なる平野を控へ本道屈指の米産地にして東洋拓殖會社の營農地たり邑民は農業又は商業に従事す朝鮮人戸數八百、人口四千餘、内地人四十餘戸百五十餘人あり産物は略々郡に同じ郡廳、巡查駐在所、學校組合、地方金融組合、小學校、公立普通學校等在り

壯佐洞 葡萄面に屬す漁業者の飲料水供給地たり沿海、鱧、鱈、鯛を多産す廣島縣人の漁業根據地にして巡查駐在所、學校組合、小學校在り

第十節 宜寧郡

沿革 本と新羅朝の嶺含縣にして景德王宜寧と改め咸安郡に隸屬す高麗顯宗王晉州に轉屬せしめ恭讓王の時監務を置き李朝の初め之に因り後ち縣監に改め



しか近世郡と爲し今に至る

**郡勢** 本郡は本道の中部に位し、東は咸安郡に、西は三嘉郡に、南は晋州郡に、北は草溪郡に接す。西北部は山岳起伏し、閭囂山等の高峻あるも、其他は概ね平夷にして耕地一萬町歩を超へ、畑地面積は本道中各郡に冠絶す。洛東江の支流郡の東界を環流し、運輸交通共に概して便利なり。住民は一般に順朴にして、農業を主とし、赤貧者稀なり。郡内戸數一萬二千餘、人口五萬五千百餘あり。産物は米、麥、大豆、其他雜穀、楮皮及び紙等なり。

**宜寧邑** 豊徳面上洞に在り、東咸安及び馬山、西南晋州、西三嘉、北草溪の各都邑に通ずる道路を有し、就中馬山三嘉に達する交通最も便なり。邑民中重なるものは農を業とし、商業に従事するものは中産以下に多し。移出品は洛東の支流南江の一津たる鼎岩洞より水路三浪津及び釜山方面に仕向くるを例とし、一般日用雜貨等の取引は馬山を主とす。金融機關の設けなきも、金融比較的圓滑なり。産物は米穀紙を主とす。邑内朝鮮人七百六十戸、三千餘人、内地人十五戸、五十人あり。郡廳、郵便所、巡查駐在所、私立普通學校等在り。

第十一節 居昌郡

**沿革** 本と居烈又居陞郡と稱す。新羅居昌と改め、高麗の初朝之に因る。顯宗王に至り、陝州(陝川)に隸屬せしか、明宗王復舊し、李朝太宗王巨濟に移屬せしめ、濟昌と號せしか。後ち分置して、故の如し、燕山王の時陞して郡とし、中宗の朝縣に復し、孝宗王安陰に屬せしめしか。顯宗王の時又分置す。尋て安義の一部を併せ、府と爲せるも、後世郡に改むるに際り、割て安義に附し、現今に及ぶ。

**郡勢** 本郡は本道の西北隅に偏在し、東は陝川郡に、南は山淸郡に、西は安義郡に接し、北は全羅北道茂朱及び慶尙北道知禮の二郡に境す。地勢北方は峻險にして、加耶山は慶尙北道の界に聳立し、丘峯山の峻嶺、全羅北道の境に蟠り、餘脈北部に起伏し、南部に傾斜し、洛東江の支流郡の中部を流る。南部一帯の地は平地連り、灌漑の利に富み、耕地面積四千百餘町歩の内、水田は三千四百町歩の多きを占め、米産額道中第二位に在り。住民は専ら農を業とし、生計概して裕ならず。産物は米を第一とし、麥、大小豆、大麻、楮等之に亞き、又綿布、紙、莞、蓆等を出す。鑛物に金、砂金、陶土あり。も未だ採掘するに至らず。戸數一萬七百餘、人口四萬六千八百餘あり。



居昌邑 川内面林里に在り、河流邑内を流れて附近の耕地を濕す道路は邑を中心とし、東陝川に、西安義に北知禮に通すれども概ね嶮路にして交通困難也。邑民は農業を主とし、間々雜役に従ふ者あり、金融逼迫し生活状態裕ならずも甚しき窮貧者は稀也。邑内朝鮮人一千餘戸、内地人二十餘戸、八十餘人あり。郡廳守備隊憲兵分隊、區裁判所、郵便局、地方金融組合、公立普通學校及び私立學校あり。

## 第十二節 陝川郡

沿革 本と新羅朝の大良郡にして、景德王改めて江陽郡と爲し、高麗顯宗王の時陸して陝川と改め、知州事を置き、李朝太宗王更めて今の名とし、郡と爲す。後世郡守を任置し、今日に至る。

郡勢 本郡は本道の西方北端に位し、東南は草溪郡に接し、東及び北は高靈、星州の二郡を以て慶尙北道と境し、西北は居昌郡に、西南は高峻なる山脈に依り、三嘉郡との界を劃す。廣袤東西十里、南北五里あり、四境遶らすに山岳を以てし、有名なる伽倻山の餘脈は蜿蜒として慶尙北道との境を劃り、餘波郡内に重疊するを以て北部一帯の地は平野に乏しく、緩に山間溪谷に於て耕地の點在するを見るに過

きされども南方を東流する南江流域にありては展開せる耕地を成す。江は西北方安義郡に發源し、居昌郡を経て本郡の南部を流れ、草溪郡に入り、洛東江上流に注ぎ、灌溉の便ありと雖も、河床荒廢し、累年耕地の水害を被むること尠からず。東草溪及び西居昌に連接する道路は南江に併行し、其他北高靈、南三嘉に至る道路あれども、何れも嶮惡なる隘路にして運輸交通の便を缺く。本郡は本道の偏陬に位置し、住民は性比較的朴訥にして、専ら農を業とし、生活の度低く、粗衣粗食に甘んずるもの如く、隨て生計上甚しき困難を訴ふるもの罕なり。産物は穀類、紙、麻、布、莞、蓆等とす。戸數九千五百餘、人口四萬六千三百餘あり。

陝川邑 本郡の東南に偏位し、南江邑内を貫流す道路は邑を中心とし、南晋州に至る十三里、東方十五里にして、馬山に達し、北大邱を距る十四里あり。何れも峻阪多く、挽車を通せず、交通便ならず。唯晋州間の道路は近來修復を施せるを以て、往來比較的容易なり。邑民は農を生業とし、生計裕ならず、産物は畧々郡に同し。内地人居住者二十戸五十餘人あり。郡廳警察署、郵便局、地方金融組合あり。

海印寺 郡の西北端各寺、面伽倻山中に在り、陝川邑より約八里を隔つ、四面峯巒圍



繞し清溪潺々として其間を縫ひ縈廻馳走す境内は寺を中心として東西南北各々一里餘あり伽倻の最高峯は北より東に連亘して道界を劃り西は居昌郡に界す山中檜、樺、楓等の落葉樹森々として繁茂し交ゆるに老松を以てす境内幽邃閑雅にして塵寰を絶ち眞に靈境たるの感あらしむ寺は今を去る凡そ一千百十年新羅哀莊王の二年名僧順應の創立する所にして其後數回火災に罹り現今の伽藍は九十三棟に及び多數の僧侶居住す又附屬海明學校あり

## 第十三節 咸陽郡

沿革 新羅の初朝速合郡或は含城と謂へり景德王に至り天嶺郡と改め高麗成宗王陞して許州と爲し都團練使を置く顯宗王の時含陽郡に改め陝州(陝川)に隸屬せしめ明宗王に至り縣と爲し監務を置き李朝太祖の時郡に陞し後ち府と爲し近世に及び郡に改め現今に至る

郡勢 本郡は本道西邊の中部に位し東は山淸郡に、北は安義郡に接し南は智異山系を以て河東郡に隣し西方は雲峯長水兩郡を以て全羅北道に境す地勢一般に高峻にして北方より來る六十嶺山脈は蜿蜒として西部道界を劃し智異峻峯は

東南山淸河東二郡の界に屹立して餘波郡内に蔓延するを以て到る處山岳重疊し平地頗る少く山間溪谷及び東部河流に沿ひて狹少なる平地を見るのみ地勢此の如きを以て北安義、西雲峯及び東山淸に通ずる道路われども何れも峻路にして交通便利ならず住民の大部分は農を生業とし商工業に従事するものは極めて少く生計概して困難なり産物は穀菽、紙、煙草、木材等にして又金を出す戸數八千六百餘、人口四萬三千三百餘あり

咸陽邑 元水面に在り西及び南は山岳迫れども東方展開して河流の沿岸一帯に耕地を有す東山淸に六里、北安義に四里、西雲峯に五里を隔つ道路は何れも峻惡にして攀登急降交通容易ならず邑民は専ら農を業とし傍ら日用品の販賣を營むものあり生活の程度は劣等なり産物の主なるものは米、麥、大小豆、紙、煙草にして内地人數戸居住す

智異山 南鮮秀逸の連山にして郡の東南に於て本郡、山淸、河東の三郡に跨る山脈の總稱なり其最高峯を智異山峯と云ひ海拔六千六百尺に達す地質片麻岩より成り全山鬱密たる老樹を以て掩はれ就中唐檜、海松、赤松、樺、シラベ、檜、シデ等最も



多し登山は河東よりするを便とし山中羊腸崎嶇たる小徑あり溪流潺々として走るあり或は急湍溜々として飛沫散亂するあり神心爽快涼味禁する能はず山腹に雙溪寺の古刹あり河東より上ること凡そ六里半風光幽邃の地を占め巨木鬱蒼として晝尙は暗く流水奇石を喰み實に天興の勝地たり前面の大門には三神山雙溪寺の六字を刻み兩側に四天王像を安置す全長凡そ一丈六尺彫刻亦妙なり今を去る三百六十年前の作に係ると傳ふれども其沿革詳ならず境内青鶴樓は最も高丘に位し風景殊に絶好なり仰けは老樹鬱蒼として日光を遮り俯して脚下を望めは溪間の奔流恰も白布を晒せるか如く展望すれば蟾津江の流域指呼の間に在り遠く北方六十嶺中に聳ゆる白雲嶺は恰も屏風を連ねたるか如く實に幽勝閑雅の樂園と云つへし

**七福寺** 智異山中六合目に在り雙溪寺より尙ほ二里を隔つ附近眺望絶佳風光明媚なり寺は雙溪寺に比し規模稍々小なりと雖も工技見るべきものあり傳へ云ふ今を去る千二百年前一老翁草庵に居し朝夕經本に親み仙人玉寶高と交りしか仙人天に向て吹笛するや鶴雲間より顯はれ喜遊するを例とす忽洛國王之を

聞き佛教に志し七王子を擧げて佛門に入らしめ玉仙人の門弟とす仙翁百七歳に達し遷化するに當り遺言して曰く此所に佛殿を建立し以て後世に傳へよと即ち此七福寺を建つ其後頽廢に歸し凡そ三百八十年前再建せざるものなりと云ふ

**楸城** 智異山中天王峯に在り一名朴西城とも云ふ百濟朝の城趾にして新羅と防戦せし處なりと

#### 第十四節 巨濟郡

**沿革** 新羅文武王始めて郡を置き裳郡と稱し景德王巨濟と改む高麗顯宗王縣令を置きしか元宗の時住民倭寇を避けて一時退去す李朝太宗王居昌と併せて濟昌縣と名けしか尋て之を罷む近世郡と爲し郡守を置く

**郡勢** 本郡は巨濟島及び其附近の島嶼より成る本道の東南端に位置し陸土と相對し其間鎮海灣及び統營灣を形成し東は加徳島を狹て釜山及び對馬と相對し南は大平洋に面し西は群島を以て南海郡に接し北は鎮海灣を隔てて馬山府及び龍南郡に向ひ見乃梁水道は鎮海灣と統營灣との海峡にして實に本道の咽喉



たり釜山を距る五十四哩、馬山を距る三十三哩なり、廣袤東西約八里、南北約十二里にして、島内山脈連亘し、鷄龍山、加羅山、鷲山、大今山等の高峯各方に聳立し、耕地少く山野林相を見ず、然れども地味肥へ草類到る處に繁茂し、全島殆んど牧場たるの概あり、沿岸線延長約六十里に達し、屈折多く港灣に富み、四季の漁撈に適する多數の漁場を有し、朝鮮沿岸中屈指の好漁場たり、住民は概して質朴にして、生業は半農半漁なり、農業者は大部分小作人にして、農事收穫物は多く地主たる龍南郡民に徴せられ、其殘餘の穀類を以てしては郡内の需要を満すに足らず、生計に困難するもの少からず、朝鮮人戸數八千二百餘、人口四萬三千六百餘、内地人は七百五十戸三千七百四十人あり、内地人の大多數は漁業に従事す、農産物は米、麥を主とし、水産物は鱈、鯛、鱒、鯖、比目魚、鰈、鮑等の魚介及び海草にして、又生牛を出す、鑛業は未だ確實なる施業を見ず

**巨濟邑** 巨濟島の西南竹林灣澳に在りて釜山へ五十四哩、馬山へ三十三哩、統營へ二十哩を隔て水路の交通便利なり、邑民は農業を主とし、又少數の商業者あり、米、麥、豆、牛、魚類、海草を産す、朝鮮人四百二十戸、千七百七十八人、内地人二十餘戸、七十八人居住

す郡廳、學校組合、郵便局、巡查駐在所、小學校、普通學校、漁業毛茛組合等在り

**長承浦** 巨濟島の西北端に位する一漁港にして、三面山を以て圍まれ、一方海に通し、地味肥ゆ、漁船常に集合し、釜山との間汽船の定期航行あり、其北岸二運面に入佐村あり、前岸に防波堤を築き、舟泊に便す、重要な一漁業根據地にして、内地人百四十餘戸、五百餘人定住し、漁季には三千人に達す、水産物の重なるものは鱈、鱒、鱒にして、税關監視署、郵便局、學校組合、小學校、魚市場在り

**松眞** 巨濟島中の一港灣なり、學校組合、郵便所、小學校在り

**蜂谷村** 鎮海灣の南部漆川島岸の一浦なり、灣は南方に開け、水道を隔てて巨濟島河清面と相對し、水深十尋乃至十五尋あり、馬山へ十五哩、統營へ十四哩あり、漁船の避難又は飲料水汲取の爲め寄泊するもの絶わす、鱈、鯛、鱒、章魚等を多産す、内地人三十戸、二百餘人居住す、學校組合、郵便所、小學校在り

**知世浦** 長承浦の南方に於て西方に灣入する一港なり、灣口狭く、内稍々廣く、水深くして、數隻の巨船を入るに足る、港口に知三島在りて、風浪を防止す、内地人家二十餘戸にして、學校組合、巡查駐在所、小學校在り



舊助羅 知世浦灣の南方に於て東南に面する一灣なり灣内水深く灣口に助羅島外一島浮ひ風浪を保障し船舶の碇泊安全なり往年助羅營の所在地たり内地人四十戸百六十餘人あり學校組合、小學校在り

第十五節 南海郡

沿革 本と海中の一島なり新羅神文王初めて轉也山郡を置き景德王南海と改む高麗顯宗王縣令を置き恭愍王の時倭寇の爲め人民晋州大也川部曲に移寓す李朝太宗王の時河東に合し河南縣と稱せしか後ち河東縣を復置し晋州の一部を來屬せしめて河陽縣と號せしか暫くにして又復舊し南海と稱す世宗の朝昆明縣を合せしか幾もなく之を分ち縣令とし中宗王の時縣監と爲せしか近世に至り郡に改む

郡勢 本郡は昆陽郡の前面に横はる島郡にして南海島、昌善島及び附近の島嶼より成る南海島は南北六里餘東西四里餘の大島にして島の中央より稍東に偏して地峽を有し東西二島を連接するの狀を爲し地峽の南北は共に廣大なる灣入を形成す島内山脈連亘し南岸は概して高峻なるも北岸は緩傾斜にして干瀉地

多く處々に鹽田あり本土の交通は重に雪川面の鷺梁津より昆陽郡の鷺梁津に渉るものとす住民は農業、牧畜業、漁業に従事し少數の商業者製鹽業者あり農業者は副業として麻織を爲すもの頗る多し郡内戸數一萬百二十、人口四萬一千七百餘あり陸産物は麥、粟、麻、生牛にして水産物の主なるものは鱈、石首魚、鱈、大刀魚、鯛、海鼠なり

南海邑 南海島の北西部に在り別名を花田又は輪山と云ふ三里餘にして鷺梁津に至り之より本土と交通す市場ありて毎月四、九の日を以て開市し日用雜貨を集散す邑民は農業又は商業に従事し人口四百二十あり産物は略々郡に同じ郡廳、巡查駐在所、郵便所、私立學校等在り

鷺梁津 雪川面に在り邑を距る三里餘なり昆陽郡鷺梁津と相對し南海島より大陸に至る渡船場たり沿岸は地味瘠薄なるも灣奥より峽谷に入れば水田克く開かる民家四十ありて巨碑を建つ往年水軍節度使たりし智勇兼備の名將李舜臣の勳功碑なり高さ一丈餘巾四尺の青石にして上部に雲龍を刻み盤石蓮花を彫刻す製作精巧なり



**昌善島** 廣袤東西三里南北二里半にして南は南海島に對し其間只簇津によりて來往す島の中部は丘陵連亘し氣候中和にして地味概して肥へ農耕に適し芋は到る處に叢生す昆布、海苔、鯛、鱈、烏賊、蛤、鳥獸等を産す

## 第十六節 龍南郡

**沿革** 往古小伽倻國の屬地にして新羅以來固城郡の所屬たりしか李朝に至り其南方一部を割き附近に羅列する島嶼を併せて新設したる一郡にして當時鎮南郡と稱せしか隆熙三年三月龍南と改名し今日に至れるものなり

**郡勢** 本郡は固城郡の東南より南方に突出せる一半島及び附近海上に在る數多の島嶼を併轄し半島の北方には巨流山、百房山屹立し餘脈南走して海に没し尙ほ左右に分走せる幾多の山脈ありて平野を存せず僅かに谿谷及び沿岸に狭小なる耕地を有するのみにして全部の耕地總反別は千五十町歩に過ぎずして田畑相半せり河川あるも流域短く且つ傾斜急にして水量少く舟楫の利なし陸路交通は概して困難なれども海路は船舶の來往頻繁なるかため不便ならず住民は李舜臣以來の歴史の爲め今尙ほ自恃外侮の氣風を存し頑固にして且つ卑陋

の癖を脱せず生業は農業漁業商業又は工藝品製作に従事す農産額は郡内の需用を充たすに足らざるか爲め生計に苦しむもの少からず郡内戸數九千八百二十餘、人口四萬一千七百餘あり産物は米、大豆、麥、帽子、漆器、鱈、鯛、石首魚、和布、天草、海苔等なり

**統營邑** 半島部の中央鎮海灣の西口に位する一港にして昔時忠清全羅慶尙三道の水軍統制營の所在地たり一に右水營と稱す馬山より海上二十八湮を隔て沿岸航行船によれば僅かに三時間半にして達す其前面には巨濟、彌勒、閑山等の諸島ありて屏障を爲し港内波靜に中央の水深は三尋乃至四尋にして小汽船の寄泊に適し南海出漁船の集合場たり市街は山に凭りて城廓を繞らし周圍約五韓里あり沿岸四邊を環れる丘陵は樹木茂り山水の景に富み港頭高く一樓門ありて受降樓と名け文祿征韓軍の近海に敗北したる紀念たりしか今は撤去して其跡を残すのみ市場ありて毎月二、七の日開市し白米、大豆、涼臺、帽子、煙草、木綿、麻布、芋、麻、油、鹽、魚類等を集散し商況盛なり邑民の多數は商工を業とし少數の日稼業者あり朝鮮人二萬餘人、内地人千三百餘人居住す物産は米、穀、魚類、海草にして螺



釧の漆器は當地の特産品たり郡廳區裁判所警察署地方金融組合學校組合憲兵分遣所税關監視署水利組合魚市場小學校公立普通學校工業傳習所鮮人商業會議所等在り傳へ曰ふ丹後の國與謝郡宮津の漁夫浦島太郎遠漁して還らす其儘龍宮に入り百數十年の後童顔にて歸國せりと云ふ龍宮は即ち統營にして太郎は此地に假居し土人の女を娶りて子孫を傳へ終焉せしか其子孫太右衛門と稱するもの父祖の郷を慕ひて宮津に還れるなりと今其眞偽を詳にするを得ず

**岡山村** 統營灣の前面彌勒島南浦に在り島は周回七里にして統營との間太閤堀と稱する堀割水道を隔つ寄泊地は島の東北部に位し背後に彌勒山脈を負ひ前方統營灣に面し水深四尋あり統營邑まで陸路二里海路約半里なり岡山村は岡山縣人の漁業根據地にして移住者は三十餘戸百餘人なり學校組合郵便所小學校在り鱧海鰻海鼠等を産す

**閑山島** 彌勒島の東に在る一島にして周回三里あり北部に灣入ありて寄船に便なり文祿の役李舜臣の水軍根據地たりしと云ふ土佐漁業團の根據地たり

**欲知島** 内地人は鹿島と呼ぶ統營を距る南西約十八里にして北岸に東港あり

水器業者の漁業根據地にして内地人百二十餘人居住す釜山水産會社にては島内蘆台に敷島村を組織し汽船をして釜山間の往復を爲さしむ鱧鯛及び鱈を多産す

**蛇梁島** 彌勒島の西約三里に在り上下二島より成り其間海峡を成す兩島沿岸は概ね峻崖なるも錨地に乏しからす附近魚類を産すること少からす

### 第十七節 昌寧郡

**沿革** 新羅時代の比自火郡(名比斯伐)なり眞興王下州と稱せしか尋て復舊す景徳王火王郡と改稱し高麗太祖の代今の名と爲し顯宗王の時密城郡に屬し明宗王監務を置く李朝に至り改めて縣監と爲し近世郡に改め郡守を置く

**郡勢** 本郡は本道の東北部に位し東は密城郡及び慶尙北道の清道郡に連なり北は慶尙北道玄風高靈二郡に境し西は洛東江を隔てて草溪宜寧兩郡に對し南は靈山郡に隣す東方に火旺山の連峰突兀として聳へ洛東江北西郡境を環流し地勢東方に高く西方に向ひ緩斜す其間山岳重疊し丘陵起伏して平野廣からさるも大見川兎川の流域及び洛東江岸には良田沃野少からす然れども雨季に際し



ては江水汎濫して殆んど郡内四分の一の田圃を没すること屢々なり道路は四通八達し大邱及び馬山に通ずるものは稍々平夷なるも其他は峻阪險峙を踰ゆるにあらざれば達せず洛東江の水路を利用し物資の運搬に資す住民は多く保守固陋の性を有し概ね農耕に従ひ商工業を營むもの極めて少し富の程度は素より高からざるも窮貧者は少し物産は米、麥、大豆を主とし棉花、大麻、煙草、之に次ぎ牛馬あるも矮小なり未だ工業として見るべきものなし郡内朝鮮人八千二百餘戸四萬人内地人三十戸六十餘人居住す

**昌寧邑** 邑は郡の東隅に在り南靈山を経て馬山に十一里半、西宜寧を経て晋州に十七里、北玄風を通して大邱に達する十一里、密陽邑とは八里を隔つ道路は大抵峻惡にして交通便ならず通信機關亦完備せず邑民は概ね農業に従ふも又市場商人を相手として飲食店業を營むもの少からず概して其日暮しにして勤勉力行の風を缺き兩班儒生にして遊逸徒食を事とする者多く經濟状態は自給自足なり金利高く金融逼迫を常とす農産物の外特産品なし戸數七百人人口三千百餘人にして其内ち内地人五十餘人あり郡廳警察署、郵便所、公立普通學校在り

**古塔** 邑内に在り花崗石三層の塔にして高丈餘あり新羅の遺物なりと云ふ彫刻凡ならず形像亦雅趣あり

**火旺山城** 邑の東に常り巍峩として群峯に秀拔す山骨裸出し山顛平坦なり文祿の役將軍忠翊公郭再祜此山城に據り日本軍を苦めたりと稱す今は城壁頽廢し僅に殘址を留むるのみ昔時山上九泉三池あり藥水湧出したりと傳ふるも今發見せず

#### 第十八節 梁山郡

**沿革** 本郡は新羅文武王の時上川下州の地を割て耽良州を置きしに始まり景德王の時良州と改め高麗太祖梁州と改稱し顯宗王防禦使を置き後ち一ひ密城(密陽)に併せしか忠烈王に至り復た分置し李朝太宗王の時梁山と號し郡と爲し爾來引續き今日に至る

**郡勢** 本郡は本道の東北部に位し北は蔚山彦陽二郡に、西北は密陽郡に、東及び南は釜山機張金海の一府二郡に隣し東方の一部四漚の間日本海に瀕す郡の北部には鼎足山の支脈連亘し東部には大雲山脈横はり其他到る處山陵の起伏ある



も地勢の大體は北部に高くして南部に低く耕地總反別は三千百二十餘町歩に過ぎざるも割合に灌漑の利に富み其内二千三百町歩は水田に屬す道路は梁山邑を中心として西南勿禁に西北密陽に南方東萊及び釜山に通するものを主とし其間交通甚しき不便なきも其他の道路は嶮阪多し京釜鐵道郡の西部を通し停車場二箇所を有す沿岸には港灣と稱すへきものなく沿海は釜山蔚山間に於ける航海の難所たり住民の多數は農を業とし少數の漁業者及び商業者あり郡内戸數七千五百五十人口三萬七千五百餘あり物産は米麥大豆其他雜穀畜牛陶磁器大刀魚石首魚鱒鮑和布鐵等なり

**梁山邑** 邑内面に屬し東方海岸を距る約八哩に在りて南東萊邑に四里十町北彦陽邑に六里二十餘町を距て西二里にして勿禁停車場に出つ此間車を通す市場ありて毎月一六の日を以て開市し生牛、魚類、木綿、石油、鹽、煙草等を集散す邑民は農業に従事し生計狀態概して裕ならざるか如し郡廳郵便所巡査駐在所、地方金融組合、普通學校等在り

**勿禁驛** 京釜線中の一驛にして釜山より十九哩餘、邑との間二里を隔つ金海地方

への渡船場にして樞要の地たり近來内地人の居住して農業に従事するもの多く現に百五十餘人を算し外に朝鮮人千餘人あり郵便所、學校組合、興農會社、小學校等在り驛の附近に臨鏡臺と稱する崔致遠の曾遊地あり

**院洞驛** 京釜鐵道の停車場所在地にして釜山より二十四哩餘あり院洞川の洛東江に注入する所に位置し頗る山水の景に富めり朝鮮人二百餘戸千餘人、内地人二十餘戸六十餘人あり

**通度寺** 朝鮮著名の巨刹にして勿禁驛を距る六里、梁山邑の北四里、鷲棲山麓に在り唐の貞觀二十年新羅の王子、金慈藏の創開せざるものなりと云ふ金碧燦爛たる堂殿塔樓等鬱蒼たる樹林の間に隱見し溪水之を繞り門外に至りて飛下數丈の懸瀑と爲る眞に仙境たり寺庵の數總て十四現に僧侶三百餘人居住す

第十九節 三嘉郡

**沿革** 本と三岐嘉壽の二縣を合併し命名したるものなり、三岐縣は新羅の三支（名麻杖）縣にして景德王三岐縣と改め江南郡（陝川）の領縣と爲し高麗顯宗王の時仍ほ陝州（陝川）に屬す恭愍王監務を置き李朝太祖陞して郡と爲し太宗王縣に復



す、嘉壽縣は新羅朝の加主火縣にして景德王改めて嘉壽と爲し康州(晋州)の領縣とし高麗顯宗王の時陝州に移屬す、李朝太宗の代二縣を併せて三嘉と改名し監務を置き後ち縣監に改め治所を嘉壽に定む後世郡として現今に及ぶ

**郡勢** 本郡は本道西北部に位し東は宜寧郡に、北は陝川郡に、西は山淸郡に、東南及南は丹城、晋州二郡に隣す地勢西北に高峻にして東南部に低下し耕地總反別二千百町歩に過ぎさるも水田多し道路は概して悪しく交通不便なり住民は質朴にして農を業とし經濟一般に順調ならず戸數七千七百餘人口三六千四百餘あり産物は米、麥、麻布、木綿、紙等なり

**三嘉邑** 郡の東南部縣内面に在り北陝川邑に五里餘、東宜寧邑に五里半、南晋州邑に七里餘を隔て道路は一般に不完全なり邑民の大部分は農業に従ひ少數の商業者あり生計裕ならず朝鮮民家三百八十あり内地人十餘人居住す特種産物なし郡廳、郵便局、憲兵分遣所、私立普通學校在り

第二十節 安義郡

**沿革** 高麗朝恭讓王の時利安、咸應二縣を併せて安陰縣と爲せるもの是れ即ち今

の安義郡なり、利安縣は新羅初朝の馬利縣にして景德王に至りて利安と稱し天嶺郡(咸陽)の領縣とし高麗顯宗王の時陝州(陝川)に屬せり咸應縣は新羅の南内縣にして景德王改めて餘善と名け居昌郡の領縣とし高麗の初め咸陰と改め顯宗王の時陝州に屬せしか、毅宗王縣を罷む、恭讓王に至り利安縣を以て咸應縣に併す李朝太宗の朝治所を利安に定め安陰縣と改名し縣監を置く後世郡と爲し安義と改めて今に至る

**郡勢** 本道の西北隅に位置し東方は居昌郡に、南方は咸陽郡に隣し西は全羅北道長水郡に北は、同道茂朱郡に境す、郡の西境に白雲山の峻峯聳立し支脈郡内に起伏し平地其間に散在して耕地面積二千六十町歩を有するも土地概して瘠薄なり運輸交通共に甚た不便なり住民は専ら農業に従事し副業として養蠶を爲すものあり戸數七千七百餘、人口三萬五千五百人あり産物は米、麥、大小豆、棉花、麻果、實、甘藷等なり

**安義邑** 縣内面金泉洞に在りて形勝の地を占む交通不便にして北慶尙北道金泉、驛へ十七里南晋州邑に至る十六里あり邑民は農業に従ひ少數の商業者あり市



場あるも取引盛ならず朝鮮人千戸四千五百餘人内地人十餘人居住す産物は穀類、紬、麻布及び牛馬にして郡廳憲兵分遣所、郵便所、私立普通學校、機織傳習所在り

## 第二十一節 山淸郡

**沿革** 新羅の知品川縣にして景德王の時山陰と改め關城郡(丹城)に屬し高麗顯宗王の時陝州(陝川)に移屬し恭讓王監務を置く李朝に至り縣監に改め近世に至り山淸と改名し郡と爲し現今に及ぶ

**郡勢** 本郡は本道の西部に位置し東は三嘉、丹城二郡に、東南は晋州郡に、西南は河東郡に接し西北は安義、咸陽兩郡に、北は居昌郡に隣す周圍皆峻嶮なる山嶺にて包繞せられ殊に西南方河東及び咸陽二郡に跨りて屹然雲表に聳ゆるものを智異山とし東方三嘉郡境に立てるを黃梅山とす共に本道中著名の高山にして猛獸棲息し人家附近に出沒して畜類を襲ふこと少からず西北咸陽郡より來る河流は郡内に入りて鏡湖江となり又智異山より發源する徳川江ありて共に丹城郡に入り相合して洛東江に注く該二川の流域は地平坦にして地味肥へ灌漑の利ありて農耕に適すれども其他の部分は山脈交錯重疊して平野を見ず四隣各

郡に通する道路あれども北咸陽、南丹城に至る二條の外は未だ改修を施さざるか爲め交通頗る難澁なり住民の大部分は農業に従事し商業者工業者の數之に次く郡内戸數一萬一千七百餘人口五萬四千二百餘あり産物は米、大豆、雜穀、麻布、紙、生牛、竹器、木器及び金、鐵等なり

**山淸邑** 郡内面に在り丹城邑を経て晋州邑に至る九里半を隔て咸陽邑との間六里ありて此二條の道路は改修を了へ路幅二間に及び交通稍々便なるも其他の道路は來往至難なり邑民は農業又は商業に従事し生計状態裕ならざるか如し内地人十餘戸三十餘人居住す産物は略々郡に同じ郡廳、郵便所、地方金融組合、普通學校等在り

## 第二十二節 彦陽郡

**沿革** 新羅の居知火縣にして景德王、獻陽と改め良州(梁山)の領縣たり高麗顯宗王の時蔚州(蔚山)に屬し仁宗王監務を置き後今の名に改む李朝縣と爲せしか近世郡とし今に及ぶ

**郡勢** 本道の東北邊に位し南は梁山郡に、西は密陽郡に隣し東及び北は蔚山郡並



に慶尙北道清道郡に境し東西約五里南北四里面積十一方里を有す北境に蜿蜒たる高嶽山脈は東に延ひ盤龜山となりて蔚山郡界を爲し西は石南山脈を以て密陽郡を劃り更に南走して鷲栖山と爲り南境には鼎足山脈連亘し此等山嶽四繞の間は田野開け灌漑の利多く水田面積畑に三倍す道路は蔚山邑及ひ勿禁驛に出づるものを主要とするも車を通ずること困難なるか爲め運輸交通共に未だ便ならず住民は概して温順なれども服装の美を好み酒を嗜み一般に悠柔にして勤勉の風を缺き貧困者少からず農を生業と爲せども其大數は小作人なり郡内戸數四千三百三十餘人口二萬六百あり産物は米を第一とし麥大豆之に亞き又煙草棉花芹を産す

**彦陽邑** 郡の中央部に位置し蔚山邑に五里半を隔て其間橋梁不完全なるか爲め出水に會せは忽ち交通杜絶す又梁山を経て勿禁驛に至る九里は道路稍々平夷なれども未だ車を通せず其他慶州清道に通ずる道路亦往來に便ならず邑民の三分の二は農業に従ひ三分の一は商業を營み飲食店業最も多し生活程度は頗る低く粗食に甘んじ安逸に其日を送るを常とす市場ありて毎月二、七日を以て

開市し取引比較的盛なり金融機關を缺き金利高く流通貨幣は葉錢其大部分を占む産物は米穀、煙草、芹なり邑内朝鮮人四百五十戸二千三百餘人内地人十戸三十人あり郡廳、憲兵分遣所、郵便所、私立普通學校在り

**酌川亭** 邑を距る南方半里、中南面酌掛里の山間に一溪流あり酌掛川の上流たり地盤悉く花崗石より成り奇巖怪石に富み風光眺望共に佳なり新羅朝竝に一小亭を建造し酌川亭と稱す郡民修築して娛樂場とし時々多數人集合して詩を作り音曲を奏して樂めり

**石南寺** 下北面楊等里に在り二千年前道義國師の開基に係り寺内釋尊の像を安置す周圍に老杉古松繁茂し古刹として名あり

第二十三節 靈山郡

**沿革** 新羅初朝の西火縣にして景德王尙藥縣と改め密城郡(密陽)の領縣とす高麗朝に及び今の名とし元宗王の時監務を置く李朝に至り縣監と爲し近世郡に改む

**郡勢** 本道の北部中央に位置し西及び北は昌寧郡に包まれ南は洛東江を以て咸



安郡と劃り東は密陽郡に接す面積約二十五方里あり地勢概して北部及び西部に高く南部に低く靈鷲山郡の東北に聳立し其南に當りて尙藥山屹立し餘脈東部に起伏す洛東江は西南郡境を廻流し支流郡の中部を通して灌漑に便し耕地概ね肥沃にして流域は沖積土を爲し農産豊なり耕地反別三千八百五十町歩ありて米二萬五千石、麥三萬石を重なる農作量とす氣候は大陸的にして寒暑概して稍々烈し本郡より四方樞要地に通ずる道路は幅員一間半乃至二間を有し割合に平夷にして交通運輸上支障なく農産物の一部は洛東江の水運に倚り三浪津驛に運致す住民の約九割は農業に従事し上流者は米を食するも中流以下は悉く麥、大小豆を混食す郡内戸數六千三百餘、人口二萬七千三百餘あり産物は米、麥、大豆、其他雜穀にして殊に米質は良好を以て著はる

**靈山邑** 郡の中部北方、邑内面に在り北に靈鷲山を負ひ西南一帶廣野を控ふ馬山に七里餘、密陽三浪津驛に各七里、大邱へ十二里を隔つ道路は概して廣く且つ平坦にして交通不便ならず又洛東の水運を利用し得へし市場ありて毎月五十の口を以て開市し來市者平均千人、取引高六七百圓なり邑民は農業に従ひ生計に苦むもの少し特種産物なし戸數約一百にして郡廳、郵便局、地方金融組合、私立學校在り

## 第廿四節 機張郡

**沿革** 新羅の甲火良谷縣にして景德王機張と改め東萊郡(釜山府)の領縣とし後ち梁州(梁山)に屬す高麗顯宗王の時蔚州(蔚山)に附屬し後ち監務を置き李朝に至り縣監とし後世郡に改め郡守を任す

**郡勢** 本道の東邊に位置し西は梁山郡に、北は蔚山郡に、南は釜山府に隣し東方一帶日本海に臨む西北は山嶽重疊し山脚漸次東南に延長して郡内到處丘陵起伏し耕地は山陵の間に點在して總反別一千八百餘町歩に過ぎざるも比較的灌漑の利に富み其内一千三百餘町歩は水田を爲せり沿海は屈折多く大邊灣最も著はれ船舶の定期寄港あり陸路は北方蔚山郡より本郡を縦貫して釜山に至るもの稍々開けたりと雖も橋梁を缺き且つ阪路あるか爲め貨物の運搬は人肩馬背を藉らざるへからず貨物の移出入は主として水路に倚れり住民の多數は農業を主とし副業として商業を營むものあり生活状態單純なれども概して生計



に困難なり東海岸一帯の地は漁業盛にして殊に大邊灣には毎年九月より翌年一月まで内地人漁業者此地を根據として近海に出漁し漁船の數一千隻に及へり産物の重なるものは米、麥、大豆、鱒、鱈等なり郡内朝鮮人四千餘戸二萬一千五百餘人内地人百五十餘人あり

**機張邑** 邑内面に在り東萊を距る北方三里蔚山邑を距る南方九里孰れも阪路及び河流多く車馬を通せず貨物の運搬は小部分擔車又は牛馬に倚り大部分は海路よりす邑民の生業は農業商業又は漁業にして集散貨物は米穀麻布木綿紙魚類鹽煙草草鞋等なり郡廳郵便所學校組合小學校等在り

**機張城** 文祿慶長の役加藤清正西生浦より來りて此城に滞陣し後ち黒田長政亦此城に據りしことあり

**侍郎臺** 南而東若里に在り昔時侍郎の官に在りし人冤罪に依り流囚となり此臺を過ぎし際日本海上の眺望を賞しつゝ自己の冤を歎したることありしを以て此名ありと傳ふ

第二十五節 草溪郡

**沿革** 新羅朝の草八兮縣にして景德王八溪と改め江陽郡、陝川の領縣とす高麗の初め草溪と名け顯宗王の時陝州(陝川)に屬す明宗王監務を置き忠肅王の時陞して郡と爲し李朝を経て今日に及ぶ

**郡勢** 本道の北邊に位置し東は昌寧郡に、南は宜寧郡に、西は陝川郡に隣し北は慶尙北道高靈郡に境す地勢北西南の三方は山岳重疊し西部一面に開き洛東江を以て郡境を劃れり田畑面積相半はし耕地二千二百町歩あり陸路概ね險惡にして最も交通の便を缺き物資の集散は重に赤浦、栗旨等の洛東江津に倚る住民は順朴にして農業に力め割合に精勵なり郡内戸數六千一百餘、人口二萬九千餘あり産物は米麥を主とし大小豆、紙、莞、蕙、大麻、木綿之に次ぐ

**草溪邑** 郡の西北隅なる山麓に位し三面高峯峻嶺を以て繞らし僅に東方の平地により交通さるるに過ぎず道路險惡にして交通不便なり邑民は農業を主とし商業を營むものなきにあらざるも甚た少數なり生活は一般に其程度低く生計概ね困難なり市場は毎月五十の日に於て開市するも商況微々として振はす金融多くは逼迫す郡廳巡查駐在所郵便所私立普通學校在り



## 第二十六節 昆陽郡

**沿革** 高麗朝の昆明縣なり新羅顯宗王の時晉州に屬し李朝世宗王の時南海縣を合せて昆南縣と稱せしか尋て分割して更に晉州の一部を併せ今の名とし郡と爲す

**郡勢** 本道の西部南邊に位し東北二方は晉州郡に接し西は河東郡に接し一部は蟾津江を挾んで全羅南道光陽郡に境し南は海を隔てて南海郡に對す郡内山嶽連亘し金甌山脈郡の略々中央に縦貫して脊梁となり郡を東西に二分す隨て河流は概ね中部より東西二方に向て流れ東するものは昆陽灣に西するものは蟾津江に注ぐ昆陽邑を中心として北晉州、南南海、東泗川、西河東の各邑に通ずる道路の外海路の便あるも道路不完全なるか爲め陸路交通は未だ便利と稱するを得ず住民は重に農業を以て生を營み海岸各面には漁業者あるも其數少く且つ農閑を以て之に従事するに過ぎず工業には蓆、陶器の製造業あるも尙ほ頗る幼稚なり戸數五千六十、人口二萬五千八百餘あり農産は米を主とし麥、大豆之に次ぎ其他棉花、麻、蔬菜あり林産物は木材、竹材、薪にして水産に海苔、鱈、鰻、鮑、烏賊等

あり又生牛を出す

**昆陽邑** 郡内東部面の中央四方山を以て包まれたる平地に位置し昆陽灣澳に近し周圍は城廓を以て繞らせり灣は遠淺にして狭小なれば大船を容るる能はず晉州邑に六里餘、南海邑に八里半、泗川邑に約四里を隔て昆陽灣を横れば三千浦に至ることを得邑民の多數は農を業とし生活状態は劣等なり細民は農間他人の勞役に服するも尙ほ困憊を免れざる者多し金利頗る高率なり市場は毎月五十の日を以て開市し一市の取引高三百圓乃至四百圓にして集散貨物は穀類、魚類、海草、食鹽、野菜、雜貨を主とし穀類の外木綿を産す邑内朝鮮人百八十戸、八百餘人内地人は十餘人に過ぎず郡廳、憲兵分遣所、郵便所、公立普通學校等在り

**辰橋** 金陽面に在りて邑南二里を隔つ沿岸航行汽船の寄港地にして物資の吞吐場たり一年の出穀四萬石に及び商況盛なり朝鮮人六百餘人、内地人百二十餘人居住す

**浣紗** 昆明面に在りて河東晉州間の道路に沿へる一市場なり

**多率寺** 草梁面に在り禪宗の寺院にして創建詳ならざるも現に僧侶二十人居住



す風景佳なるを以て杖を曳くもの多し

第二十七節 丹城郡

沿革 李朝世宗王の時江城、丹溪二縣を合併して丹城と命名したるものなり、江城縣は新羅時代の闕支部にして景德王闕城と改め高麗の初朝江城縣と名け尋て郡とし顯宗王の代晋州に屬し恭讓王の時監務を置きしか李朝の初め溟珍縣を合せて珍城縣と號す、丹溪縣は新羅の赤村縣にして景德王丹邑と改め闕城郡の領縣と爲す高麗朝丹溪と改稱し顯宗の代一ひ陝州(陝川)に屬せしか恭讓王の時江城に隸屬す、李朝世宗王に至り右二縣を併せて丹城縣と名け縣監と爲し後世郡に改め以て今に及ぶ

郡勢 東北は三嘉郡に、南は晋州郡に接し西北は山清郡に隣す西方には智異山系に屬する山嶽重疊し餘脈郡内に蟠踞して原野少く耕地千四百四十町歩なり、西方山清郡より來る新安江及び東南三嘉郡より入る郡内川郡内を貫流し丹城邑附近に會して晋州に至り南江と爲る該二川の沿岸は郡中稍平坦なる部分なり各隣郡に通する道路を有するも高低多く交通不便なり電信の設なく通信亦

至便ならず住民の多數は農を以て生業とするも殆んど皆小作人にして生計上餘裕なく生活極めて困難の状態なり金融機關を有せず金融は四季を通して逼迫す戸數四千七百九十餘、人口二萬二千九百餘あり産物は穀類、紬、砥石及び少額の砂金なり

丹城邑 郡の西南部に偏在し背後に山を負ひ前面新安江に菴み形勝の地を占む晋州邑へ五里、山清邑へ四里半、三嘉邑へ五里を隔つ邑民の約六割は農業に従事し其他は雜業に従ふ毎月六回の開市あるも取引額は多きも二百圓を超はず金融圓滑ならざるを常とす邑内朝鮮人百七十戸八百三十人内地人は二十餘人なり特産物なし郡廳、憲兵分遣所、郵便所、私立普通學校在り

白馬城址 邑を距る約二十町白馬山に在り文祿の役民堡として築造したるものなりと云ふ

第二十八節 泗川郡

沿革 新羅の史勿縣にして景德王泗水と改め固城郡に屬し高麗の初め晋州に移屬し顯宗王泗州と改め明宗王の時監務を置く李朝太宗の朝泗川と改稱し縣監



と爲し後も鎮を置き兵馬使を以て判縣事を兼ねしめ世宗の代改めて兵馬僉節使と稱し其後縣監に改む近世郡と爲し郡守を置き今日に至る

**郡勢** 本道の南部西方海邊に位置し東は固城郡に北は晋州郡に西は昆陽郡に接し南方一帯海に面し地形南北に長く東西に短し山脈郡中に連亘し地勢平夷ならざるも海岸に至るに従ひ緩斜して平野を爲し耕地開け灌漑の利に富み水田面積畑に二倍し瀬海鹽田多し陸路は邑を中心として晋州、昆陽及び三千浦に通ずるものを主とし何れも平坦にして車馬を通し沿岸には定期船の寄港するありて運輸交通概して便利なり住民の多くは農を以て生業とし又商を營み沿岸地方の人民には漁撈及び製鹽に従事するものあり農産物の重なるものは米、麥、大豆にして水産物は鯛、鱈、太刀魚、石首魚、貝類、蛸、海藻、鹽等なり

**泗川邑** 晋州三千浦間の中央に位し各約四里を隔て其間道幅三間にして馬車人車を通す附近に肥沃なる平野を擁し米、麥、大豆、棉花、麻を産す邑民は主として農業に従事し又少數の商業を營むものあり郡廳、郵便所、學校組合、巡查駐在所、小學校在り

**三千浦** 南岸文善面にあり昆陽灣の東海岸に位し晋州を距る南方八里統營の西二十八里に在り西南は南海島及び昌善郡に依りて包擁せし新壽島本水道の中央に横はり北に青龍丘望山及び臥龍山を負ひ、東方丘阜を以て八場浦と界す灣内水深三尋乃至十尋ありて浪荒きも大船の繫泊に適す背後に慶尙南道の首都たる晋州附近一帯の一大經濟區域を控へ河東、昆陽、南海等より釜山、馬山に通航する汽船の通過地たり穀物の出盛りは商況頗る活潑にして毎月開市する市場も亦頗る殷盛なり産物は穀菽、棉花、生牛及び魚類にして朝鮮人三百六十餘戸一千七百餘人内地人九十戸三百餘人あり警察署、郵便所、學校組合、巡查駐在所、税關監視署、小學校在り

**新壽島** 三千浦の東南本土と昌善島との間に横はる一小島にして三千浦港灣の東南口を扼し北は三千浦水道南は東水道を爲す島は東北西の三部に小灣を有し各部に朝鮮人部落あり北部の灣は他の二者に比し港灣佳良なり水深く且風波を防ぐに適す住民は漁業を以て常業とす明治四十三年以來大分縣の漁業根據地たり



泗川寨地 晋州の南三里半に在りて海に臨む慶長の役島津義弘新寨を此地に築き一萬餘騎を以て之に據り明將李如梅の軍と戦ひて大に之を破り首級三萬八千餘を得たる古戰場なり

## 第二十九節 鬱島郡

沿革 新羅時代に于山國と稱し智證王の時一ひ之を征したることあり高麗太祖の代島使來貢す李朝世宗王の時海賊本島を根據として邊境を侵したるに困り之を征服したることあり爾來七百餘年間無人の島嶼として江原道蔚珍郡に屬し全部國有地たりしか明治十七年始めて開拓使李奎遠を派し在住の民には宅地及び起墾山田を給し島長を置き島務を掌理せしむ是より各道の移民入來し又内地人漁業者の來往ありしか日清戦争の頃より内地人の永住者を見るに至れり明治三十四年島長の制を廢し蔚珍郡より分離して鬱島郡とし郡守を置き四十年江原道より本道に移隸し以て今日に至る

郡勢 本郡は鬱陵島一圓を管轄す島は日本海中の一孤島にして別に武陵又は羽陵の名あり釜山を距る百七十哩江原道蔚珍を距る八十哩にして東西五里南北四里、廣袤凡そ九平方里あり島の中央に聖人峯の高峻聳や支脈四方に岐れて島内に重疊す河川と稱すへきものなく數箇の溪流あるのみ四周概ね險岩にして港灣と云ふへきものは唯一の道洞港あるも汽船の碇泊に便ならず昔時は全島總て樹木鬱蒼たりしと云ふも今や其大部分は伐截せらる耕地は水田約八町歩畑三百町歩にして森林地は耕地に比し約三倍あり氣候温暖なるも夏季には雨多く秋は風強く冬期降雪多し運輸は帆船を以てし釜山及浦項に年五六度の航海あるも冬期は海上風浪荒きか爲め航行を阻止せらる島根縣境港より毎月一回小蒸汽船の來往するものあるを以て通信交通は重に之に倚る陸上の交通は頗る不便なり市街なく又市場なきか爲め商店を有せず賣買は多く物々交換を爲す漁業は頗る有望にして全島到處之を營み得るも就中主要なるは道洞なり朝鮮人たる住民は江原道沿岸及び慶尙北道の移住者大部分を占め質朴魯にして無學の者多數なり主として農業に従事し馬鈴薯玉蜀黍を混食す一般に孔孟の教を信し學堂數十箇所ありて寺小屋式の教授を爲す朝鮮人戸數千四十餘人口六千四百内地人三百餘戸千餘人居住す農産物は馬鈴薯麥玉蜀黍及び若



干の大豆にして海産物は鰯を主とし又鮑和布等あり林産は樺其他の木材及び薪炭なり

道洞 島中南面に在る唯一の小港なり水深五尋餘あるも灣内狭小にして暗礁多く波荒くして繋船に便ならず郡廳所在地にして内地人は主として此處に居住し戸數百三十人口六百五十あり大部分は漁業に従事し一年の漁獲高十五六萬圓なり郡廳の外學校組合郵便所巡査駐在所小學校在り

### 第四十四章 黃海道

沿革 本道は往古馬韓の域なり漢朝鮮を併せ四郡を置くや本道は當時樂浪郡に屬し後ち高句麗の所領と爲る唐の高宗帝高句麗を滅ほし此地を以て安東(平壤)都護府に隸せしめしも新羅遂に之を併せ其末世に及び一度弓裔の據る所となりしか高麗太祖之を併有し成宗王平島を分ち十道と爲すや黃州海州等の所管を以て關内道に屬せしめ其後改めて西海道となせり後ち北部一帯の諸縣は元に没入す忠烈王四年元の去るや黃州牧管下の地を以て西北面(平安道)に隸せし

めしか十餘年の後本道に還隸す李朝太祖四年豐海道と改稱し太宗王十七年始めて今の名に改め光海君の時一ひ黃海道と唱へしも久からずして黃海道の名に復し觀察使の營治を海州に置けり太宗帝即位三十二年道を廢し海州府の所轄と爲せしも翌年府を罷め復た黃海道に復し明治四十三年日韓併合の際黃海道廳を海州に置き道長官を任置し今日に及び現に十九郡三百五十五面を管す

位置廣袤 本道は半島の中部西海岸に位置し其西半部は稍々半島形を成して海中に突出す東南は京畿道に接し東は江原道及び咸鏡南道に隣し北は平安南道に連る大さ忠清南北二道を合せたるものと殆んど相同しく一千百二方里の廣袤を有す

地勢 分水嶺山脈は東方道境を劃り支脈北方平安道との界を走り鐵峴群山道の略々中部に於て東西に横はり此等主山脈の餘派道内各地に起伏して各郡邑の連絡を斷絶するかため交通概して不便なり隨て半島の中部に位置するも古來政治上の争地と爲りしこと稀にして史上の關係頗る尠し北部は大同江の灌漑地域に屬し平地多く概ね農耕に適し又朝鮮西北諸道中古來綿作の最も盛なる



地とす耕地總反別は約二十四萬町歩にして畑地面積は水田の二倍を超へ一年の米産額六十萬五千石、麥十四萬二千石、粟七十萬五千石、大小豆四十萬五千石、棉花二十五萬貫、葉煙草二十七萬貫なり沿海には多數の島嶼横はり海岸出入少からず氣候は京畿道と大差なく山間地方の外降雪五寸以上に及ふこと少し

**交通** 道内山陵重疊起伏して各郡邑の連絡を斷つか爲め京義鐵道沿線地方竝に海州、延安及び龍塘浦間、安岳鎮、南浦間、新幕、新溪間、砂利院、載寧間等道路の改修を施せるものの外は陸路の交通便ならず水路は南方仁川、北方鎮南浦二港の中間に在るを以て船舶の往來頻繁なるも本道沿岸には良港なきか爲め大船の寄泊するものなく龍塘浦の外最近龍湖島、魏津、潮浦、九味浦、德洞、小青島等に小蒸汽船の寄港するありて舟運漸く開くるに至れり通信機關は首要なる郡邑にては不便を感じざるも未だ電報の通せざるもの數郡を有せり

**住民** 本道民の人情風俗は他道に比し特殊の點なきも黃州地方は古來他郡に比し奸猾にして人氣惡しと稱せらる又鐵道沿線地方は内地人に接觸する機會多く人智稍々進み他は概して朦朧なるも朴直なり學校は公立私立を合せ三百校

を算するも其半は宗教學校にして耶蘇教に屬す生活狀態は一般に困難なるか如く物價勞銀共に南鮮地方に比し稍々高し管内朝鮮人二十一萬八千六百餘戸九十七萬二千二百餘人、内地人千三百五十餘戸、四百七十七餘人、外國人三百三十餘人あり

**産業** 産業中重要なものは農業にして住民の大多數は農耕に従ひ米穀は京畿道及び咸鏡道に向て供給するものの外内地に移出する額年々共に増加す副業は養蠶を主とし従業戸數二千を超へ年産繭額は口下七千三百石に過ぎざるも尙ほ漸次發達の見込あり

商業は主として道内七十有餘の市場に於て之を行ひ工業に關しては未だ特記すべきものなし

水産業は農業に亞きて重要な事業に屬し漢江河口の鰈漁は將來有望と稱せられ延平列島附近は石首魚の好漁場たり又小青、大青、白翎諸島の近海は道中最良の漁場にして鮑、海鼠多く其他沿海に鯛、鱒、鮑等を産す

鑛業は鐵鑛業を第一とし殷栗、載寧二郡は古來鐵産地として其名顯はれ鑛量豊



富品質良好にして明治四十三年以來枝光製鐵所の管理に歸せり其他の鑛坑にては遂安の金鑛、黒橋の鐵鑛を以て主なるものとす

産物 農産物の重なるものは米、麥、大小豆、棉花、煙草、麻、苧、蔴、人蔘、果實にして水産物には石首魚、鯛、鱒、鮭、蟹、水獺あり工業品は紬、綿糸、花産磁器を主とし鑛産には鐵、金、硯石、水晶あり

### 第一節 海州郡

沿革 高句麗の内米忽郡にして新羅景德王改めて溟池と稱し高麗太祖に至り郡内大海に臨むの故を以て名を海州と賜ひ成宗王の初め牧を置きしか幾ならずして節度使を置き海州右神策軍と稱し楊州と共に左右輔軍たり顯宗王に至り節度使を廢し安西都護府と爲し睿宗王大都護府に陞し高宗王牧に改む恭愍王の時降して郡と爲し即ち又牧に復す李朝太宗王十七年平山の一部を割て之を併せ世祖の朝鎮を置きしか太皇帝三十二年之を罷め郡と爲し郡守を任し今日に至る

郡勢 本道の南邊に位し東は延安郡に接し西北二方は甕津、長淵、松禾、信川、載寧、平

山六郡に隣し南は海に面す屬島少からざるも大なるものゆらす中軸山脈北方を東西に走るか故に地勢東北部に高く南西部に低し郡内到處山嶽丘陵起伏し中部に於て首陽山の峻峯となり西北に於て雲達山の高嶺となるも平地も亦多くして其主要なるものを翠場附近の平野とす此の平野は東北首陽山脈に限られ南方海州灣に到る東西約四里南北約一里にして地味膏腴なれども灌溉の利十分ならざるを以て水田畑地相半せり之に亞くを青丹附近の平地とす河川は皆細流なれども小船は潮汐を利用して大抵一里内外に溯ることを得べく其重なるものを鶴川、廣石川、獐浦川、苦灘川及び大東河とす沿岸大轉入を爲し海岸線長大なれども干潟延びて沙洲之に連續せるかため通航至便と稱するを得ず津浦の主要なるものを龍塘、蘇武及び挹川の三とす耕地反別は道内各郡に冠絶し麥の産額亦道中第一たり東延安郡、西甕津郡に通する道路は往來に甚しき困難なきも北方諸郡に達するものは頗る嶮惡にして京城、仁川方面の交通は總て水路に倚れり住民の生業は農を主とし商工漁業者順次に之に次ぐ郡内戸數二萬五千餘、人口十一萬二千五百餘あり産物は米、麥、大小豆、粟、梨、栗其他の果實、馬、鶏、



木材、薪炭、石首魚、鯽魚、鱈、鱈、鰈等の魚類、貝類及び食鹽なり。

海州邑 海州灣の中央龍塘浦より約一里半に在り北に首陽山、南に南山を負ひ東西僅に平地を以て通するのみにして要害の地たり圍むに城壁を以てし四大門を設く市街は城の内外に連り商店軒を連ぬ古來本道第一の商業地として貨物の集散地たりしか鎮南浦の發展に従ひ漸く昔日の繁盛を減すと雖とも尙ほ本道の首府として行政上の中心たるのみならず取引上舊觀の存する所多し氣候は仁川に比して寒氣稍々激烈なるも強風なく飲料水は良好にして且つ多量なり朝鮮人二百五十餘戸千三百餘人内地人百九十戸六百四十餘人あり其中十分の一は官吏及び無職者にして十分の七は農工を業とし其他は雜業に従事す邑内は衛生行届き通路の清潔なること稀に見る所なり市場は南門北門に在りて朝夕開場し魚類、食料品等の日用品を賣買す交通は重に仁川より海路に倚ると雖も毎年十二月下旬より二箇月間は結氷又は流水の爲交通を杜絶す米穀の外特種の産物なし黃海道廳の外郡廳、地方裁判所、區裁判所、守備隊、憲兵隊、監獄、警察署、郵便局、學校組合、地方金融組合、小學校、公立普通學校、多數の私立學校等在

り

龍塘浦 邑の南約二里の岬端に在り附近一帶の貨物吞吐場にして又邑に通する門戸として其間馬車を通す小汽船常に仁川間を往復す其航路六十浬約十時間を要す北に山を負ひ南方海に面するか故に氣候は割合に緩和なり朝鮮人二百餘戸内地人十餘戸あり朝鮮人は多くは農民にして少數の漁業者あり内地人は大抵商業を營む魚貝の産多し税關監視署あり

延平列島 大小延平島及び其附近小島の總稱なり海州灣外の中央に横はり仁川を距る北西四十五浬に在り大延平島は周圍約三里にして島形恰も錐體の如く戸數百七十餘人口五百五十餘あり小延平島は周圍一里強にして人口五十に過ぎず共に耕地に乏しきも有數の石首魚場たる延平灘を控ゆるを以て其名漁業者間に著はる寒氣頗る強く冬季三箇月間海岸結氷す

## 第二節 平山郡

沿革 高句麗時代の太谷郡一名多知忽の地にして新羅朝永豐郡と改め高麗の初め平州と稱す成宗王防禦使を置き顯宗王の時知州事と爲し元宗の代一度復興



郡に併せしか忠烈王に至り復置し李朝太宗王十三年平山を改稱し都護府に陸す後世郡に改め以て今日に至る

郡勢 本道の中部東方に位し東は新溪、金川二郡に、西は海州、載寧兩郡に接し南は白川郡及び延安郡に、北は鳳山、瑞興兩郡に隣し東西十八里、南北九里の廣袤を有す郡内東方一部の地を除く外到る處山嶽起伏し水田少きも畑地に富み耕地全面積一萬六千四百四十二町歩の内畑一萬三千四百九十町歩に達す京義鐵道は金川郡より來り郡の東部を縦貫し汗浦物開、南川の三驛を置きて北走し瑞興郡に入るの外京義街道の通するありて沿道の交通自在なり又北方南川驛、物開驛を経て各面に陸路を通し漏川よりは中央部の通路ありて郡内の來往稍便なり住民は農を以て常業とし産物は米、麥、大豆、小豆、粟、稗、黍、蜀黍、煙草、人蔘、薪炭にして麥、大豆の産額最も多く孰れも道中第三位を下らす郡内朝鮮人戸數一萬四千四百餘、人口六萬一千七百餘、内地人百三十餘戸、三百三十餘人あり

平山邑 郡の東方京義線汗浦驛の東北一里八町の地に在りて京義街道に當り交通便なり住民の多數は農を業とし米穀の外特種の産物なし郡廳、憲兵分遣所、郵便局等在り

便局等在り

汗浦驛 邑の西南一里八町禮成江に臨む此地元二十餘戸の寒村に過ぎざりしか京義線開通以來漸次發達し今や小市街を構成せり附近土地開け地味肥沃なれども灌溉の便を缺き旱田多く大豆の産地たり又附近の山野には柏樹多く柞蠶の飼育に適すと認められ柞蠶經營組合事務所を設け試育を爲せり朝鮮人百九十戸七百餘人、内地人三十戸百餘人、憲兵分遣所、郵便所、學校組合、小學校在り

物開驛 龍山を距る八十九哩なり前方は新鶴山に對し後方牛鼻川を隔てて長陽山及び補岩山を負ふ山峽の一小驛たり朝鮮人百三十人、内地人七十八人居住す巡查駐在所在り

南川驛 驛は龍山を距る八十三哩餘なり薪炭の産地を以て知らる南川舊站は十四町餘の西方に在り平山邑へ陸路二里新溪へ六里とす南川警察署在り朝鮮人五百四十人、内地人百餘人居住す

大白山城址 隍山城とも云ふ汗浦驛の北方約一里、平山邑の東方約半里に在り城壁周圍二里高さ二十尺南北將臺、表忠祠、望月寺等在り龍津の碧流城外を繞り風



光愛すへし

### 第三節 鳳山郡

沿革 高句麗の鶴巖郡にして新羅に至り栖巖郡と改め高麗の初め鳳州と稱す成宗王防禦使を置きしか顯宗王之を廢して黃州に附屬す忠烈王に及び一ひ知郡事と爲せしか後ち又鳳州に復す李朝太宗王十三年鳳山と改稱し郡とし爾來引續き今日に至る

郡勢 本郡は本道の中部より稍々北方に偏在し東は瑞興郡に北は黃州郡に西南二方は載寧郡に接す郡の東南は山嶽起伏し地勢高く漸次西北に向て傾斜するか故に河流は概ね西北方に流れて載寧江に合す義州街道及び京義鐵道は瑞興郡より來り本郡を過ぎて黃州に通し沿道の交通多く之に倚る又載寧江は舟楫の便ありて貨物の移出入に利し大同江岸各地との連絡を成し且つ其の交通を助くるも東北山地は道路開けず交通不便なり載寧江岸は所謂棘城平野の一部を成し田圃拓け農産饒多なり郡内耕地面積一萬九千二百餘町歩の内水田三千餘町歩畑地一萬六千餘町歩にして其廣さは本道中之か右に出づるものなし住

民の多くは農を業とし商之に次ぐ民情朴訥にして比較的勤勉なるを以て生計富裕と稱するに足らざるも生活困難ならず産物の主なるものは米、麥、大豆、粟、木綿、栗、梨、人蔘等とす郡内朝鮮人戸數一萬三千七百餘、人口六萬一千百餘あり

鳳山邑 洞仙面に在り西二里にして沙利院驛南一里半にして馬洞驛に通すへきも孰れも道路の見るへきなく交通至便ならず邑民は農及び商を以て生業とし生計割合に裕なり市場ありて毎月二、七の日開市し集散貨物の重なるものは雜穀、木綿、金巾等とす邑内朝鮮人戸數二百餘、人口九百餘内地人十餘人居住す郡廳、巡查駐在所、普通學校等在り

沙利院驛 邑の東方二里沙利院坊に在り京義線中の一驛にして京城へ百二十六哩、海州へ十五里、平壤へ十四里、載寧へ五里、黃州へ四里、鎮南浦へ水路十二里なり西北南は一望際涯なき廣茫たる沃野にして著名の農産地たり水易川其の西北を流れ四通八達の要路を占め京義線開通以來著しき發達を爲し尙ほ將來有望の地として矚目せらる住民は農業又は商業に従ひ市場ありて毎月五日毎に開市す集散貨物の重なるものは米、雜穀、金巾、煙草、砂糖、酒類、雜貨にして毎市の取引額



一萬五千圓内外にして商況頗る盛なり朝鮮人戸數八百餘人口三千五百餘内地人戸數百餘人口三百餘在り憲兵分遣所郵便局學校組合小學校普通學校土木局東洋拓殖會社朝鮮興業會社各出張所農工銀行支店等在り此地を距る南方十五町景岳山腹に景岳寺あり景勝の地として名あり

馬洞驛 邑の南方一里半に在り京義線の一驛にして沙里院を距る二里京城より百二十哩なり附近は農産豊にして麥粟綠豆小豆を産し一箇年の産出額一萬二千石を下らず明治四十二年麵類製造工場を設置し一箇年生産力四千三百餘石なりと云ふ住民の多數は農業に従事す朝鮮人戸數約七百人人口三千を有し内地人二十人居住す

興水驛 龜淵坊に在り京義線の一驛にして京城を距る百十哩餘なり興水院河其南を流る地勢緩濶耕地多穀類の産地として名あり住民は多く農業に従ひ少數の商業者あり基督教を信するもの多し産物の主なるものは米麥粟大豆小豆木炭牛等にして朝鮮人三百餘戸一千六百餘人内地人三十餘戸八十餘人居住す清溪驛 龜淵坊に在り京義線停車場所在地にして京城の北方百十五哩を隔つ附

近道路不完全なるも西北一里餘の處に於て義州街道に通す附近穀類の産少からず朝鮮人三十餘戸百五十五人内地人二十餘人居住す

鶴鶴城 邑の南方約二里古邑洞に在り新羅景德王二十一年の築造に係ると云ふ藥水庵 邑の東方藥水院にあり溪間より清水湧出す土人之を藥水と稱へ夏季此地を以て療養所と爲す

歸眞寺 興水驛の東南三里の處に在り高麗滅亡の際國王の一時避難したる所なりと傳ふ

#### 第四節 載寧郡

沿革 高句麗の息城郡一名漢城郡にして新羅朝景德王重盤と改稱し高麗の初め安州と稱す成宗王防禦使を置きしか顯宗王の時之を安西都護府(海州)に附屬す睿宗王に至りて監務を置き高宗王名を載寧と改め縣令とし李朝太宗六年豐州の一部を割て之を併せ十五年知郡事と爲し近世郡守を任置す

郡勢 本道の中央に位し東は平山郡に東北は鳳山郡に隣し西北は安岳郡に西は信川郡に南は海州郡に接す東西四里南北十三里の廣袤を有し郡内を縦貫する



載寧江は本道主要の河流にして灌漑に富み沿岸一帯は低平にして地域甚だ廣く北は廣州に延び東は鳳山に達し西は安岳、信川地方に連り直徑十數里に亘る所謂棘城の野を成し本道中主要の米産地とす耕地面積一萬一千貳百餘町歩の中水田六千餘町歩、畑五千二百餘町歩にして米の産額は本道中第三位にあり且つ品質優良にして粒顆長大、王家内膳の用に供せらる此地東洋拓殖會社移民豫定地にして現に田圃三千町歩を所有す載寧江は水深甚だ深く三四百石積の帆船の出入に適し下流大同江に通し交通至便なり邑を中心とする道路は比較的開け國道も亦沙里院に至る間改修成り來往便なり住民は概ね農業に従事し又商業鑛業に従事するものあり産物の重なるものは米、麥、大豆、棉花、鐵鉛鑛等にして載寧江よりは雜魚を産す郡内戸數一萬三千八百餘、人口六萬餘あり

**載寧邑** 郡の稍々北方に位し載寧江に臨み西方一部を除く外は廣濶なる棘城の平野展開し海州邑へ十二里を隔て沙里院との間五里は國道を通し其他各方に道路を通し又水路載寧江を経て大同江岸各商業地に達する便あり此地陸路海州方面より輸送する貨物の仲繼場たるのみならず附近鑛山を控へ商況頗る活

潑なり内地人四百餘、朝鮮人六千人あり郡廳、區裁判所、憲兵分隊、郵便所、地方金融組合、普通學校在り

**載寧鑛山** 鑛山所在地を金山洞と稱し載寧江岸の貯鑛所より一哩餘を隔て其間二條の軌道を敷設し鐵鑛運搬の便に供す貯鑛所より鎮南浦まで水路三十裡にして三百噸内外の船舶は常に江上を往來す所員内地人百餘、朝鮮人約一千ありて一村落を成せり本鑛は枝光製鐵所の所管にして年五萬噸を産す

#### 第五節 信川郡

**沿革** 高句麗の時代に升山縣の地なりしか高麗の時信州と改稱す成宗王の時防禦使を置きしも顯宗の代之を廢し黃州に屬し後ち監務を置く李朝太宗王十三年信川と改め縣監と爲し睿宗王に及び陸して郡とし爾來今に至る

**郡勢** 本道の西北部に位し北は安州郡に、東は載寧郡に接し西は松禾郡に、西北は般栗郡に隣す西部一帯は山陵連亘し西北に方りて九月山聳立す地勢一般に高きも北方安岳郡に連接する地方は平坦にして田野開け載寧江の支流平野を貫流して灌漑に便し耕地二萬八百七十町歩の略々半は水田にして米産額九萬五



千八百石を超へ其量道中第二位を占む東洋拓殖會社の移民豫定地たり道路は信川邑を基點として松禾、安岳、載寧、海州の各郡に通し安岳、載寧間の道路は割合に平坦なれども未だ挽車を通せず然れども本年内には載寧道路の改修を了へ沙里院との交通便利となるに至るへき筈なり尙ほ載寧江には舟運の利あり住民は朴直なるも頑固にして事理に通せず耶蘇教を信する者多く往々突飛の行動を爲す者を見る大多數は農を生業とし又商を副と爲すもの少からず郡内戸數一萬四千六十餘、人口六萬二千四百九十にして物産は米、粟、大小豆、大小麥、糖黍、棉花を重なるものとし又若干の黒鉛を産す

**信川邑** 東部面の北部に位し載寧、安岳、松禾、海州の四隣各邑へ通する道路あり鐵道よりすれば沙里院より入るを順路とす道程八里餘途上割合に平夷なり邑民の過半は商業に従事し傍ら農業を營む生活状態は高からざるも極貧者は稀なり朝鮮人七百十二戸二千九百十餘人、内地人四十人居住す産物は略々郡に同じ郡廳憲兵分遣所郵便所、地方金融組合、私立學校等在り

**温井洞** 大井面に在り温泉所在地にして春秋二季には近郷より來り浴するもの

頗る多し

**貞禮洞** 魚廬面に在り載寧江の上流沿岸に位置し鎮南浦との間舟運の便ありて郡内第一の貨物集散地たり

#### 第六節 黃州郡

**沿革** 高句麗の冬忽にして新羅憲德王取城郡と改め高麗の初め黃州と改稱す成宗王二年牧を置きしか幾ならずして節度使に改め黃州天德軍と稱し關内道に屬す顯宗王安撫使に改め後ち又牧と爲し西海道に移隸す高宗王の時一ひ固寧郡に合せしか暫くして黃州牧に復し後ち西北面に移屬せしか尋て又西海道に轉屬す李朝世祖の朝鎮を置きしか後ち之を罷め郡と爲し後世郡守を任し今日に至る

**郡勢** 本郡は本道の北端に位置し東及び北は瑞興中和二郡に接し西北は大同江を隔てて平安南道と相對し南は鳳山郡に隣す黃州江は其上流を赤壁江と謂ひ東南部に發源し西北に斜流す梅上江は源を高井附近に發し道界を西流して貯福川黒川の二流を併せ松林面に至り各々大同江に注く東北部一帯は丘陵起伏



し地形高峻なれども其の他は平潤にして土地肥へ農産饒多にして畑地反別は本道中第二位を占む京義鐵道は郡の中部を横貫し兼二浦に通ずる支線は黄州驛を分岐點とす京義街道は鐵道に並行して通し途上概ね平坦なり黄州江は流域大ならされども河口より大凡五里に在る緑沙浦迄は普通帆船の通航することを得べく同地より黄州に至る三十町の間は仍ほ小舟を通ずるに足る水路交通の便比較的良好にして行客の來往頗る頻繁を極む住民は農を以て業とし又商業を營むもの少からず生計概して富裕ならされども極貧者は稀なり氣温は攝氏最高三十八度最低零下十度とす産物は大豆を主とし其の産額本道中に冠絶し米、粟、小豆、小麦、順次之に亞く河江には鯉、鮒、鰻、鮫等を産すれども江畔里人の需用に供するに過ぎず鑛産には鐵、石炭あり戸數一萬四千五百餘、人口六萬五百餘あり

**黄州邑** 京義線の一驛にして京城を距る百四十一哩餘に在り本と高句麗の古地にして曾て兵馬節度使を置き全道の陸兵を統轄せしめたる地なり東に山を負ひ四方に開展して平野を有す四面城廓を以て圍繞し周回約一里空濠其外圍を

包み昔時の要砦として其狀偲ふに足る黄州江は邑南を流ふし南方二里にして大同江に注く附近土地概ね脊腹にして農耕に適す停車場は邑を距る三十餘町の所に在り兼二浦線の分岐點たり京義街道に沿へり市場は附近著名の大都市にして平壤開城地方より商賈の來往するものありて頗る殷賑を極む住民の多くは農を業とし商業を營むもの亦多く生活程度稍々高し産物は米、大豆、棉花、生牛等にして近來内地人の團體又は個人にして農業經營に従事するもの漸く多し内地人戸數百四十餘、人口三百九十餘、朝鮮人千五百六十戸五千七百四十人あり郡廳、警察署、區裁判所、學校組合、地方金融組合、朝鮮興業會社、明治農會、東山片倉各農場、小學校、公立普通學校等あり

**黒橋** 京義線停車場所在地にして邑の北方高井面に在り梅上江の上流貯福川(黒橋川)南岸に沿ひ河口に至る約七里の間は滿潮時を利用して小舟の航行を爲すに足る附近一帶農耕に適し地方物資の集散地たり三井物産會社の經營に係る鐵鑛は此地の北方十二町に在る黒橋驛を距る三哩に在り輕便鐵道を敷設して盛に採鑛に従事す巡查駐在所、郵便取扱所、學校組合、醫院、鐵山事務所、農場及ひ小



學校あり朝鮮人五百二十五人、内地人百餘人居住す

**彙二浦** 京義線兼二浦支線の終點にして黃州を距る八哩餘なり大同江の左岸に沿ひ二十七八年の役野津軍の渡河點として有名なる旗津浦の對岸十二浦の一部にして上流平壤を距ること約三十哩下流鎮南浦に至る約十八哩あり明治三十七八年の役京義鐵道敷設に先ち鐵道材料揚陸點として陸軍工兵中佐渡邊兼二氏の發見せる所として此名あり港内水深く優に四千噸の汽船を碇泊せしむるを得べく鎮南浦との水陸連絡の要地として一時繁盛を極めしも平南線開通後は衰頽に傾けり市場は毎月六回開市し一市の取引高七百圓内外に達し物資の賣買稍々盛なり郵便所、巡査駐在所、學校組合、小學校、醫院、農場等あり内地人二百十餘戸六百十四人あり

**月波樓** 黃州城中に在り數百年前の建造に係り黃州川を眼下に瞰望し背後に天然の勝地を負ひ松樹茂生し風光佳美殊に觀月に適す

### 第七節 延安郡

**沿革** 高句麗時代の冬音忽にして新羅朝海阜郡と改め高麗の初め鹽州と稱し顯

宗王の時海州に附屬せしか尋て復置し高宗王永膺縣と改稱し後ち陞して州と爲す元宗王名を碩州と改め忠烈王の時温州と號し忠宣王に至りて延安府と爲す李朝に及び都護府と爲せしも後ち郡に改め今日に至る

**郡勢** 本道の南邊に位し北は平山郡に、西は海州郡に、東は白川郡に隣し南方一帯海に面し並城面は半島形を爲して遠く海中に突出し西方海州灣の東南角と相對して一大灣を成す北方平山郡より連亘する本道西部中軸山脈は甚だ急峻なれども山間所々に平地を見又沿岸一帯の地は平野多きも海に接運するの地は卑濕なり羅津、浦川、石灘江、楓川の諸川は灌溉に資し且つ舟運の利あり其他幾多の細流郡内を縦貫し水田面積の大なること本道中に冠絶し米麥の産道内他郡に絶す道路は邑を中心として各隣邑に通するも所々に山脈の起伏するものあるかため海州に通するものの外平坦ならず沿岸は悉く干瀉に依りて圍繞せられ碇泊地の適當なるものを有せざるか爲め海運不便なり住民は農を以て常業とし沿岸諸面の住民中漁業に従事するものありて飯山島に於て最も多數なり人情は概して狡獪なりと稱せらる郡内朝鮮人戸數一萬一千百餘人口五萬三千



六百餘、内地人口二十、人口五十餘あり、米、麥、大豆、鱈、石首魚、鱈、章魚、烏賊、蛤、牡蠣、食鹽等を主産物とす

**延安邑** 海州邑の東南十二里、白川邑の西南四里半に位置し、海州より開城に至る道路に沿へり、邑は周圍石壁を繞らし、市況稍殷盛にして、場市開設當日は物資の集散多く、毎市の取引高一千圓に及ぶ、集散貨物の重なるものは米、穀、魚類、石油、陶器とす、朝鮮人三千六百餘人あり、郡廳、郵便局、憲兵分隊、地方金融組合、公立普通學校等在り

#### 第八節 長淵郡

**沿革** 高句麗時代長淵と稱し、新羅高麗二朝皆此名に依る、顯宗王の時豊津縣に屬し、睿宗王の代監務を置き、李朝太宗の初め萬戸を置きて、監務を兼ねしめ、太宗王二年鎮を置き、兵馬使及び判縣事を兼掌せしむ、其後永康縣(康領)を併せ、淵康と稱せしか、幾もなくして各復舊す、世宗王五年兵馬使を罷め、僉節制使と爲し、尋て縣監に改め、後世郡守を任置し、現今に至る

**郡勢** 本郡は本道中部西端海岸に位し、東は海州郡に、北の一部は松禾郡に接し、其

他は環らすに海水を以てし、遠く海中に突出して半島形を成す、長山串即ち是なり、而して西南沖合に碁布する白翎島、大青島、小青島等の島嶼を併轄せり、中軸山系は東方より來り、郡の稍々南部を横斷して、長山串岬角に迫るか、故に地形中部に高く、南北に傾斜す、其支脈郡内各所に連亘するも、又所々に展開して平地を見る、殊に郡邑附近及び岬角の北部に於て廣大なる平野を成す、河は中軸山脈及び北方松禾郡より發する二流を重なるものとし、各平野を貫流し、流域は沖積土にして、農産豐なり、陸路一般に險惡にして、交通頗る不便なり、住民は農を生業とし、沿岸地方の民は多く、漁撈に従ふ生計は概して裕ならず、産物は米、麥、大豆、其他の雜穀、煙草並に海産物とす、戸數一萬二千百餘、人口五萬三千九百餘あり

**長淵邑** 長山串北方の一津なる夢金浦を距る、東方約七里に在りて、海州邑との間十五里を隔つ、附近沃野に富み、且つ古來治所たりしを以て、交通不便なるに拘らず、人家割合に稠密なり、水路の交通は夢金浦又は苔灘よりするも、定期船の寄港するものなし、産物は穀類にして、殊に大豆を多産す、郡廳、郵便所、巡查駐在所、憲兵分遣所、公立普通學校在り



**苔灘** 大東河の右岸に在り郡中主要の物資集散地にして戸數約三百あり市場ありて開市日には來集者頗る移く殷賑を極む移出品の重なるものは米穀及び大豆なり

**夢金浦** 長山串を北に廻ること約七哩の所に在る一小灣澳に位し海安面に屬す本浦は長山串以北大同江間に於ける有數の港灣なるも水淺くして五十噸以上の船舶を容るること能はず且つ灣口浪荒くして出入に困難なれども小帆船數十隻を碇繋するに足り漁餌の産地なるを以て漁船の出入常に絶へず戸數は未だ二十戸に満たず警察署學校組合、税關監視署、朝鮮海水産組合出張所在り

第九節 松禾郡

**沿革** 本郡青松、嘉禾二縣の地を併せたるものにして青松縣は高句麗時代に於て麻耕伊と稱せし地なり、嘉禾縣は高句麗の板麻串にして高麗顯宗王九年二縣共に豊川に屬し睿宗の初め各監務を置きしか李朝太宗王八年に至り二縣を併せて名を松禾と改め縣監と爲し後ち郡とす隆熙三年又豊川郡を之に併せ爾來今日に及ぶ、豊川郡は高句麗の仇乙縣にして高麗の初め豊州と改め後ち都護府と

尋て防禦使を置き李朝太宗王六年兵馬使と爲して知州事を兼ねしめ後ち一度殷栗縣と合して豊栗縣と稱せしも幾ならずして各舊に復し後ち郡に改め隆熙年間松禾郡に併合す

**郡勢** 本道の中部西邊に位し東は信川郡に、東南は海州郡に、南は長淵郡に接し北は殷栗郡に隣し西方一帶海に瀕し其前面に浮へる椒島、席島等の島嶼を併轄す東方信川郡界に達摩山、望月山あり南西長淵郡境に磚石山あり北部に九月山脈聳然として連亘するありて支脈郡内に縦横し平地の重なるものは北部南川、救玉川、中部魚川の流域に存し其他は山間に點在し河流少からざるも灌溉の利多からず耕地總反別九千八百町歩の中七千町歩は畑地に屬せり陸路は峻嶮ならざるも阪路多くして來往不便なり沿岸港灣に乏しく水路交通亦便利ならず住民は農を業とし海岸地方にありては漁撈に従事するもの少からず郡内戸數一萬一千七百餘、人口五萬三千九百餘あり農産物の重なるものは米、麥、大豆、棉花、煙草にして水産には鯛、石首魚、鱺、鰻、其他の魚類及び多少の食鹽あり又鐵砂金を出す



**松禾邑** 郡の中部魚川の上流右岸に在り三方丘陵を以て繞らし東方僅に平地に通す南方長淵邑に三里東方信川邑に八里、北方般栗邑に四里を隔つ水路の交通は北方九里餘の大同江口たる漁隱洞よりす附近は郡中主要の米産地なるか故に邑内亦般賑なり市場ありて毎月四、九の日を以て開市し魚類、海草、雜貨の集散多く一市の取引高平均二千圓に上る邑民は農業又は商業に従事し生計状態裕ならざるも貧困者は少し郡廳、區裁判所憲兵分隊郵便局、種畜場、地方金融組合等在り

**椒島** 郡の西方に浮へる一島にして周圍約二十一浬あり大陸との海峡を椒島水道と稱す島内山岳重疊し平地少く沿岸良好の碇繋所なし戸數二百七十人口千百餘ありて漁業盛なり

第十節 魏津郡

**沿革** 本と高句麗の魏遷なり高麗の初め魏津と稱し顯宗王縣令を置く李朝太宗六年鎮を置き兵馬使を以て判縣事を兼ねしめ世宗王五年改めて僉節制使と爲せしか尋て縣とし後ち郡に改め隆熙二年康翎郡を併せて今日に及ぶ、康翎郡は

高句麗時代に付珍伊と稱せし地にして高麗の初め永康と改め顯宗王九年瓮津縣に屬し太宗王十四年長淵縣に併せしことあり李朝世宗王十年永康に白翎島を合せて康翎縣と爲し太皇帝建陽の改革に際し郡に改めしか隆熙年間魏津郡に併合す

**郡勢** 本道の西南隅に位する一郡にして北より東に亘りて長淵海州の二郡に接壤するのみにして其他は總て海を環らして半島形を成し其前面海上に浮へる麒麟、昌麟、巡威、龍湖其他の島嶼を併轄す中部東方に鳳凰山、鷄冠山峙ち南方に峨嵋山、烽台峯、望台山聳へ北方に秀大山、天蓋山屹立し支脈郡内に起伏して廣濶なる平地に乏しく河川は總て溪流にして灌溉の利少きを以て水田は畑地の半に過ぎず海岸線は屈曲に富み延長里程道中沿海各郡に冠絶し潯入の最も大にして且つ水深きものを康翎江とす道路は阪路多く往來不便なるを以て交通は多く水路に倚る住民は農を業とし沿海地方は漁業又は製鹽に従ふもの少からず生計一般に裕ならず郡内戸數一萬二千餘、人口五萬三千餘あり物産は米、麥、大豆其他の雜穀、石首魚、鮠、鯛、鰻、大刀魚等の魚類、貝類及び海草なり



甕津邑 郡の西南部沿岸に在り東南丘陵を負ひ西方港灣を控へ風光明媚の地なり氣候は冬季寒氣酷烈にして澇水悉く凍結す陸路交通不便なるため主として海路に倚る住民は農業又は漁業に従事し貧困者は少からず金融常に逼迫す朝鮮民家二百四十餘、人口六百五十餘にして内地人二十餘人あり郡廳郵便局、憲兵分遣所、巡查駐在所、地方金融組合、普通學校在り

康翎 本と康翎郡衙の所在地たり海路の交通は便ならざるも海州に至る近きを以て其間來往稍々繁し住民の生業は農商相半し人家二百四十餘を有す

龍湖島 別名を龍威島と云ふ康翎江澳に在る周回約一哩の小島なれども大小船舶の碇繋に適し魚類の處理地として著名なり戸數百三十餘、人口四百十餘を有し憲兵分遣所、巡查駐在所、郵便所、朝鮮海水産組合出張所等在り

花山神社 北面花山里花山に在り高麗朝蒙古の亂に際し花山君李祥龍之を討平して功あり郡民其功を慕ひ此祠を建て春秋祭祀を絶たす

第十一節 安岳郡

沿革 高句麗の楊岳郡にして高麗の初め安岳と改め顯宗王の時豊州に屬し睿宗

王監務を置く忠穆王四年陞して知郡事と爲し李朝之に因り後世郡守を置き今日に至る

郡勢 本道の北邊に位置し東は載寧郡に、南は信川郡に、西は殷栗郡に接し北及び東北は大同江に面す東西約七里南北八里の廣袤あり九月山の聯峯北より西に走りて殷栗郡との境を爲し餘脈郡内に及ぶと雖も東部は低平地にして農耕に適し耕地總面積一萬八千四百餘町歩に達し其の廣さ本道中第三位を占む交通甚しき不便なし住民は農業に従事し副業として草鞋、繩、木綿、織蓆等を製作し又商業を營むものあり貧富の度比較的平均し殆んど極貧者を見ず戸數一萬二百餘、人口四萬三千餘あり産物は米、麥、大豆、粟、蘆草、煙草、家畜及び鐵鑛を主とす

安岳邑 壽石面に在り京義線沙利院停車場を距る六里にして達し載寧邑へ四里半、鎮南浦へ六里なり金融は逼迫を例とす朝鮮人千五百七十餘戸六千四十餘人内地人四十戸百十餘人居住す産物は米、穀、青唐草、棉花等にして郡廳、郵便局、憲兵分遣所、學校組合、地方金融組合、小作人組合、小學校、公立普通學校あり

安岳溫泉 屹紅面にあり附近一帶山河明麗風光佳なり泉水透明にして皮膚病に



效驗ありと云ふ

第十二節 谷山郡

沿革 高句麗の十谷城(一名谷城又古谷)にして新羅景徳王改めて鎮瑞とし永興郡(平也)の領縣と爲す高麗朝谷州と改め成宗王防禦使を置き顯宗知州事と爲し李朝太祖二年谷山と稱し府を置く太宗王二年再ひ知州事に復し後ち郡と爲し今に至る

郡勢 本郡は本道の東北邊に位置し東及び西は咸鏡南道安邊郡、江原道伊川郡及び本道新溪郡に界し西は遂安郡に、北は成川陽徳兩郡を以て平安南道に境す百年山脈は東北より來りて咸鏡南道との境に連亘し江原道に入る北方菊花山脈は平安南道の界を劃り又西南には谷山高原蟠居して遠く遂安新溪二郡に跨り高原の周圍二十里に亘れり郡境繞らすに高山峻嶺を以てするかため郡内到處餘脈起伏し耕地は山間溪谷に散在し水田は僅に大同江支流沿岸に存するのみ道路は險惡にして交通は不便なり住民は概ね淳朴にして専ら農業に従事し生計困難なるもの多し産物は大豆を主とし年産額二萬四千四百餘石に及び本

道中第三位にあり米麥、粟、煙草、棉花、大麻之に次ぎ就中煙草は著名の産地たり穀物に砂金、陶土あり戸數九千五百餘、人口四萬五千五百餘あり

谷山邑 邑内面に在り南新溪へ十里、西遂安に九里半、北平安南道陽徳へ十五里にして達す道路は何れも峻阪險峙ありて往來頗る困難なり邑民の生業は農商相半し生計裕ならざるもの多し産物は穀類、煙草、棉花、大麻等なり邑内戸數八百餘、人口四千餘あり郡廳、守備隊、憲兵分遣所、郵便局、公立普通學校及び私立學校在り

第十三節 瑞興郡

沿革 本と高句麗の五谷郡にして新羅五關郡と改め高麗の朝洞州と稱し成宗王防禦使を置きしか顯宗王の時之を廢し平州(平山)に屬せしむ元宗王名を瑞興と改め縣令と爲し李朝太宗王十五年知郡事に陞し世宗王六年更に陞して都護府と爲せしか近世郡に改め現今に至る

郡勢 本郡は本道の中央より東北部に偏位し東は遂安新溪二郡に、南は平山郡に、西は黃州鳳山兩郡に隣し北は平安南道祥原郡に境す車蹄嶺、加陰嶺の峻峰東及び北に峙ち餘脈郡内に起伏し南部及び禮成江の上流沿岸に平野を見るも概し



て畑地にして水田に乏しく其割合約七と三なり道路は郡の南部を通する義州街道の外多くは阪路ありて車を通するに由なし京義鐵道は義州街道と殆んど並行して北走し新幕瑞興の二停車場を有するかため近時之に倚るもの多く沿道の運輸交通を助くること尠からず農業本位にして近年養蠶を爲すもの増加せり郡内朝鮮人戸數九千餘人口三萬九千餘内地人約八百人居住す産物の重なるものは麥、大豆、粟其他雜穀、棉花、人蔘、紬、木炭、牛等とす

**瑞興邑** 郡の西南部に位し山を負ひ禮成江上流に蒞み土地高燥風景佳なり停車場は邑を距る約一里の地にありて近時新道路を開き其間來往不便を感せず氣候は最高華氏九十八度最低六度なり邑民は概ね農を業とし商業は盛ならず耕地は殆んど畑にして米は他より仰かざるを得ず養蠶は相應に收穫あり黄海紬と稱するものは多く此地方より出つ邑内朝鮮人六百戸三千五百餘人内地人百餘人居住す郡廳、警察署、區裁判所、郵便所、地方金融組合、公立普通學校等在り

**新幕驛** 京義線の一驛にして京城を距る約九十七哩なり元と殆んど無人の場なりしか附近農業地として矚目せられ鐵道開通以來急速の發展を爲し今日にて

は朝鮮人七百戸二千九百人、内地人二百戸六百餘人居住す附近農産豊にして又著名の薪炭移出驛たり守備隊、憲兵分隊、郵便所、學校組合、小學校、普通學校、病院、布教所等在り

#### 第十四節 遂安郡

**沿革** 高句麗時代の獐塞縣にして新羅の朝栖巖郡の領縣たり高麗の初め遂安と改稱し顯宗王の時谷州(谷也)に屬せしか後ち縣令を置く忠宣王の時陞して遂州と稱へ李朝に至り遂安に復名し郡と爲り引續き今日に至る

**郡勢** 本道の東北邊に位置し東は谷山郡に、南は新溪郡に、西南は瑞興郡に隣し西北及び北は平安南道の祥原江東成川三郡に對す郡内の大部は山岳重疊起伏し殊に西方瑞興郡境に於て高嶺峻峰を成し唯々東部は稍々廣き平野を控ふ谿谷山腹到る所開拓せられ耕地總反別八千四百町歩に及ぶも其中水田は僅に六百町歩に過ぎず古來交通至難の地なるか爲め他所に比し濫伐の厄少く割合に多くの森林を有す道路は遂安邑を起點として谷山、新溪、瑞興、黄州に通する四線ありも何れも谿谷を繞繞して造れるを以て羊腸迂曲且つ阪路極めて多きか運搬



交通は總て人肩牛馬背に倚るの外なし郡内戸數九千九百、人口四萬一千八百餘あり農産物は粟、麥、大豆、米、棉花、煙草、麻にして鑛産に金あり就中棉花、煙草及ひ麻芋は本郡有望の作物たり

**遂安邑** 邑内面に在り谷山、新溪、瑞興、黄州各邑に通する道路あるも總て阪路多く車を通せず京義鐵道瑞興及ひ新幕驛に至るには孰れも十里餘にして途上川流懸谷多く降雨の際は交通杜絶するを常とす地勢此の如く交通頗る不便なるか爲め文化の度低く産業の發達亦極めて遅々たり邑民の殆んど全部は農を生業とし内地人の居住するもの七十人あり郡廳、憲兵分隊、郵便所在り

**笏洞** 水口面に在り米國人の投資經營に係る金鑛所在地にして鑛區二十萬八千五百坪を有し鑛産年額九十萬圓を超ゆ平壤を経て内地、米國及ひ英國に輸出す遂安金鑛と稱するもの之なり

第十五節 白川郡

**沿革** 高句麗の刀臘縣一名雉嶽城なり新羅羅澤と改め海阜郡(延安)の領縣となす高麗の初め白州と稱し顯宗王の時平州(平山)に屬す毅宗王の代開興府と改めし

か後ち舊名に復し高宗王陞して郡と爲し復興と名け恭愍王の時復た白州と稱す李朝太宗王十三年始めて白川と號し郡と爲し京畿より移して本道に隸し以來引續き今に至る

**郡勢** 本道の西南部海岸に位し北は平山郡に西は延安郡に隣し東北部は禮成江を挾んで金川郡及ひ京畿道開城郡に境し南は湖水に瀕し其前面江華、喬桐の二島と對向し内海の靚を成し漢江、臨津江及ひ禮成江の共同河口たり。郡の北東は山岳重疊起伏すれども西南部は山間溪谷に於て稍展開せる平地を爲し南部を流るる玉山浦川の上流附近は郡内重要の米産地たり瀕海一帶平低にして下瀉地連亘し茫漠として殆んど際涯なく其間卑濕の箇所多くして開拓に適するものは甚た少し道路は東北金川郡に通するもの二條ありて其一は内浦に至り他は禮成江を涉りて鷄井驛に達す其他延安及ひ豐徳に連るものあれども何れも車輛を通するに困難にして貨物の輸送は主として玉山浦の舟運に倚る住民は農業を主とし沿海の部落にありては漁撈に従事し其他小規模の商業を營むものあれども生計一般に裕ならず米、麥、大豆等の農産物及ひ海産物を出す戸數八



千七百餘、人口四萬二千八百餘在り

**白川邑** 別名を岳城と稱す郡の略々中央に位し京城の西北十八里に在り玉山浦川は邑南を流れ附近水田多く郡内米産の主要地たり邑の東南四里にして禮成江の一要津たる碧瀾渡に通し以て京義鐵道の土城驛に達し西方延安邑へは凡四里半にして至る道路は何れも険隘にして輓車を通せず東南半里許に在る玉山浦は孤山浦の俗稱にして玉山浦川の北岸に位し物貨の吞吐口にして運輸交通の要衝たり邑民は農を主とし又商業を營むものあり生活の程度は概して低し産物は米穀及び大豆なり邑内朝鮮人二千有餘内地人の居住するもの二十餘人あり郡廳憲兵分遣所郵便所公立普通學校在り

第十六節 金川郡

**沿革** 本と牛峯江陰二縣の地を併せたるものにして牛峯縣は高句麗時代には牛峯郡(又牛道)と稱せしか新羅景德王牛峯郡と改め高麗顯宗王の時平州(平山)に屬し文宗王開城府に移隸せしめ睿宗王監務を置く李朝太祖四年陞して縣令と爲す江陰縣は高句麗の屈押縣にして新羅朝江陰と改稱し高麗太宗王縣監を置き

孝宗王に至り牛峯江陰二縣を併合し江陰縣金郊の北牛峯縣吾助川の南方に建邑し金川郡と命名し郡守を置く李朝肅宗王一ひ治所を猪灘の南に移し英宗王の時又金郊の舊地に置きしも正宗王に至り再び猪灘に復置し爾來今日に及へり

**郡勢** 本道の東南邊に位し東は兎山郡に、北及西は新溪平山兩郡に、西南及び南方は白川郡並に京畿道開城郡に境す東方に雄德鼎山秀龍の諸山聳へ西方に黄衣、石長春明の諸峯峙ち南方に帝釋山脈連亘して三面郡境を劃り郡内又山陵の起伏するもの少からず耕地其間に介在し其面積六千四百餘町歩を有し禮成江及び其支流數條郡内を貫流するあるも灌溉の便に乏しく耕地の大部分は畑地にして麥、豆の産額相如き米産は殆んど他に移出するの餘裕なし京義鐵道郡内を斜めに縦貫し金郊、鷄井の二驛を有し道路は廣からざるも山間溪谷を迂回し概ね急阪峻峙なく運輸交通便利なりと云ふを得へし住民は農を本業とし傍ら採薪に従事し又家蠶及び柞蠶を飼ふものあり産物は大豆を主とし麥其他の雜穀、薪炭、人蔘等之に亞き又石炭鑛あり戸數六千九百餘、人口三萬二千餘あり



**金川邑** 郡の中央郡内面に在りて金郊驛より約十町を隔つ東に玉女峯、西北に彈琴坨の高地を負ひ南部に平野を擁す平山、開城、白川、兎山等四方郡邑に通する道路は急坂なきも車を通するに困難なり邑を距る約十町の金郊驛に出れば鐵道遠く南北に通すへし邑民は農業を主とし又飲食店業を營むもの少からず朝鮮人二千餘人、内地人三百餘人居住す産物の主なるものは大豆及び薪炭なり郡廳郵便所憲兵分遣所學校組合、小學校、私立學校在り

**金郊驛** 京義線の一驛にして京城を距る七十哩餘邑の北約十町に在り北に馬山を負ひ南に平地を控へ主として大豆を産す

**鷄井驛** 東面に在り京義線停車場所在地にして京城より六十三哩を距つ附近丘阜多きも又耕地に富めり朝鮮人百八十人内地人九十人あり

第十七節 殷栗郡

**沿革** 高句麗の栗口或は栗川にして高麗の初朝今の名に改め顯宗王の時豊州に屬す李朝太祖五年監務を置き太宗王十四年縣監と爲し近世郡に改め今に及ぶ郡勢 本郡は本道の西北端に位し東西南の三方は安岳、信川、松禾の三郡を以て包

まれ北は大同江の下流を以て鎮南浦府に對す東南には有名なる九月山脉聯亘して安岳、信川の界を爲し地勢高峻なるも西北一帯は耕地多く米産豊にして年鎮南浦其の他に移出する額少からず主要なる道路は殷栗邑より發し南方松禾邑を経て長淵に、北方二里半にして金山浦に達し水上約三里にして鎮南浦に著す住民の生業は農を第一とし商之に亞き又少數の漁業に従事するものあり生活状態稍々裕なり戸數七千七百餘、人口三萬七百餘あり産物は米、粟、大豆、麥にして又著名の鐵產地たり

**殷栗邑** 郡の略々中央九月山の裾野に位し松禾、長淵二郡及び本道西北諸郡と鎮南浦港との交通の要路に當り取引は鎮南浦を中心とし隣邑安岳と共に經濟上道中重要な位地を占め郡中第一の繁華地たり邑民は農業又は商業に従事し生計概して裕なり朝鮮人三千、内地人五十餘人あり産物は米穀の外特産品を認めず郡廳郵便局、巡查駐在所、地方金融組合、公立普通學校あり

**九月山** 邑の東方約一里に在る連峯にして其の最も高きものは三千尺を超へ本道第一の高嶺たり四季眺望に直しく山中に殿堂あり傳へ曰ふ朝鮮の始祖檀君



此山に入り三子を祀れりと山上城趾あり山頂を傳ふて南北に走り頗る形勝の地を占め烟靄縹糊の間遠く京城仁川を望み得へし山麓に古刹あり停殼寺と云ふ大雄殿、清風樓等の殿樓あり山を負ひ川に臨み静寂の地たり寺を距る數町にして一瀑布あり瀧溪と稱す斷崖迫る所高く水柱を懸け風景畫の如し

寒山寺 九月山下雲溪洞に在り朝鮮有數の寺利にして又具葉寺とも云ふ具原大師豊海を渡りて此山に來り錫を留めたる所なる繪欄畫軒昔時の俤を存す法華經木版を藏す寺中數千年を経たる楓樹數十株あり

金山浦 鎮南浦への渡津にして邑の北方二里半、大同江岸に位置する一部落地にして民家數十戸鐵鑛事務所、私立學校等在り

殷栗長連鑛山 本鑛山は枝光製鐵所の所管に屬し鎮南浦を距る水路二十五里の大同江岸に貯鑛所あり之より水上四里の瀉地を経て金山浦鐵鑛事務所に達す鑛山は共に事務所の附近に在りて二鑛は一川を隔てて相對し鑛坑を距る十數町、青洋島附近に於て百噸乃至三百噸の帆船により内地に運送し其間輕便軌道を通す警察署學校組合、小學校在り

第十八節 新溪郡

沿革 高麗朝の初め新恩縣と稱し顯宗王の時谷州(谷川)に屬し高宗王陞して知州事とし曹州と號せしか尋て州を罷め舊名に復し谷州に還屬す李朝太祖五年始めて監務を置き俠溪縣の地を之に併せ太宗王十三年縣令に改め世宗王二十七年舊二縣の名を採て新溪とし近世に至り郡と爲す

郡勢 本道の中部東邊に位置し北は谷山遂安二郡に、西は瑞興郡に、南は金川兎山兩郡に隣し東は江原道伊川郡に境す西部には車蹄岑の支脈連り北部には谷山高原蟠り東部には德業山脈重疊するも中部及び南部は所々に開濶たる平野をなし禮成江の本支流其間を貫流して灌溉に資し耕地總反別四千六百町歩に及へり北方谷山遂安二郡に通する道路は阪路多く交通不便なるも南方新幕停車場に出づる道路は最近に於て之か改修を畢へ車を通するに至れり河流には舟運の利なし住民は多く農業に従事し傍ら養蠶を爲し明紬を織るもの少からす郡内戸數五千六百二十、人口二萬七千五百餘あり物産は米、麥、大豆、粟、玉蜀黍、棉花、煙草、人蔘、明紬、紙、朝鮮酒、砂金、銅、亞鉛鑛等なり



新溪邑 中面に在り京義新幕驛の東北八里半を隔つ其間車を通す北方谷山邑に九里二十二町、東方伊川邑に八里あり其間孰れも道路峻惡且つ羊腸迂曲し來往困難なり邑は禮成江岸に近きも舟楫の便を有せず邑民の大部分は農を生業とし傍ら養蠶機械に従事し又商業を營むものあり生計状態は概して裕ならず郡廳、警察署、郵便局、私立學校等在り

第十九節 兎山郡

沿革 高句麗朝斯含達縣と稱し新羅景德王に至り今の名に改む高麗顯宗王の朝長湍縣(京畿道)に屬し尙書都省に直隸す後ち開城に移隸し睿宗王監務を置く李朝太宗王十三年縣監と爲し本道に隸せしむ後世郡に改め今に至る

郡勢 本郡は本道の東邊に位し東北は安峽郡を以て江原道に接し西北は新溪郡に西は金川郡に東及び西は朔寧長湍の兩郡を以て京畿道に境す廣袤東西九里南北凡五里あり郡内到處峻嶺起伏し平野極めて少く禮成江の支流は北安峽、東朔寧の兩郡より來り合して郡内を横貫し以て本流に注ぐも山間の急流なるを以て運輸の便なく交通頗る不便の地たり住民は性概して順朴なるも進取の

氣に乏しく蒙昧の域を脱せず主として農を業とし生計困難なり産物は大小豆、麥、粟、米、明紬、人蔘等にして大豆及び麥の産額は殆んど相伯仲す戸數三千八百餘人口一萬七千六百餘あり

兎山邑 邑内面堂里に在り朔寧、安峽、金川の各郡に通する道路は邑を中心として連接すれども交通便ならず邑民の過半は農を生業とし商業を營むものは極めて少く生活状態困難なるか如し邑内戸數二百餘、人口一千百五十郡廳、憲兵分遣所、郵便所、私立學校あり

龍巖 邑西約二里宿仁面康田里にあり巖形恰も龍の天に昇るか如く文祿の役加藤清正鐵槌にて頭部を破碎せりと云ふ

樓亭 邑を距る五町大巖上に立てり大古檀君九月山(殷栗郡に在り)にて二兒を儲け其の遊戯場と爲せりと云ふ岩上約十米突四方平坦にして頂上に碑石を建つ

第四十五章 江原道

沿革 往古穢貊の地なり漢に屬して臨屯郡と稱し高句麗起りて之を併せ新羅を



經て高麗朝に及び成宗王十四年朝鮮を分ちて十道を置くや嶺背一帶を朔方道とし尙ほ春川等の郡縣を之に屬せしめしか明宗王八年に至り朔方道を改めて沿海溟州道と爲し春川等を分離して別に春川道又東州道と名く元宗王四年沿海溟州道を江陵道に、東州道を交州道と改稱す恭愍王の代一度江陵道を江陵朔方道と改めしか尋て復舊し辛禡の時交州江陵二道を併せて交州江陵道と爲し李朝太祖四年に至り始めて江原道と稱す孝宗王及び肅宗王の朝一時原襄道又江襄道と唱へしか共に幾もなくして江原道に復名し太皇帝即位三十二年の改革に際し管内を二分して江陵春川二府を置きしか翌年之を廢して江原道の名に復し爾來今日に及び現に二十五郡二百三十七面を管す

**位置廣袤** 朝鮮の中部東邊に位置し北は咸鏡南道に、西は黃海道及び京畿道に、西南は忠清北道に、南は慶尙北道に接壤し東方一帶日本海に面す南北最も長さ處約七十里、東西同三十八里にして面積千七百二十一方里あり

**地勢** 北方咸鏡道に接する所ろ鐵嶺の峻嶒あり之より山脈海岸に近く縦行して北より南に走り脈中金剛山五臺山最も高し故に嶺東の地は狹長なる帶地を成

し傾斜急にして河流の大なるものなく嶺西の地は一般に高原を成し傾斜緩なり南には太白山あり其西なる小白山は忠清北道慶尙北道の界に位置せり鐵嶺は北部に於ける京城への要關にして之を越へ漢江の谷を下れば京畿道に入るへし道の大部は漢江上流の灌域を爲し北部の水は春川の近傍にて集まり北支の水源を爲し南部の水は原州の近傍にて忠清北道北東隅を経て來る水を合せ南支の水源を爲し共に西方京畿に入る全道山嶽地に屬し平地少く地味概して瘠薄なるも沿海漁利多く海岸線は延長二百二十四哩に亘るも極めて屈曲に乏しく港灣渺く島嶼亦罕なり然れども海岸一帶風景に富み古來關東八景の名あり氣候は概して暑さに凌ぎ易く寒さは酷烈なるも嶺東の地は洋風の調和あるかため寒暑共に比較的緩和なり雨期は毎年七八兩月に渉るを例とし雪は嶺東地方は一尺内外、嶺西は二三尺を普通とし北部に至れば五尺を超ゆることあり

**交通** 道内樞要道路は延長三百六十里にして其中幅員六尺以上のものは京元街道一線に過ぎず其他は羊腸起伏し旅客貨物は輻輳若くは人肩馬背に倚らざるを得ず海運の如きも港灣に乏しきかため沿岸航路中の難關として知らる通信



機關は稍々備はり道廳及び郡廳所在地には郵便電信局所の設なきは稀なり  
 住民 本道の人民は古來殺伐の風ありて不良の徒多かりしも近來漸く其形跡を  
 絶つに至れり然れども各地方深く山嶽に鎖され他との交通困難なるか爲め自  
 ら固陋の俗に長し進取の風を缺けり生業は農耕を主とし沿海地方は漁撈に従  
 事するもの少からざるも一般に民度低劣にして雜穀を常食とす宗教は耶蘇教  
 を主とするも最近漸く信者を減するもの如し管内朝鮮人十五萬九千七百餘  
 戸七十八萬一千二百餘人内地人五百五十餘戸千四百餘人外國人二十餘戸五十  
 餘人あり

産業 道内到處山嶺重疊し耕地少く田畑總反別約十七萬五千町歩にして而も  
 大部分は地味瘠薄なるかため産出力少し養蠶は風土能く適し就中春川鐵原原  
 州江陵等を有望とし家畜は牛七萬一千餘頭豚九萬頭あり  
 道内市場六十餘箇所を有し通例毎月六回開市し必需品は總て此處にて賣買す  
 るも商況殷盛なるもの少し他管に移出する工業品は明細麻布木綿にして明細  
 は鐵原春川を首とし金化伊川安峽江陵等之に次く麻布は淮陽江陵の産多く年

額六萬四千圓なり白木綿は春川を第一とし年産額二萬三千圓とす其他陶磁器  
 業あるも何れも手工業に屬し未だ幼稚の域を脱せず

嶺東八郡の沿海は總て漁業地にして一年約十萬圓の漁獲あり鹽も亦沿岸各郡  
 に産し就中通川襄陽江陵の産多く年額七萬三千圓を超ゆ

鑛物の種類は多きも採掘に著手せるものは砂金にして日下二十五箇所あり  
 物産 農産は米、麥、豆、其他雜穀、麻、烟草、果實等にして畜産に牛あり林産物は松、樅、栗  
 を主とし鑛産には砂金、金、銀、黑鉛、鐵、鑛多く又獸皮を出す水産物は鱈、鯨、鱒、鯛、明太  
 魚、鱈、貝類、海藻類及び鹽にして鯨は沿海普く來遊す

第一節 春川郡

沿革 往古新羅國の地にして新羅善德王六年牛首州又は牛頭州と爲し軍主を置き  
 文武王十三年牛首州と稱へ景德王朔州と改め後ち更に光海州と改稱す高麗太  
 祖二十三年春州と號し成宗王十年團練使とし安邊府に屬し神宗王六年陞して  
 安陽都護府と爲せしか其後降して知春州とし李朝太宗王十三年今の名に改め  
 郡と爲し十五年郡護府に陞せしか太皇帝の時春川府となし近年郡に改め郡守



を任し今日に及ぶ

郡勢 本道の中部西邊に位置し東南二方は楊口、洪川二郡を以て包み北は華川郡に隣し西は京畿道、加平郡に境す東北部一帯は山嶽重疊し南部又丘陵起伏し中央部漢江支流の流域に於て平地を成し耕地總反別六千七百三十餘町歩あり其三分の一は水田にして米八千八百石麥七千四百石大豆四千六百餘石を産出す隣郡との交通は一般に不便にして京城及び華川間の路幅は車を通するも所々に坂路あるかため歩行を要する所少からず然れども漢江の水路を降れば二日にして京城府内蘆島に達すへし住民は農を本業とし採薪を副とし一般に民度低劣にして粟其他の雜穀を常食と爲す郡内戸數八千五百餘、人口四萬二千餘あり産物は米穀、棉花、絹布、薪材、砂金等なり

春川邑 府内面に在り往古獺の首城たり京城の東北十三里餘漢江の舟路に倚れは十八里にして同江の北支たる昭陽江舟運の極點とす北に清平山を負ひ西南十餘町にして船舶碇繫場を有し元山地方より京城に至る要路に當り道中屈指の貨物集散地にして且つ道廳所在地たりと雖も交通便利ならざるため其發

展遅々として民家三百五十、人口千七百餘に過ぎず内地人三百餘人あり産物は米穀、麻、牛皮、栗、薪材にして京城の燃料は多く此地に仰けり江原道廳の外郡廳地方裁判所、區裁判、憲兵分隊、監獄分監、郵便局、警察署、學校組合、地方金融組合、蠶業傳習所、小學校、公立普通學校、實業學校等在り

貂國城址 邑北清平山に在り山南一里昭陽江に臨む是れ貂國の地にして實に二千年前の古都たり又秣鞬塚あり里人之を牛頭坪と云ふ素盞鳴尊の占領地と傳ふるも亦此地なり四山之を圍み外は平野展開して二江其中に灌き土地豐沃形勝の地たり

鳳儀山 邑の北に在り貂國の時に烽燧臺を設けし所なりと云ふ山上に登れば鐵原平野の廣野を一眸中に納む

昭陽亭 邑北六町昭陽江岸に在り三韓時代の創設にして百年前に重建す詩人雅客の遊ぶ者多し

清平寺 清平山中に在り千七百年前の建立に係り今より二百年前僧普雨なる者重修し其殿宇を宏麗にして儒佛仙道の四書を聚めたりと云ふ寺内に恭愍王の



宰相政蒸の墓あり

### 第二節 洪川郡

**沿革** 高句麗時代の伐力川縣にして新羅朝綠驍と改め朔州(春川)の領縣と爲す高麗顯宗王九年洪州と改稱し仁宗王二十一年監務を置き李朝の初め之に因りしか太宗王に至り縣監と爲し近世郡に改む

**郡勢** 本道の中部に位置し北は春川郡に東は麟蹄郡に南は平昌横城二郡に隣し西は京畿道に境す四周山脈を以て蔽はれ北方春川郡界に立てる進瓶大龍連葉諸山に亘りて二萬町歩の大森林あり南方横城郡境に聳ゆる八峯聖主の二山に跨りて一萬町歩の森林ある等交通の不便なるか爲め濫伐の及はざる林野に乏しからず耕地は漢江の一支北江の一流流たる洪川江の流域及び山間谿谷に點在し總反別三千百町歩ありて田畑畧々相半し麥、米、大豆、粟、を産す道路は北春川に南横城に至るものを主とするも挽車を通せず運輸交通は總て人肩又は馬背に倚らざるへからず住民は農業に従事し傍ら薪材の採取に従ふ生活の程度低く生計一般に裕ならず郡内戸數七千七百餘人口五萬一千六百あり産物は米

穀、棉花、砂金、銀、鐵鑛等なり

**洪川邑** 郡内面に屬し春川の南方八里に在りて洪川江に沿へり道路は北春川、南横城、東麟蹄、西楊平等の諸邑に通するも何れも阪路多く交通機關は橋又は馬のみにして交通一般に不便なり特種産物なく邑民中生活に困難するもの少からざるか如し、郡廳、郵便局、公立普通學校、巡查駐在所等あり

### 第三節 原州郡

**沿革** 高句麗時代の平原郡にして新羅朝文武王北原小京を置き高麗太祖二十三年原州と改名し顯宗王九年知州事と爲す高宗王四十六年降して縣とし一新と改稱し元宗王元年復た知州事と爲し十年陞して靖原都護府とし三十四年更に原州牧に改む忠宣王二年成安府と號し恭愍王二年又原州牧に復し李朝之に因り世祖の時鎮を置きしか後ち之を罷め近世郡に改め郡守を任す

**郡勢** 本道の西南部に位置し東北は横城郡に東は平昌郡に隣し西及び南は京畿道に忠清北道に境す郡内到處峯巒重疊するも氣候比較的温和にして京城と大差なし道路は邑を中心として附近各郡に通するものあれども何れも險惡に



して挽車を通せず交通不便なり漢江の上流ありて灌溉の利に富み沿岸土地肥沃にして耕地多く其面積八千八百八十餘町歩の内水田過半を占め其廣さ道中第三位に在り住民は殆んど農を以て生業とし養蠶を副業となすもの少からされども交通不便なるかため未だ悠遊安逸の弊風を脱せず耕作に力めざるかため比較的收穫量少し又少數の商工業者あり産物の主なるものは米、麥、大小豆、煙草、明紬、木綿、生牛、紙、薪炭とす殊に大小豆は品質良好なるを以て知らる郡内朝鮮人戸數九千九百八十餘人口四萬四千餘内地人七十餘人居住す

原州邑 本部面に屬す元觀察府所在地たり北春川邑に十九里、南忠州邑に十二里、東平昌邑に十五里、西驪州邑に九里にして實に朝鮮半島の中央部に位す山間の一邑なるか故に他郡との來往多からず邑民は舊習を脱せず且つ多くは怠惰なり其の多數は農を本業とし商業をむもの之に次く金融は概して緩和にして收穫期に至れば稍々繁忙なり産物は略々郡と同一邑内朝鮮人戸數五百五十餘、人口二千八百八十餘内地人七十人居住す郡廳、守備隊、憲兵分隊、區裁判所、郵便局、公立普通學校、地方金融組合等在り

雉嶽山 原州邑の東方二里に在り文祿役の古戰場として知らる

法泉寺 文幕洞の南方三里に在り元と宏大なる伽藍にして僧侶二百餘人、庫裡の數一千餘ありしか文祿の役兵燹に罹り今は其殘址を存するのみ

#### 第四節 麟蹄郡

沿革 高句時代の猪足縣にして新羅朝狝蹄と改め楊麗郡(楊口)の領縣とす高麗に至り今の名に改め春川に屬し後ち淮陽に移屬す恭讓王元年監務を置き李朝太宗十三年縣監に改め近世に至り郡と爲し今日に及ぶ

郡勢 本道の中部より少しく東方に偏位する狹長の一郡にして西は楊口、春川、洪川三郡に、東は杆城、襄陽二郡に、北は高城郡に、南は平昌郡に隣す北部に金剛山の支脈重疊し東方に天吼山脈連亘し其他到る處山陵起伏し林野に乏しからず殊に襄陽郡境に連れる訪菴、支峴、梅峯、箭林の諸山に跨りて一萬一千餘町歩の大森林あり耕地は重に昭陽江の流域に存在し總面積五千八百町歩に及び道中有數の農産地たり道路は郡邑より楊口を経て春川に通するを主要のものとするも車を通せず其他の道路は一般に來往難澁なり住民の大多數は農を生業とし間



間商業及び工業に従事するものあり郡内戸數七千四百餘人口三萬九千三百餘あり物産は大豆、米、麥、稗、棉花、大麻、煙草、果實、土器、木器、蜂蜜及び金砂金等なり

**麟蹄邑** 郡内面に在りて春川邑との間十八里を隔て其他横城、洪川、襄陽等の各邑に通ずる道路あるも山間谿谷を迂迴する徑路にして阪路頗る多く交通一般に便ならず邑民は大部分農業に従ひ間々小規模の商業を營むものあり生活の程度は概して劣等なり産物は畧々郡の農産物に同じ郡廳郵便所等在り

**栢潭寺** 北面大勝嶺にあり百餘年前の重建に係り景勝を以て名あり

**靈巖庵** 北面雪嶽山にあり三百年前の建立にして多數の佛像を安置す

**大勝瀑布** 邑東五里勝庵山にあり飛瀑直下四百尺夏季曳杖の客少からず

#### 第五節 三陟郡

**沿革** 本と悉直國にして新羅婆娑王の時來降す智證王六年悉直州軍主を置き景徳王に至り今の名に改め郡と爲す高麗朝成宗王陟州團練使と爲せしか顯宗王降して縣令と爲し辛禱の時知郡事に陞す李朝太祖二年陞して府と爲し太宗王十三年都護府に改め太皇帝建陽の改革に際し郡と爲し郡守を置く

**郡勢** 本郡は本道の東南部に位し北は江陵郡に、西北は旌善郡に、西は寧越郡に接し南は蔚珍郡に隣し西南は慶尙北道に境し東方一帯海に瀕す郡の西部は金剛山系に屬する白福山脈の餘派起伏するか故に地勢一般に高く西部海面に向て急斜し平地少く耕地總反別は千三百二十餘町歩に過ぎずして平海郡と共に道中耕地の最小郡たり而も水利に乏しきか爲め其の三分二は畑地に屬し米産額は郡内の需用を充たすに足らざるも麥一萬二千八百餘石、大豆四千四百石の外尙ほ雜穀の産出あり西方諸郡との間は阪路多く交通難澁なるも海岸を縦貫する道路は割合に低夷なり沿岸出入多く良港を缺けり住民は農業又は漁業に従事し雜穀を常食とし經濟狀態一般に順境ならざるか如し産物は穀菽の外水産を主とし鱧、鱒、鯖其他の魚類和布及び鮭、鮎等の淡水魚を産す郡内戸數九千九百人口四萬五千七百九十なり

**三陟邑** 府内面に在り北方江陵邑へ十二里、南方蔚珍邑へ十五里を隔つ其間途上平低ならざるも郡中主要の道路たり市場は稍々盛にして集散貨物は鹽、魚類、石油、米穀、煙草、絹、木綿にして産物は米、麥及び魚類なり朝鮮人九百餘人内地人四十



餘人居住す郡廳、憲兵分隊、郵便所、巡查駐在所、公立普通學校等在り

長壽里 本郡沿岸の一良津にして往時鎮營の所在地たり港口北東に面し南東高丘を環らし松樹鬱蒼たり灣内水深六七尋に及び大形の漁業船を碇繋するに足る内地漁業者の根據地たり

東海碑 邑より約二十町汀羅洞に在り碑文は許稷の撰筆にして其名遠近に聞ゆ靈隱寺 邑を距る五里に在り道中屈指の巨刹にして佛像香爐等を多藏す

頭陀山 邑の附近に在りて山嶺に一祠あり春秋祭祀を行ひ天旱に雨を禱ると云ふ山上城址あり山麓に三和寺あり瀑布あり水巖穴を浸透して之く所を知らす李朝太宗の朝、倭寇を防かんか爲に築きたるものなりと傳ふ

第六節 江陵郡

沿革 往古緘貊の據りし地にして漢の武帝元封二年將を朝鮮に遣して衛右渠を討ち四郡を定むるや當時臨屯の地たり高句麗朝河西良又は河瑟羅州と號す新羅善德王小京と爲し仕臣を置き武烈王五年秣鞫の地に接するを以て京を改めて州と爲し都督を置きて之を鎮す景德王の時溟州と改め高麗太祖東京と改

稱す成宗王に至り河西府と改め尋て再び溟州の名に復し都督府を置き數年にして牧と爲し又改めて團練使とし後更に防禦使に更む元宗王元年改めて慶興都督府を置き忠烈王今の名と爲し府を置き恭讓王元年大都護府に陞し李朝之に因り世祖の代鎮を置き嶺東沿海の地全部を管掌す近世郡に改め今日に及ぶ郡勢 本郡は本道南部瀕海の一郡にして北は襄陽郡に、西は平昌旌善二郡に、南は三陟郡に隣し東部一帯日本海に瀕す西方は山嶽重列するも海岸附近は平地に富み地味膏腴にして農産豐穰たり大關嶺及び毛老峴山は樹木鬱蒼として繁茂し嶺東著名の森林と稱せらる道路は海岸に竝行するものと西北京城方面に至るものとを主とし前者は比較的傾斜少く交通便なれとも後者は大關嶺を超へざるへからざるを以て往來頗る難澁なり地勢如斯西北に山を負ひ東方海に面するを以て風強けれども緯度に比し氣候溫暖なり住民は概ね勤儉貯蓄の氣風を帯ひ主として農業に従事し副業として養蠶を爲すもの多し又瀕海地方の人民は漁鹽業に従ふ生計概して順境にして清貧者は罕なり産物の重なるものは米にして其産額は本道第三位に在り其他麥、大豆、藥草、蜂蜜、生牛、魚類、海草、鹽、明紬、



麻布等を産し沿海、鱈の漁場たり鑛産には黒鉛、鐵等あり戸數九千七百餘、人口四萬五千四百餘あり

**江陵邑** 別名を東厚或は溟源又は臨瀛と稱し往古穢國の都城の在りし所たり郡の殆んど中央に位し附近一帶平地を爲し地味肥沃にして農耕に適し人煙稠密にして商業の盛なること嶺東に冠たり道路は邑を中心として北襄陽に、南三陟に通する海岸線を主とし交通稍々繁く其の他の道路は峻坂多くして交通便ならず邑民は農及び商を業として生計概して裕なり産物は米、麥、大豆、其他雜穀なり邑内内地人の居住するもの五十餘戸百六十餘人に及び逐年發展の傾向あり郡廳區裁判所、警察署、郵便局、測候所、學校組合、小學校、公立普通學校、實業補習學校、地方金融組合等在り

**普賢寺** 邑を距る北方四里の山腹に在り今を距る一千年前高句麗朝唐の儒僧圓郎の建設に係ると云ふ石碑在りて文を刻し以て寺歴を語る

**鏡浦臺** 邑の北方一里高丘の上に在り高麗時代の建物にして日本海に而す登臨すれば鏡湖の上鴨鴨浮游の狀を下瞰し松樹の繁茂せる丘阜を超へて遙に日本

海上に白帆の漁船風を孕み汽船煙を吐て航行するの景を望むへく眞に嶺東八景の一たるに値す

### 第七節 横城郡

**沿革** 本と高句麗の横川或は於斯買縣にして新羅改めて漢州と爲し朔州(春川)の領縣たり新羅朝横川と復名す後ち原州に移隸し恭讓王元年監務を置き李朝太宗十三年縣監とし翌年今の名に改む後世郡と爲し郡守を置く

**郡勢** 本郡は本道の中部西方に位する一郡にして東部一帯は平昌郡に接し南は原州郡に、西は楊平郡を以て京畿道と境し北は洪川郡に隣す廣袤東西十餘里南北六里餘あり太白聯脈の支脈たる門峙山脈の支脈郡の東部に蟠延して泰岐山、鼎金山等の諸峯を成し地勢一般に高峻なれども中部以西は稍々平地多く殊に中央漢江支流の流域は耕地に富めり郡内田畑相半し耕地總反別四千町歩を有するも地味肥沃ならざるを以て農産額は割合に少し道路は横城邑を中心として四方各郡邑に達するも未だ挽車を通するものなし住民は専ら農を業とす戸數七千七百餘、人口三萬六千三百餘あり米、麥、大豆、大麻、棉花及び家畜を産す



横城邑 郡内面に在り北洪川西楊平南原州に東方遠く江陵襄陽等の諸邑に通ずる道路あるも嶺東地方との交通は極めて難澁なり邑民の生業は農商相半し生活状態裕ならざるも窮困者は稀なり米穀の外特種産物なく内地人の居住するものは數人に過ぎず郡廳憲兵分遣所郵便所公立普通學校及び私立學校在り

第八節 楊口郡

沿革 高句麗の楊口縣にして新羅楊麓郡と改め高麗朝楊溝縣とし春州(春川)に屬し後ち楊口の名に復す睿宗王元年監務を置き狼川(華川)監務を以て之を兼ねしめしか李朝太祖二年之を割き太宗王十三年縣監に改め近世に至りて郡と爲す郡勢 本道の中部より稍々北方に偏位し東は麟蹄郡に南は春川郡に西は華川郡に北は金城淮陽兩郡に隣し廣袤百十七方里あり金剛山を主山とせる山脉郡内到處に重疊起伏し開濶せる平野に乏しきも山間谿谷割合に克く開拓せられ耕地全面積一萬町歩を超へ道中屈指の農産地たり河川の重なるものは前河にして上東面に發源し郡の南部を縫流し華川郡に入りて漢江に合す水淡くして舟楫の利なきも灌漑及び流筏の便あり道路は概ね峻惡にして車を通ずるもの

なく交通頗る不便なり住民は農及び牧畜を生業とし副業として商業工業又は流筏業に従ふ郡内戸數六千五百五十人口三萬三千百七十餘あり物産の重なるものは米粟大豆麥棉花煙草大麻生牛陶磁器にして鑛産に金砂金あり

楊口邑 郡の南部郡内面に在り春川の東北十里に位置し麟蹄との間八里を隔つ道路は總て峻惡にして交通容易ならず市場ありて毎月五十の日に開市し年額三千圓の取引あり邑民の生業は農業又は商業にして生活の程度一般に低く生計困難なるもの少からず産物は郡の農産物に同しく内地人の居住者二十人あり郡廳郵便局憲兵分遣所公立普通學校基督教會等在り

第九節 平昌郡

沿革 高句麗の郁島縣にして新羅白鳥と改め奈城郡(寧越)の領縣と爲す高麗朝今の名に改め原州に屬し忠烈王二十五年縣令を置き辛禡の時陞して知郡事とし後ち縣令と爲す李朝太宗元年再び郡に復し爾來今日に至る

郡勢 本道の南方に位置し東は江陵旌善兩郡に南は寧越郡に接し西は横城郡に北は洪川麟蹄二郡に隣す日本海沿岸山脉中の五臺山大關嶺を主山とせる岐脉



西南に馳走せるもの郡内に連亘重疊し其間森林あり地勢概して北部に高く南部に低し耕地は郡の畧々中央を南流する泗洙河の沿岸及山間谿谷に點在し總反別千六百町歩あり道路は一般に嶮惡にして東北江陵に、西方原州に至る主要の道路すら辛ふして人馬を通するに過ぎず近年頻りに道路改修に従へるも霖雨一ひ到らは忽ちにして崩壊し未だ根本的改修を行ふに至らず住民の大部分は農業に従事し傍ら養蠶を行ふものあり生活の程度は一般に低劣なり郡内戸數六千五百餘、人口三萬三千三百餘あり産物は大豆、粟、麥、稗、麻、玉蜀黍、米、煙草、馬鈴薯、明紳、朝鮮酒、金、銀、砂金等なるも穀類の産額は郡内の需要を充たすに足らず

**平昌邑** 郡の南部郡内面に在りて漢江の上流たる泗洙河に沿へる民家百五十戸の一邑にして春川の東南三十四里、東海岸江陵との間十七里餘を隔て來往頗る不便の地にして冬季は積雪のため交通杜絶することあり邑民は多く農業に従事し間々小規模の商業を營むものあり内地人三十人居住す郡廳、守備隊、警察署、郵便局、普通學校等在り

**烏竹軒** 邑の西北一里半に在り名賢李文成誕生の地にして當時軒の周圍に烏竹

の叢生せるか爲め此名あり文成の母申氏の書と稱するもの今尙ほ邑中に傳ふと云ふ

**月穡寺** 珍富面五臺山に在り千二百餘年前唐の太宗貞觀年間慈藏祖師入唐し文殊菩薩を受けて歸還し此寺を建立せるものなりと云ふ

**太宗駐蹕碑** 邑の東南二里半に在り李朝太宗王行幸の際駐蹕せし跡なりと云ふ

**鷹岩窟** 邑の西南二里の山中に在り文祿の役時の郡守か加藤清正の銳鋒を避けて此窟に匿れたりといふ

#### 第十節 寧越郡

**沿革** 高句麗時代には奈生郡と稱し新羅奈城郡と改め高麗朝寧越とし原州に屬す恭愍王陞して郡と爲し李朝に至り忠清道より本道に移隸し今日に及ぶ

**郡勢** 本郡は本道の南端に位し東は三陟郡及び慶尙北道の奉化郡に境し東北は旌善郡に、北は平昌郡に、西は原州郡及び忠清北道堤川郡に接壤し南は忠清北道永春郡に界す南北約八里東西二十餘里の廣袤あり西南忠清北道との界を劃れる松岳山脈の分脈郡内に重疊し東部は三陟郡より連亘せる白福山脈の餘脈起



伏し耕地は漢江流域及び山間に散在し灌漑の便に乏しく其大部分は畑地にして麥の産額は道中の首位を占め煙草は郡内到處に適し半島著名の産地たり本郡は本道より忠清北道に通する要衝なるも道路は不完全にして交通便ならず漢江には水運の利あり住民は専ら農を業とし魯朴にして民度頗る低し産物は麥、米、大豆、煙草にして戸數七千二百六十、人口三萬八千二百餘あり

**寧越邑** 郡の中央郡内面に在り本道及び忠清慶尙二道北部との交通の要路に沿ひ漢江の流によりて下れば三日にして京城府龍山に著す邑民中數戸の商業者を除く外他は總て農業に従事し生活頗る困難にして毎年秋穫季前數月の間は麥を食するものは寧ろ上流社會に屬し中流以下は雜穀の粥を啜り甚しきは野草を食するものも少からず金融は逼迫を常とす邑内戸數八十、人口四百、内地人數人あり産物は葉煙草を主とす郡廳憲兵分隊郵便所私立學校在り

**駐陵** 邑の北半里、陵洞里に在り李朝端宗王の墓陵にして社殿壯麗なり王は文宗王の子にして年纔に十二にして位に即きしか文宗の弟首陽大君(世祖王)王位を篡ひたれば慷慨の士成三問、朴彭年等六人恢復を謀り事覺はれて誅戮せられ端

宗王亦降封せられ魯山君として此地に放たれ後又庶人に降され憂悶の局毒を仰て死せり地方の小吏竊に屍を收めて葬りしか後ち肅宗王の時成三問等六人の官爵を復して其節義を旌表し又魯山公の位を復して端宗王と追諡せり

### 第十一節 通川郡

**沿革** 高句麗朝の休壤又金溜郡にして新羅改めて金壤郡とし高麗の初朝縣令を置く忠烈王十一年陞して忠州防禦使とし李朝太宗王今の名と爲し郡を置く後世郡守を任し近年に至り隣郡歙谷を廢して本郡に合せ今日に至る

**郡勢** 本道の東北邊に位置し東及び北の二方は日本海に面し南は高城郡に西は淮陽及び咸鏡南道安邊郡に境す西方一帯は咸鏡道より來る太白山脈連亘し餘脈蜿蜒として海邊に迫り南方高城郡界には金剛外山巍然として聳へ中央及び沿岸に於て平地展開す地味良好ならされども耕地面積の廣大なる嶺東第一と稱し川流所々に縫流して灌漑に資し日本海に注ぐ道路は通川邑を中心として高城、淮陽、安邊の各郡に通し概して險惡なれども安邊を経て元山に至るものは車を通す又長箭の良港を有し東海岸航路の重要寄港地たり住民は主として農



を業とし沿海一帯に於ては漁撈製鹽に従事し生計稍々順境なり産物は米、大豆、雜穀、麻布、鱈、鱒、鱈等にして就中米の産額は道中第二位を占む又沖合一帯は鱈の好漁場なり人煙割合に密にして六千五百五十餘戸、三萬一千四百餘人あり

**通川邑** 郡の稍々北方に偏し庫底港に臨み附近平地を爲す東欽谷に七里餘、南方長箭港に八里半の道路は概して平夷にして往來便なれども西方淮陽に通する二條の道路は急峻にして交通便ならず邑民は漁撈製鹽及び農を業とし生活に窮するもの尠し産物は穀類並に海産物なり朝鮮人二千五百、内地人四十餘人居住す郡廳、警察署、郵便局、地方金融組合、公立普通學校在り

**長箭** 郡の南方高城郡界に在り本道第一の良港にして別名を軍艦港と云ふ灣口東に面し西に折れて灣澳深く且つ水深くして大船の碇泊に適す背面には金剛山屹立し其脈岐れて灣の三方を圍繞するか爲め避風の利あり近海は鯨、鱈の漁場にして内地漁民の根據地たり内地人の居住者多く運輸交通の便開け漸次發展の氣運に向ふ學校組合、巡査駐在所、郵便所、小學校在り

**沙津** 長箭を距る北方二里の沿岸に在り砂濱にして地曳網漁業に適するも繫船

に便ならず鱈、蛸等を産す

**欽谷** 郡の北方咸鏡南道安邊郡界に在り元山港との間十一里半を隔つ會て欽谷郡衙所在地なりしか先年本郡に併合せられ郡廳は通川邑に移る人煙稍々密にして物資の集散場たり巡査駐在所、郵便所在り

**叢石亭** 通川邑の海口、庫底港の東端に在り嶺東八景の一なり港より突出せる半島の東方日本海に臨みて玄武岩より成れる六方の石柱櫛比し碧海影を映する處鴨鷗浮游し海燕去來するの狀眞に絶景なり四石柱の海中に離れて立つを四仙峯と稱す傳へ曰ふ昔時永郎、述郎、南郎、安祥の四仙此地に遊へり

#### 第十二節 淮陽郡

**沿革** 高句麗の各連城郡(名加牙)にして新羅景德王の時改めて連城郡と號す高麗初朝伊勿城と稱し成宗王十四年交州と改め團練使を置き顯宗王九年防禦使に更へ忠烈王に至り淮州と稱し牧使を置く忠宣王諸牧を汰するに際り今の名に改めて府と爲す李朝太宗王十三年都護府に列し世祖の朝鎮を奠め光海二年助防將を設く同十年鐵嶺に築城して防禦使を兼ねしめしか仁祖二年に至り



之を罷む肅宗の朝盜賊の横行甚しきを以て府を郡内鐵嶺の要衝に新設し討捕使を兼ねしめ歙谷、通川、高城、杆城、金城の五邑を來屬せしめしか尋て復舊し太皇帝建陽元年淮陽郡と爲し郡守を置き今に及ぶ

**郡勢**

本郡は本道東北部に位置し東は通川、高城二郡に、東南は麟蹄、楊口兩郡に、南は金城郡に、西は平康郡に接し北は安邊郡を以て咸鏡北道に境す廣袤凡そ東西十二里南北二十里あり太白山系は咸鏡道より來り道界に連り鐵嶺山脈を爲し郡の東部を南走して有名なる金剛山の突峰、觀音峯、蓋天峯、世尊峯、集仙峯等の諸峯と成り以て東西の分水嶺を爲す嶺西一帯は平坦にして地味膏腴ならされども畑地頗る多く反別は本道中第二位を占む京元街道は本郡の中部を縦貫し往來比較的繁きも道路高低一ならず交通頗る不便なり住民は主として農業に従ひ偶々商業を營むものあり民度甚た低く生計亦困難なるか如し産物は麥を主とし年産額凡そ一萬六千餘石に達し大豆之に亞きて九千六十餘石に及び本道有數の麥豆産地たり又麻布の産地として著はれ其の他蜂蜜を出す戸數六千八百餘、人口三萬千四百餘あり

**淮陽邑**

郡の西北部に位し京元街道に沿ひ南金城に、北元山に通し東は高城、通川に達する道路あれども往來難澁なり邑民は専ら農を業とし生活狀態劣等にして生計困難なり産物は郡に同じ内地人五戸三十四人居住し朝鮮人百五十戸七百五十人あり郡廳、憲兵分隊、郵便局、公立普通學校在り

**金剛山**

半島の名山にして群峯一万二千の多きに及び諸峯悉く奇觀景勝に富み變幻詭曲造化の妙山中に蒐めて遺さず眞に海内無比の靈地たり山は一に皆骨の名あり怪岩奇石峭々屹々たるを以てなり又楓樹多きを以て別に楓嶽の稱あり秋高く樹梢紅を呈するに至らんか奇巖峭壁の間紅綠參差して宛然一大畫幅の如く美觀言ふへからず山中梵刹數十あり其最も高き所に位置するを正陽寺とす登臨すれば一萬の群峯眸底にあり雄大の景形容に辭なく壯觀筆すへからず本山を採勝せんには元山港より海路五十一湮を隔つる通川郡内長箭港に上陸し港を距る約二里の温井里と稱する温泉所在地より登るを便とす

**長安寺**

金剛山四大寺の一たり寺は新羅法興王の創建に係り高麗朝に至り重興せられたるものにして輪奐壯麗を極む大雄殿の如き結構壯大にして他寺の遠



く及はさる所なり其他殿堂樓宇亦之に副ふ背後は鬱蒼たる峻嶺を負ひ前面百川洞の溪流を隔てて明鏡臺、七星臺、等千伊の奇峰峻嶺の削立せるを見る傳へ曰ふ新羅末世敬順王高麗太祖の壓迫に堪わすして國土を擧げて之に降らんとするに方り王子之を諫むれども用ゐられず遂に降を高麗に請ふに及ひ王子哭泣して父王に辭し來て金剛山に隠れ麻衣草食を以て身を終る明鏡臺は即ち王子隱遁の所なりと

第十三節 伊川郡

沿革 高句麗の伊珍買縣にして新羅今の名に改め兎山郡の領縣たり高麗顯宗王九年東州に屬し後ち監務を置き李朝太宗王十三年縣監と爲し京畿より本道に來隸す近世郡とし郡守を任置す

郡勢 本郡は本道の西北隅に位置し東は平康郡に南は安峽郡に隣し西及北は黃海道竝に咸鏡南道に境す南北約十二里餘東西約七里の廣袤を有す郡内山岳起伏するも其間平地多く耕地面積二万六千町歩を超へ廣き道中に冠絶し大豆年産額一萬六千石に上り其收穫道内第一位を占む道路は伊川邑を基點として四

方各郡に通するも概して峻路にして交通便ならざるも臨津江の上流ありて舟楫の便を有す住民は農を以て生業とし傍ら養蠶を行ふもの少からす郡内戸數六千七百餘、人口三萬一千餘あり物産は大豆、粟、麥、米、麻及び明紬なり

伊川邑 郡の西南部に位し平康、安峽、新溪、谷山各邑に通する道路を有するも未だ挽車を通するものなし邑民の大部分は農を業とし生活の程度低く基督教を信する者多し戸數三百五十、人口千二百五十餘あり産物は米穀及び明紬なり郡廳郵便局、守備隊、憲兵分遣所、地方金融組合、普通學校在り

古城山 邑北一里に在り滿山悉く躑躅にして花季に至れば頗る美觀を呈し曳杖者絶へず

小林寺址 邑の東方二里達摩山に在り往昔達摩大師の高弟來りて此山に入り本寺を創建したりと傳ふ今は僅に石碑一基を遺すのみ

第十四節 華川郡

沿革 高句麗の獨川縣一名也尸買縣にして新羅朝狼川と改め郡とす高麗の初め春州(春川)に屬し睿宗王元年監務を置き楊口を兼任せしめしか李朝太祖の時二



縣を獨立し太宗王十三年縣監に改め仁祖王金化郡に附屬せしめたるも尋て之を復し明治三十五年華川を改稱し郡とし以て現今に至る

**郡勢** 本郡は本道の北部西邊に位し東は楊口郡に北は金城郡に西及び南は金化春川兩郡に隣す五申山脈北方金化郡より來りて郡の東部に連亘し其他山陵到處に起伏し平地少く耕地は中央南江の流域及び山間に存在し總反別二千九百二十町歩の中水田は僅に六百町歩に達せず陸路の交通は概して不便なるも南江には舟楫の便ありて水路春川邑を経て龍山に通すへし民情質朴にして専ら農業に従事す戸數四千六百、人口二萬三千百餘あり産物は麥、大豆、米、煙草、木綿、麻布、莞蓆、木炭、土器、鐵器、蜜蜂等なり

**華川邑** 郡内面に在り北金城、東楊口、西金化の各邑に通する道路は概して交通不便なるも南方春川との間は道路を改修し且つ船便あり邑民は専ら農業に従ひ生計の程度は中等なり邑内朝鮮人三百七十戸千五百七十餘人、内地人二十人あり産物は米穀、蔬菜にして郡廳、郵便所、憲兵分遣所、私立學校あり

第十五節 旌善郡

**沿革** 高句麗の仍買縣にして新羅景德王旌善と改め溟州(江陵)の領縣と爲す高麗朝顯宗王の時陞して郡と爲し李朝之に因り以て今日に及ぶ

**郡勢** 本郡は本道の東南部に位置し東は三陟郡に、南は寧越郡に、西及び西北は平昌郡に、北東は江陵郡に接す東方に大支山脈連亘し西方に星摩嶺峙ち北部亦山嶽重疊し南部に於て平地を存するのみ耕地反別八千四百八十町歩あるも水田は僅に百六十町歩を出てす概して瘠土にして收穫量少し他郡との交通は一般に不便なり住民は性淳朴なるも頑固にして未だ進善の風なし専ら農を業とし生活程度は劣等なり戸數六千四百餘、人口三萬四千九百餘あり産物は大豆を主とし麥之に次ぎ其他米、麻布、麻鞋、牛、蜂蜜、煙草、砂金あり

**旌善邑** 郡内面中洞に在り西に七峯山逶迤し北に飛鳳山屹立し南方朝陽山に對し東方一水を隔てて平地に展開し形勝の地を占む北江陵、東三陟、西平昌の各邑に達する通路あるも幅員狭く阪路多く且つ頗る迂廻し交通便ならず邑民は農を業とし傍ら養蠶を爲すものあり惡衣粗食して漸く生計を維持す朝鮮人百七十戸一千餘人、内地人數人居住し穀類、麻布及び若干の繭を産す郡廳、憲兵分遣所



共同蠶業所在り

第十六節 襄陽郡

沿革 本郡高句麗の翼峴縣一名伊文縣の地にして新羅朝郡と爲して守城と稱し高麗高宗王の時襄州と呼ぶ李朝太宗王十三年都護府とし十六年今の名に改む近世郡に復し以て今日に至る

郡勢 本郡は本道の中部東邊に位置し北は杆城郡に、西は麟蹄郡に、南は江陵郡に接し東方一帯日本海に面し屬島に卯島、烏島の二あり西方一帯分水嶺に劃られ其支流郡内に縦横連亘すれども割合に峻險ならず海岸地方には緩傾斜を爲せる丘陵地多し耕地總反別は二千町歩を超へ其中水田千五百町歩を占む海岸線は延長二十餘裡に亘るも概ね砂濱にして且屈折尠く港灣の稍々可なるものは東津及瓮津にして前者は汽船の寄港地たり河流通條あるも皆細流にして其中大なるものを南江とす郡の中央を流れ郡邑の南方を通して海に入り舟楫の便なし山野は雜木茂生し中には延長一里の間老松の叢生するを見る陸路交通は海岸道路に倚りて南方江陵郡に達するものを主とし其間車を通すへきも其他

は路上嶮惡にして交通に便ならず住民の生業は農業を第一とし漁業商業製鹽業順次に之に次ぐ郡内戸數五千五百餘、人口二萬七千四百餘あり物産は雜穀、牛麻布、鱧、鱒、鯛其他魚類、鹽及び海草なり

襄陽邑 位山面に屬す江陵邑の北十二里を隔て其間交通不便ならず北四里にして東津に至り此處より海路を通す市場ありて毎月四、九の日を以て開市し生牛、魚類、綿布、金巾、棉花、石油等を集散す内地人二十餘人居住す物産は畧々郡の陸産物に同じ郡廳憲兵分隊郵便所、地方金融組合、巡査駐在所、公立普通學校等在り

東津 所川面に屬す邑の東北四里杆城郡砂津を距る南方十町に在りて灣形を成し風浪を保障し水深約三尋あれども灣内廣からず郡内唯一の寄港地にして薪材及び飲料水共に豊なり産物は鱧、鱒、鱒なり戸數八十、人口三百六十餘あり

洛山寺 山を負ひ海に臨み風光絶佳の地にして嶺東八景の一たり三韓時代の剏建に係り規模宏大なり今は門鐘を殘すに止まる

第十七節 杆城郡

沿革 高句麗の道城又は加羅忽郡にして新羅守城郡とし高麗朝今の名に改め縣



令を置きしか尋て陞して郡と爲し高城郡を兼任す恭讓王元年割て復舊し李朝之に因る近世郡守を任置し今に至る

郡勢 本郡は本道東北部の海岸に位置し襄陽郡に、西は麟蹄郡に、北は高城郡に接し東部一帯は日本海に瀕す東西凡そ十里餘南北二十餘里あり太白聯脈遠く咸鏡道より入り南走して郡内を縦貫し餘波四方に蔓延して數多の丘陵を成し河川其間を縫流して日本海に注く耕地は山間溪谷に點在すと雖も灌溉比較的便にして總反別二千四百六十七町歩の内水田は千九百六十餘町歩に達す然れども土地瘠薄にして農産豐ならず又山は禿山嶺峰多く林産物として見るべきものなし住民は性概ね順朴にして主として農を生業とすれども瀕海地方に在りては漁撈に従ふもの少からず金融常に逼迫し生計頗る困難なるか如し産物は米大豆其の他の雜穀にして水産には鱒、鱒、鯛、鱈、沙魚、蜆、蛤、明太魚等あり就中鱒の好漁場たり戸數三千六百餘、人口一萬八千三百餘あり

杆城邑 郡内面に在り海岸を距る二里、高城、襄陽二邑の中間に位し兩邑に連接する道路は郡中主要の街路たり又西麟蹄に達する道路あれども共に狹隘にして

凸凹甚しく交通便ならず邑民は農及び商を業とし生計困難なり朝鮮人七十餘戸四百二十餘人あり郡廳、郵便所、憲兵分遣所、守備隊及び私立學校在り

麻次津 澗口東に面し幅約百間の一津にして澗澳一帯砂濱を爲し澗の兩岬角に樹林繁茂し白砂青松碧海と相映し風光掬すべく毎年春季の候來漁者少からず黄金津 一に大津とも云ふ澗口東に面し背面丘陵を負ひ西北風を避くるに宜しく鯖、鱈の盛漁場として春秋二季來漁する者多し

巨津 丘陵より成れる岬角其東方に斗出して風浪を防ぐに適し時々汽船の寄港するものあり

烏地津 巨津を距る南方凡そ八里の地に在り東面せる一小津にして澗口廣からされども水深く帆船を入るに足り背面繞すに丘陵を以てし漁船の避泊するに適す毎年春季漁船の來往するもの多く巨津と並ひて漁業根據地たり又汽船の寄港あり

乾鳳寺 杆城邑の西方二里に在り新羅法興王の時發徴法師の開山に係り當時丹覺寺と稱せり堂宇十餘ありて多數の僧侶居住す慶尙南道の通度寺及び海印寺



と共に半島の三大寺と稱せられ大伽藍あり高麗世祖東幸の際堂宇を建て名を西鳳寺と改め以後皇室の定願所たり後ち乾鳳寺と改稱す

濟澗亭 邑を距る南四里に在り嶺東八景の一たり數百年前の建築にして頗る優雅なりしも數十年前火災の爲め烏有に歸し今は礎石の散在するのみなるも風景仍ほ昔日に異らず

#### 第十八節 蔚珍郡

沿革 本と高句麗の下珍也縣なり新羅文武王に至り此地を併せて蔚珍と名け郡とし高麗の朝降して縣と爲し令を置き李朝之に因りしか近世に至り郡守を任置して今日に及ぶ

郡勢 本郡は本道の東南海邊に位置し北は三陟郡に南は平海郡に接し西は慶尙北道に境し東方一帯海に瀕す西部一帯には小白山脈蜿蜒し北部は同山脈の支脈東走し海に迫り竹邊岬角を成す地勢概して西北に高峻にして東方沿岸に向て急斜し廣野を有せざるも耕地は中部及び山間に點在して總反別二千二百五十町歩に及び水田畑地相半し米産年額は三萬石を超へ其量道中各郡に冠たり

其他米二千八百石大豆一千五百石を主なる農産物とす道路交通は一般に不便なるも海路元山釜山蔚山等へ定期汽船の便あり住民の多くは農業或は漁業に従事し又少數の商業者及び製鹽業者あり郡内戸數四千九百餘人口二萬六千八百餘あり産物は米、麥、大豆其他雜穀、魚類及び食鹽なり

蔚珍邑 下郡面に在り北方竹邊に二里南方平海邑に八里を隔て其間郡中主要の道路を通ずるも阪路ありて交通は重に水路に倚る市況稍々殷盛なり邑民は農商又は漁業に従事し朝鮮人七百人にして内地人は百人に近し米穀、鹽及魚類を産す郡廳區裁判所憲兵分隊郵便所學校組合巡查駐在所小學校公立普通學校在り

竹邊 近北面の海岸に位し邑を距る北方二里なり沿岸航行汽船の寄港地にして灣内浪高きも百噸内外の汽船を容るるに足り北隅に小なる入江を有し漁船の碇繋に資す灣内遠淺なれば地曳網の好魚場たり内地人漁夫の根據地にして朝鮮海水産組合出張所あり住民の大半は漁業を營み鱧、鱒、鯛、蛸蟹等を産す

大興寺 邑の西方二里に在り今より八百五十餘年前の創建に係る其他邑の西南



五里に佛影寺の一刹在り

第十九節 金城郡

**沿革** 高句麗時代の毋城縣一名也次忽の地にして新羅朝益城郡と改め高麗の初め金城郡と改稱し顯宗王の時縣に降し交州(淮陽)に屬せしめしか睿宗王に至りて縣を復置し高宗王名を道寧と改め李朝に及び金城の名に復し縣とせしか近世に至り郡と爲す

**郡勢** 本道の北部に位置し東北一帯は淮陽郡に、西は平康郡に、西南は金化郡に、南及び東南は華川楊口兩郡に隣す郡の四周は殆んど山脈を以て蔽はれ支脉郡内に及へるも中部に所謂板橋の平野ありて此平野は昌道より新安に亘り京元街道に沿へる草生地にして南北四里東西廣き所二十五六町に達し面積二千町歩に及び地形は概して中央部に高く南又は北するに従ひ次第に低く西津江此平野を横断せり地質は古生層にして土壤は砂質壤土又は埴土なり郡内の全耕地反別は六千八百町歩を超へ道中有數の農産地たり殊に麥類の産出多し華川、金化の郡界に跨れる水串山、水洞山、日山、赤根山の諸山に亘り面積一千三千町歩餘

の森林あり京元街道郡内を斜通し辛ふして車を通するも其他の道路は幅員狭く阪路多くして交通便利ならず住民は専ら農業に従事し生計状態は裕ならず郡内戸數五千一百餘、人口二萬三千七百餘あり物産は麥、大豆、米、粟、稗、胡麻、煙草、蜂蜜、麻布、牛皮及び砂金等なり

**金城邑** 郡内面に屬す京城の東北二十六里、元山へ三十四里を隔て其間車馬を通するも其他の交通は不便なり氣温は最高華氏九十六度、最低二十二度なり邑民は性順朴にして農業又は商業に従事す朝鮮人千餘内地人六十人あり産物は煙草、麻布、蜂蜜、牛皮を主とす郡廳、警察署、郵便所、普通學校等在り

第二十節 平康郡

**沿革** 高句麗の斧壤縣にして新羅廣平と改め富平郡の領縣と爲す高麗顯宗王九年今の名に改め東州(鐵原)に屬す明宗王二年監務を置き後ち金化監務所を兼ねしか恭讓王元年兼務を解き太宗王十三年監務と爲し後世に至り郡と爲す

**郡勢** 本郡は本道の西北部に位し東は金城郡に、東南は金化郡に、南は鐵原郡に、西南は安峽郡に接し西及北は伊川郡及び咸鏡南道安邊郡に境す白頭山の脈勢郡



の北部に及びて白福嶺青龍山等の高峯を爲し東部は五甲山の餘脈連亘し西部は未應山の支脈走るも中部以南は所謂平康の平野を爲し遠く鐵原の平野に連れり地勢一般に高燥にして臨津江の上流平野を貫流するあるも灌漑の利に乏しく耕地總面積一萬一千二百五十餘町歩の内畑地は一萬四百町歩を超へ其反別道中第三位を占め米七千五百石麥一千石大豆三千石を主なる農産物とす道路は一般に不完全にして交通便利ならざるも口下著手中に屬する金化伊川間の國道竣成し更に京元鐵道開通の曉は本郡の發展上一新紀元を開くに至らん住民は農を業とし傍ら養蠶を爲すもの尠からず割合に地主多く生計の狀態は隣郡に比し稍々裕なるか如し郡内戸數三千三百餘人口一萬五千二百餘あり産物は米穀絹布生牛等なり

**平康邑** 郡の南部に位し京城元山間の略々中央に在りて京元線停車場豫定地たり南鐵原に通ずる道路は割合に平夷にして交通不便ならず東南金化に西北伊川に通ずる道路は高低廣狹一ならざるも近く國道として改修せらるべく將來有望の一邑たるも今は京元街道の金化邑より西北六里の奥に位置せる僻邑と

して朝鮮人數十戸内地人十餘戸に過ぎず産物は穀類及び絹布なり郡廳警察署郵便所普通學校等在り

**戲靈山** 榆津面白福嶺に在り邑北十三里なり山高くして登臨すれば四方十里一眸中にあり眺望頗る可なり山嶺雨を禱るへき天壇の設あり

第二十一節 鐵原郡

**沿革** 高句麗の鐵原郡にして新羅景德王の時鐵城郡と改む後弓裔兵を起して之を略取し高句麗の舊地松嶽郡(開城)より來て此地に都し宮室を修め奢侈を極め國を泰封と號す高麗太祖即位し都を松嶽に徙すに及び此地を鐵原と改め東州と爲し成宗王十四年團練使を置きしか穆宗王八年之を罷む顯宗王九年知州事に改め高宗王四十一年縣令に降せしか久しからずして牧と爲す忠宣王二年東州を改めて鐵原とし府と爲す李朝太宗王十三年都護府に更め世宗王十六年京畿より本道に移隸し後世郡とし郡守を置く

**郡勢** 本道の西北部に位し東は金化郡に北は平康郡に隣し西及び南は安峽郡並に京畿道の朔寧漣川永平の四郡に境す京畿道との界を劃れる金鶴山脈の餘脈



郡内に波及して山陵の起伏するものあるも鐵原邑以北一帯は一大平野を爲し遠く平康郡に連接せり耕地總面積七千町歩を越ゆるも一部を除くの外水利を缺けるか爲め畑地多く水田反別は畑の六分の一に過ぎず麥一萬二千八百石大豆一萬石米五千三百石を産し大豆の産額は道中第二位を占む風土は蠶業に好適し古來養蠶業は道中に冠たり隣郡に通する道路は概して一二の阪路あるの外は路幅廣く且つ平夷にして京城方面には車馬を通す近く京元鐵道開通の曉には運搬交通上面目を一新すへし住民は農を以て生業とし傍ら養蠶機織に従ふもの多く又商業を營むものあり目下鐵道敷設工事の爲め行人客入夫の來往頻繁にして一般に活氣を呈し金融漸く圓滑ならんこと郡内戸數六千一百餘人口二萬七千二百餘あり産物は米穀繭絹布陶器生牛牛皮蜂蜜鐵等なり

**鎮原邑** 金鶴山脈の北麓に位し北方展開して所謂鐵原の平野を成す京城を距る東北十八里京元線中の中央驛たるへき地位に在り且つ附近郡邑に通する要衝を占め頗る殷盛の地なり氣温は最高華氏九十六度最低二十四度にして目下内地人四百朝鮮人三千人居住す邑民は農商相半し現に鐵道工事中に屬するを以

て附近に多數の工事關係者入込み商況盛んなり産物は米穀綿布を主とす郡廳憲兵分隊區裁判所郵便所學校組合地方金融組合養蠶傳習所小學校公立普通學校等在り

## 第二十二節 高城郡

**沿革** 高句麗朝達忽と稱し新羅眞興王二十九年達忽州と爲し軍主を置き景德王今の名に改め郡と爲す高麗朝縣令に改め李朝之に因り世宗の朝再ひ郡に復す郡勢 本道北部の東海岸に偏在し北は通川郡に西方は金剛山系に依て淮陽郡に劃り南は杆城郡に隣し東方一帯日本海に望む地勢西北部は金剛山脈巍然として聳へ一般に峻嶺蟠屈するも南部に於て緩傾斜を爲し殊に郡の中央部を流る赤壁江流域は灌溉至便にして沃野連亘し本道第一の米産地たり東通川西杆城に通する道路及び西方楡岾寺を経て淮陽に至る岐路を主なるものとし交通の便良好ならず殊に淮陽郡に至る道路は峻險甚しく往來頗る不便なり住民は主として農を業とし海岸地方に在りては偶々漁鹽業に従ふものあり生計概して順境にして赤貧者を認めず産物は米を主とし年産額一萬三千五百五十餘石



に達し大豆は二萬三千五百石を超へ道中第二位を占む其他麻布生牛魚類食鹽石炭砂金水晶等を出す郡内住民の戸數二千六百餘人口一萬六千餘あり

**高城邑** 郡の略々中部海濱に近き處赤壁江の右岸に在り河口燈燧津を距る一里長箭より四里を距つ附近一帶繞らすに平地を以てし灌溉の利に適し農産豐穰たり邑の南北に通する海岸の道路は比較的平坦なれども其他は概ね急阪ありて交通不便なり邑民は農を業とし海濱の部落民は漁業製鹽に従ひ生計は裕ならず産物は米麥大豆魚類にして殊に鯉鱸の漁獲多し郡廳憲兵分隊郵便所在り

**三日浦** 邑の北方半里餘に在り嶺東八景の一にして奇巖峭壁重疊して三十六峰となり奇古の綠松叢生して岩上を彩る巖中一仙寰あり水を湛へて湖水を爲し湖心に一小島ありて蒼碧鏡の如き清水に映し恰も一幅の名畫を見るか如し傳へ曰ふ新羅の時四仙人此處に遊び三日間歸るを忘れたるか爲に此名ありと

**夢泉庵** 三日浦の北岸に在り晴夜欄に靠りて碧海を望めは清涼の氣心腸を洗ひ月光滄波を照して頻りに銀圓を畫くの光景人をして仙境に在るの感あらしむ嶺東八景の一たり

**靈湖津** 北方通川郡界に在り長箭灣の南東角月移臺の北端に位して漁船の寄泊するに足る蛸は附近沿岸の名産にして形體甚た大なるを以て名あり

**楡岾寺** 金剛山四大寺の一にして山中の一峰たる歡喜嶺の西麓幽谷の間に在りて地勢稍展潤なり前は溪流に臨み樓臺あり山映樓と云ふ四面峻嶺高峰を以て圍まれ南方溪流に依り口を開かるるも尙ほ山嶽重疊して一仙寰を爲し僧堂伽藍軒を竝へ喬樹空を凌ぎ綠翠滴り幽趣夏尙ほ寒し

第二十三節 平海郡

**沿革** 高句麗の斤乙於にして高麗の初め今の名に改め郡と爲す顯宗王の時禮州(寧海)に屬し明宗王二年監務を置き忠烈王の時陞して郡と爲し李朝之に因り以て現今に至る

**郡勢** 本郡は本道の東南隅に位し北は蔚珍郡に接し西は慶尙北道彦陽郡に南は同道寧海郡に境し東は日本海に臨む懸鍾山郡の北方に聳へ金藏白岩の諸峰西方郡境に峙ち七寶山南境に屹立し餘脈郡内に起伏し地勢概して西北に高く東方海に向て傾斜し數條の河川皆東流して海に注ぎ灌溉に利す平地少くして耕



地總面積千五百五十町歩に過ぎず地味亦概ね瘠悪なり南寧海郡に、北蔚珍郡に通する道路は幅員稍々廣く峻阪なきも西方彦陽郡との交通は甚た困難なり住民は農を業とし沿岸地方は漁業に従事す生活状態低劣にして貧窮者少からず郡内朝鮮人戸數三千五百九十人口一萬七千六百餘内地人は數人に過ぎず穀類の産額は辛ふして郡内の需用を充たすに止まり其他麻布、紙、陶器、竹材、繭、鯛、鱒、鱈等の魚類及び食鹽を産す郡内鐵鑛に富み七寶山の鑛脈最も名あり

**平海邑** 郡の東南部南下里面に在り背後に三聖峯を負ひ前面平野を控ふ北方蔚珍邑に八里、南方寧海邑に四里を隔つ邑民は一般に淳朴質素にして生業は農を主とし漁業之に次ぎ少數の商業を營むものあり金融機關なく生計裕ならず邑狀凋殘の觀あり郡廳、憲兵分遣所、私立學校在り

**月松亭** 邑東約一里に在り嶺東八景の一にして海濱白砂の上青松茂生するの狀三保松原に似たり其南方平海川の河口より數町の間白砂青松相映し其間小溝あり鴻雁の遊ふに任す夫れより稚松を以て蔽はるる平野を爲し野中一小孤峯の立てるあり八美峯と云ふ奇巖突兀たり登臨すれば月松亭附近一帶の景一眸

の内にあり眺望極めて佳なり

**白岩山城** 郡の西方遠西面白岩山の南麓に在り石城の周圍二千五百六十尺高三尺あり新羅時代老姑の築造に係る故に別名を老姑山城と云ふ

第二十四節 金化郡

**沿革** 高句麗時代の夫如郡にして新羅富平郡と改め高麗顯宗王九年今の名と爲し東州(鐵原)に屬す仁宗王二十一年監務を置き李朝太宗王に至り縣監と爲す近世郡に改め今日に及ぶ

**郡勢** 本郡は本道の北部西方に位置し東は金城郡に、西は鐵原郡に、南は華川郡に、北は平康郡に隣す北方に五中山、南方に大聖山ありて主山を爲し支脈郡内に重疊起伏し平地少く南大川及び其の支流の貫流するあるも灌溉の利多からずして水田面積は畑の五分一に過ぎず地味は概して肥厚なり京元街道郡内を貫通し京城との間馬車を通し又金城鐵原方面への交通は便利なるも元山及び春川地方の道路は峻惡なり氣温は極寒の時零下十七八度に及ぶことあるも暑中は京城に比し遙に緩和なり住民は性魯朴固陋にして舊習を尙ひ孝弟の道を解し



又隣佑相助くるの俗あるも貞操の徳を缺き文字を知るものは極めて稀なり生業は農を主とし又商業を營むものあるも自耕して食ひ自織して着るの狀態にして經濟的觀念なく利用の途を知らず粟芋等を常食と爲すもの多し郡内戸數四千五十餘、人口一萬八千三百餘にして産物は米、麥、大小豆、粟、稗、棉花、煙草、麻、紬布及び若干の鐵器、陶磁器なり

**金化邑** 郡内而の西南に位し京元街道に接し京城へ二十六里二十二町を隔て其間馬車挽車を通す金城邑との間六里餘、鐵原邑との間七里は共に車を通すへきも春川平康等に達する通路は交通困難なり邑民は農業又は商業に従事し生計一般に裕ならず内地人の居住する者百餘人あり郡廳、守備隊、憲兵分隊、衛戍病院、分院、郵便局、學校組合、地方金融組合、小學校、公立普通學校等あり

**忠烈祠** 邑南二丁に在り往昔蒙古の兵侵入せし時洪某なるもの手兵を提げて之と戦ひ遂に國難に殉せしかは後世其忠烈を彰さんか爲此祠を設く

**龍海瀧** 郡内芝浦の東半里に在り高さ四十丈巾六尺あり本道第一の瀑布と稱せらる

第二十五節 安峽郡

**沿革** 高句麗の阿珍押縣にして一名窮岳の地たり新羅今の名に改め兎山郡の領縣とす高麗顯宗王九年東州(鐵原)に屬し睿宗王九年監務を置き李朝太宗王十四年一度朔寧郡を併せて安朔郡と號せしか二年にして割て復舊し世宗王十六年京畿道より本道に來隸す後世郡とし今日に及ぶ

**郡勢** 本郡は本道の西部北方に偏在し東及北は鐵原平康伊川の三郡に隣し西方は兎山郡を以て黃海道と境し南部は京畿道朔寧郡に接す東方未應山の餘脈は郡の南邊を掠め西部黃海道との境を劃し半島中部を縱斷する分水山脈に合綴するを以て郡内到處山岳起伏し頗る平地に乏し東北より來る臨津江は郡の西南部を南流すれども山間溪谷を流下するを以て水利灌溉の便を缺き耕地の多くは畑地なるも地味比較的瘠薄ならず地勢前述の如くなるを以て道路險惡交通便ならず産物は米、麥、大豆にして其産額各々二千七百石内外なり又明紬を出す住民は性頑迷にして文智進まず苟且儉安其日の糊口を凌ぐを以て足れりとし生計裕ならされども困難を訴ふるものは稀なり農を以て生業とし傍ら機



織に従ふものあり戸數二千四百餘、人口一萬二千六百餘あり

**安峽邑** 郡内面に在り附近稍々平坦にして道路は東方鐵原に至るもの及び北六里伊川に西方二里黃海道黃兎山に通するものを主とし其他郡内各邑に達する通路あれども何れも凸凹陝隘にして運輸交通頗る便ならず邑民の生活状態は概して低度にして主として農業に従事し偶々小規模なる雜貨商或は飲食店を營むものあり産物は略々郡に同じ邑内内地人の居住するもの僅に數戸を出す郡廳郵便所在り

### 第四十六章 平安南道

**沿革** 本道は往古平安北道の地と共に箕子朝鮮の所領たり(異説あり)後ち衛滿朝鮮の領地となる漢武帝朝鮮を併有し四郡を置くや本道は即ち樂浪郡の地たり後ち高句麗之を領し寶藏王の代に至り新羅文武王は唐將李勣と共に攻めて高句麗を滅ほし新羅終に此地を有す新羅孝恭王九年、弓裔鐵原に據りて後高麗王と稱し本道の地を領占したるも高麗太祖以後漸く領地を收め第六世成宗王に

至り半島を統一し十道を分置するや今の平安北道の地と共に溟西道と爲し尋て北界と改め肅宗王西北面と改稱せしか元宗王の代に至り元の爲めに没入せられ忠烈王の時復た來屬し辛禍の時西海道(黃海道)に隸せしか李朝太宗の朝に至り分割して平安道と號す太皇帝三十二年國土を分ちて二十三府を置くや本道の地は平壤府の所管に歸し觀察道廳を設け觀察使を置きて之を統轄せしめしか翌年府を廢し十三道を置くに當り平安南道と改稱し明治四十三年日韓併合の際觀察道廳を改めて平安南道廳と爲し道長官を任置し以て今日に及び現に二府十七郡三百一面を管す

**位置廣袤** 本道は朝鮮の北部西方に任置し東は咸鏡南道に、南は黃海道に接し西は黃海に面し北は清川江を以て平安北道に境す東西約四十九里南北約三十四里面積一千百六十四方里を有す

**地勢** 東部は白頭山より支出する山脈重疊し平地少きも大同清川兩江流域並に西部地方殊に京義鐵道以西の地は平野廣漠たり海岸線は六十餘哩に及び屈曲少からず氣候は首府平壤に於て冬季は函館よりも寒氣稍々烈しく札幌よりも



暖に夏季は宇都宮邊に似たり概して本道は寒氣殊に酷しく各地共氷點以下六度内外に下るを以て大小の河川皆氷結し暑氣は内地東北地方と大差なきも日中炎暑甚しく夕刻より著しく冷氣を催すを常とす

交通 從來物貨の輸出入は大同江の水運に依り僅に鎮南浦にて海陸の連絡を保ち陸上の交通は京義街道あるも不完全なるかため専ら水運に倚りしか京義鐵道開通し又近く平南鐵道竣成したるを以て旅客貨物の大部は此等鐵道を利用するに至り尙ほ平南街道の改修のために其便を増すに至れり若し現に著手中なる鎮南浦の築港工事竣成せんか交通運輸の基礎の大體は完成するに至るべしと雖も現に道路の修築を了したるは平南街道の外新安州寧邊間鎮南浦廣梁灣間江東成川二郡の一小部分に過ぎず殊に中部以東の諸郡は道路概して頗る不完全にして交通便ならず

住民 道民は概ね淳朴なりと雖も平壤、肅川、安州地方の人民は稍々慄悍の性を帶へり習俗は他道民と特に異なる點を發見せず古來耶穌教を信するもの多く佛教は微々として振はす教育思想は漸次發達の傾向を示せり管内朝鮮人十八

萬五千餘戸八十八萬二千百餘人内地人五千戸一萬二千餘人外國人八百三十餘人あり

産業 産業中最も重要な地位を占むるものは農業にして道民の大多數は農耕に従事すと雖も多くは天爲に放任し自然の豊凶に委するを以て面積に比し收穫頗る少く耕地反別は畑二十萬二千町歩、田二萬七千七百餘歩にして米産年額二十三萬五千石、麥九萬八千石、大小豆二十二萬二千石、粟八十八萬石を主なる農作物とす農家の副業は養蠶を重なるものとし桑田五千町歩、從業戸數七千五百五十戸を算す又粟の栽培は各郡共盛に行はれ現に年産額二萬圓を超ゆ

畜牛は體軀肥大にして本道重要の一輸出品たり

商業は平壤、鎮南浦等内地人の多く集合せる地を除くの外は常設店舗を有するもの少く各市場を以て商業の中心と爲すこと他道に於けると同じ朝鮮人工業には機織、陶磁器製造業あるも幼稚にして言ふに足らず組織的工業は平壤外一二の地に於て現に煉瓦製造、醬油釀造、製綿、精米業等を見るのみなれども商業と併せて漸次發展し地方經濟年と共に進歩し朝鮮人にも經濟思想注入せられ資



本利用の念を生し金融機關に對し資本融通を求むるもの年々増加せり

水産業は本道重要の一事業たり道中海に瀕するものは鎮南浦龍岡江西飯山永柔肅川安州の一府六郡にして鯛、鯉、石首魚、太刀魚、鮓等の産多し

鑛業亦有望の事業にして平壤府に於ける無煙石炭を第一とし産額年六萬噸を下らす其他砂金、金、黒鉛、鐵鑛、水銀鑛の如き採掘に従事中のもの少からず雲母鑛脈は道中到處所に發見せらる

産物 米、麥、大豆、粟其他雜穀、栗、漆、煙草、生牛、鯛、鮓、石首魚其他の魚類、砂金、金、石炭、鐵、黒鉛、雲母等なり

### 第一節 平壤府

沿革 本と朝鮮の舊都たり唐堯戊辰の歲神人ありて太伯山檀木の下に降る國人立てて君と爲し都を平壤と號す後ち朝鮮周武王克商箕子を此に封し傳へて四十一代箕準に至り燕人衛滿國難を避けて此地に來り準を逐ひ都を定めて王儉城と稱す衛滿朝鮮之なり其孫右渠に及び漢の武帝將を遣して之を討滅し樂浪郡を置く高句麗長壽王十五年初めて徙て此に都す寶藏王二十七年唐の高宗其

將李勣を遣はし新羅と共に攻めて高句麗を滅ほし安東都護府を置き左威衛大將軍薛仁貴總兵二萬を以て之を鎮撫す後ち唐兵の去るや新羅此地を併す高麗太祖元年鹽、白、黃、海、鳳諸州の民を分て茲に徙住せしめ以て地を實たし大都護府を置き尋て西京と號す光宗王十一年西都と改稱し成宗王十四年西京留守府とし穆宗王元年又鎬京と改名し文宗王十六年再び西京留守に復し肅宗王七年文武班及び五部を置く元宗の朝叛して蒙古に附し蒙古東寧府を置けり忠烈王十六年此地を收復するに及び復た西京留守と爲す恭愍王十八年萬戶府を設け後ち改めて平壤府と爲す李朝太祖半島を統一するや此地に觀察使を置き以て府尹を兼ねしめ世租の朝鎮を置きしか其後鎮を廢し郡に改め日韓併合の際府と爲し府尹を任置し今日に至る

府勢 本道の西南部に位し東は江東郡に、東南は祥原、中和二郡に接し西は永柔、飯山、江西三郡に、北は順川、順安兩郡に隣し廣袤東西十一里南北九里面積約九十六方里あり府の西北部は山岳連亘地勢最も高く東南に向て漸く低下し府の中央部なる大同江普通江附近は最も低く更に東南部祥原郡界稍々高くして西北部



に向て傾斜す山岳中最も高きは大寶山にして之に次くを青龍大城、南北兄弟、紫芝の諸山とす。河川の最大なるは大同江にして支流に荻橋江、普通江、合井江、艾津江等あり。府の中部は平野廣漠として開け、河流其平野を貫流して大同江に注ぐ。氣候は概して寒暑共に烈しく、寒氣は十一月より漸く凜烈を加へ、十二月に入りて益々甚しく、大同江は此際結氷し、人馬氷上を往來す。越えて一月は更に激しく、二月尙ほ寒く、三月に到り稍々暖となるも、寒氣未だ去らず。大同江の結氷も、三月中旬後にあらされは溶解せず。其間舟楫杜絶し、野外作業殆んど休止の状態なり。七、八月は炎威頗る猛烈なるも、朝夕冷涼にして、日中の暑氣を償ふて餘あり。京義鐵道府内を縦貫し、平壤より西方平南鐵道を分岐し、京義街道は京義鐵道に併行して貫通し、其他四方各郡に通ずる道路あり。水路又大同江岸の各要地を経て鎮南浦に及ぶ。故に運輸交通の至便なる本道中第一たり。大同江の本支流は舟運に利するの外、灌漑の便を興ふ。府内耕地總面積は約二萬九千五百町歩にして、其廣さ本道各郡に冠絶し、地味肥沃にして、米穀に適するの外、煙草、楮、甜菜等の栽培に適し、風土家蠶、柞蠶に良好なり。商工業亦道中に冠たり。殊に工業の原動力たる

無煙石炭の産多量なるを以て、將來有望の工業地たり。住民の生業は農を第一とし、商業日稼業工業者の數順次に之に次ぎ、貧富の度懸隔す。古來耶蘇教を信する者頗る多く、性質頑強にして、慍悍の風を帶へり。郡内戸數三萬一千六百三十、人口十四萬八千五百九十ありて、戸口數は道中に最たり。産物は大豆、米、麥、其他雜穀、煙草、棉花、楮皮、麻、粟、柞蠶繭、生牛、陶磁器、煉瓦、石炭、石灰石、陶土、砂金、黑鉛なり。

平壤 別に箕城、樂浪、西京、柳京等の名あり。地大同江に臨み、東南所謂平壤の大沃野を控へ、地形優秀、山河秀麗にして、馬山と相竝んで、風光の明媚なる都會とす。氣候は寒暑共に酷烈にして、冬時往々石油の凍結するを見る。例年十二月より翌年二月に至る間は、西北の寒風強く、河江は堅氷を以て鎖し、氷上人馬の往來自在なるも、舟楫の便全く杜絶す。夏季は春秋二季に比し、稍々長く、晝間殆んど凌ぎ難き感あるも、朝夕は頗る冷涼なり。氣候の變遷は急激にして、雨量少く、空氣の乾燥甚し。此地釜山より鐵道二十時間以内にて達し、更に北新義州に通し、鴨綠江を経て安東縣より滿洲に至るべく、滿鮮連絡の地點として、亦自ら重要な地位を占む。尙ほ西南は平南鐵道及び大同江の水路に依り、鎮南浦に通して、海路内地、大連等に



連接し又京義街道に沿ひ南浦街道の起點たるの外道路は四方各地に通し四通八達の樞軸地として西鮮地方第一の貨物集散場たり内地より鎮南浦に移入する貨物の八割は平壤に移送され又同港より移出する物貨は各地方より一度ひ平壤市場に出廻り内地人貿易商によりて取引せらる昨四十三年中平壤に於ける移出入總額は二百五十九萬圓を超へ外に金地金の移出高七十四萬一千圓あり工業は精米、製綿、煉炭、醬油釀造、煉瓦、磁器製造等にして未だ見るに足るもの尠きも數量の多きと石炭の産出多大なることは將來斯業發展の餘地卓々として存するあるを惟はしむ内地人の始めて入壤交通せしは實に明治二十七八年戰役の前後を以て嚆矢とし平和克復後其數漸く増加せしも三十二年十一月開市場となるに至れるまでは定著して業を營むこと能はず仁川を根據として去來したり開市當時の内地人は戶數四十三、人口百十七を算するに過ぎざりしか其後漸次移住者を増し日露戰争後は俄然として激増し三十九年八月以來は居留民團を設立するに至り現に内地人二千四百七十餘戶六千九百八十餘人に及へり市街は舊市街新市街の二に分れ朝鮮人の殆んど全部は舊市街に住し人家櫛比

し家屋の構造は他の都邑に比し概して大にして豪商亦多く市場ありて人馬絡繹常に雜鬧を極め其間内地人の居住するもの少からず新市街は純然たる内地風にして街衢整然道路廣く商店櫛比し官公署の大部分は此に在り新市街と停車場との間は尙ほ空地多く其間人車鐵道を通して尙ほ舊市街入口に迄達す通信教育、衛生、金融等の具略々備はれり朝鮮人は戶數八千六百六十餘人口三萬三千二百餘外國人は百餘戶六百餘人あり朝鮮人には耶蘇教信者頗る多し平安南道廳府廳、控訴院、地方裁判所、區裁判所、監獄、警察署、郵便局、平壤鑛業所、慈惠醫院、勸業模範場、支場、軍隊司令部、憲兵隊、衛戍病院、稅關出張所、居留民團役所、商業會議所、農工銀行、朝鮮銀行支店、手形組合、地方金融組合、市街鐵道會社、魚菜市場、勞働組合、高等普通學校、農學校、小學校、公立普通學校、新聞社、其他各種製造工場、會社組合等在り

**京義線創設紀念碑** 平壤停車場の背面に在り高さ二丈餘の花崗石より成り柵内に箕子の遺物と稱する井あり

**豊慶宮** 平壤驛附近に在り曾て李皇室の離宮として築造したるものにして結構



宏麗なり

大同門 邑城の東門にして驛を距る約三十町舊市街中に在り大同江畔に屹立し丹碧燦爛たる三層樓門なり

紫光亭 驛を距ること三十町大同江畔德岸の上に在り文祿の役小西行長明將と和を講したる所にして結構宏壯眺望頗る佳なり

牡丹台 市街の西北錦繡山頂に在り屹然として城の内外を睥睨す日清の役敵軍砲を列ねて我軍を苦しめ遂に朔寧元山兩枝隊の爲に陥落せられたる所にして玄武門は其直下に在り

乙密台 牡丹臺と相對する高地にして錦繡山に屬す江山の秀を一眸の下に集め得べく眺望絶佳なり臺上四虛亭あり口清役清國の總指揮官馬玉昆の本陣と爲せる所にして亭の柱楹に無數の彈痕を留む

浮碧樓 牡丹乙密兩臺の間谿谷幽邃の地に至り古代の建築に係り雅趣に富む大同江樓下を洗ひ二分して海鼠形の陵羅島を抱容す前面は展瀾にして遠く峯巒一帶を望み絶好の勝地にして四季曳杖の客を絶たす

箕子陵 乙密臺下の西方丘上に在り碑石を建て「殷太師箕子陵碑」の七字を刻す丹碧の殿堂老松蒼鬱の間に隠見して其景賞識に値す

船橋里 平壤市の前面大同江の東岸に在り日清役平壤包圍攻撃の時に際り大島混成旅團の奮戦したる處たり

寺洞 浮碧樓の對岸に在り平壤驛より寺洞鑛業所に達する鐵道支線を通し傍ら旅客の運搬を取扱ふ平壤驛より約七哩を隔て無煙炭坑所在地たり該鑛區は遠く江東郡に及び廣袤五十方に亘ると云ふ明治四十年八月官營と爲し採炭販賣の業を開始し以て今日に至る炭質灰分少く發熱強度なるを以て殊に艦船用として好評あり郵便所、巡查駐在所在り

萬壽臺 乙密臺の西北に在る丘阜にして日清戰爭の當時清將左寶貴か名譽の戦死を遂けたる古戰場たり

第二節 鎮南浦府

沿革 高麗仁宗王十四年西京(平壤)所隸の地たる金堂、呼山、漆井の三部曲を合して三和と命名し始めて縣令を置きたるもの是れなり即ち本府の前身なり後ち改



めて三和府と稱せしか明治四十三年日韓併合に際し府廳を鎮南浦港に定め鎮南府と改名し今日に至る

**府勢** 本道の西南隅に位置し東北一帯は龍岡郡に接し南は大同江を隔てて黃海道、安嶽、殷栗二郡に對し西方海に瀕す平壤の大原野を包擁せる山脈は蜿蜒として西南に馳走し府内に及びて大平山、牛山となり大小幾多の丘陵波濤の如く重疊して西北部に起伏するも其他の部分は平夷にして地勢概して西南沿岸に向て低下し海岸干潟地多く其最も大なるを廣梁灣とす耕地反別は六千四百餘町歩にして其約八割は畑地に屬し米一萬石、麥八千七百石を主なる農作物とす氣候は海洋的ならず寧ろ大陸的にして冬は、互寒夏は炎熱強く寒暑の差急なるも春秋二期は溫和にして空氣清爽頗る健康に適す冬季積雪は數寸にして尺に達すること極めて稀なり鎮南浦港を集點として平壤には新舊二道を通し新道は幅四間、里程十三里、沿道支線を分岐して各郡邑に通す其他兼二浦街道、廣梁灣街道等共に交通上甚しき不便なし水路は内地清國間定期航行船ありて交通及び運輸に便す商業は鎮南浦港を主とし四十三年に於ける同港の貿易額は四百

五十六萬圓なり工業は精米業の外未だ組織的營業を爲すを見ず水産年額は六十萬圓を超わ三月中旬より鱈、鯉、六月初旬より鯛、鱈等の漁獲ありて従業者は内地人を主とし重に黃海道長山、申沖合に出漁す管内戸數一萬二百の内農家五千六百、商工業千四百八十、雜業者三千戸其餘は漁業戸數にして人口四萬二千六百餘あり産物は米、大豆、麥、粟、蜀黍、蔬菜、果實、魚類及び礦物なり

**鎮南浦港** 府の南端大同江の右岸江口より十四哩に位置し本道の首都平壤と三十四哩を隔て北は義州方面に通し西方黃海を扼し平安黃海二道の農産地を擁して遙に北清地方と相對し商業並に運輸に形勝の地を占め西朝鮮の一重鎮たり灣内水深く現に二萬噸内外の大船を泊すべく三千噸の船は兼二浦まで溯行すべく平安、黃海二道の山嶽相對峙して自然の防風堤を成し現に著手中なる築港工事にして明治四十五年度を以て完成する曉は一年優に五十五萬噸の貨物を吞吐し得へきも冬季二箇月餘の間江水凍結し水路の交通を杜絶するを遺憾とす氣候は冬季札幌に等しく夏季石巻に彷彿たり平壤との間平安南鐵道を通する外大道坦々として廣梁灣に至る三里の間亦新道の開鑿を了へ水路には阪神



航路、大連航路、横濱航路、若松航路、長崎航路、芝罘航路等ありて交通運輸に便す市街は純然たる内地風にして廣袤四十二萬坪を有し街衢整然商店櫛比し家屋は皆十年以來の新築に係り道路溝渠水道堤防等成り教育衛生通信の具備は更に最近に於て加徳島の西方に當り三十五萬坪の埋立地を増し其中央に停車場を設け市の丘背には朝鮮人の大部落在り鮮人の大部分は農業に従事し内地人は商業を主とするも又蔬菜果實の栽培に従ふもの少からず漁業者の多くも亦内地人たり輸出品の重なるものは石炭、米、豆、麥、薪材、牛皮、金、鐵等にして輸入品は食鹽、建築材料、木材、鹹魚、砂糖、諸織物及び糸類を主とす内地人千戸二千五百人、朝鮮人三千六百戸一萬一千人、清國人百餘戸三百二十餘人居住す府廳、税關、地方裁判所支部、區裁判所、警察署、監獄、分監、居留民團役所、各國居留地會、商業會議所、清國領事館、手形組合、地方金融組合、第一銀行、百三十銀行、朝鮮銀行の各出張所、病院、小學校、公立普通學校、公立商業補習學校、電燈會社其他の會社組合等在り

**廣梁灣** 大同江の下流右岸に於て深く且つ廣く灣入せる干潟地にして鎮南浦港との間三里を隔つ東方に山脈を負ひ南方は注々たる大同江の流に面し西は一

地峽を隔てて西海岸に接し北は小丘起伏して自然に境界を區劃す灣は長弧形を成し灣口僅に二百餘間にして干潟地面積約一千八百町歩を有し中央の大澗は一大流を爲し數十條の小澗其左右に分岐し貨物は此澗に倚りて運送せらる此地有名なる廣梁灣鹽田の所在地にして朝鮮總督府の經營に屬し鹽田の廣さは東西二里、南北一里、周圍七里、外廓堤防の延長十里を超え總坪數四百五十萬坪、鹽田面積一千町歩の大鹽田にして鹽庫鹽夫收容所等の設備之に副ふ本年晚秋工事竣成せば年々約一億五千萬斤の鹽を生産する豫定なり内地人百三十餘戸五百八十餘人、朝鮮人三千六百九十戸一萬一千八百人居住し警察署、學校組合、小學校、公立普通學校在り

**三和公園** 園は鎮南浦市街の西端小松茂れる丘阜に沿へり面積約五千坪更に一萬餘坪の果樹園を其西方に控ふ園内花卉庭石を配置して雅致を添へ春花秋月納涼觀雪四季の眺めに適し杖を曳くもの常に絶へず

**飛渡島** 鎮南浦市街の東方大同江に沿へる一小孤島にして前方小飛渡島の燈臺を相對し老松鬱蒼たり亦鎮南浦の一公園たり